

2024 年 7 月

# 食料安全保障月報

## (第 37 号)



令和 6 年 7 月 31 日

**農林水産省**

# 食料安全保障月報について

## 1 意義

我が国は食料の大半を海外に依存していることから、主食や飼料原料となる主要穀物(コメ、小麦、とうもろこし)及び大豆を中心に、その安定供給に向けて、世界の需給や価格動向を把握し、情報提供する目的で作成しています。

## 2 対象者

本月報は、2021年6月まで発行していた海外食料需給レポートに食料安全保障の観点から注目している事項を適宜追加する形で、国民のみなさま、特に、原料の大半を海外に依存する食品加工業者及び飼料製造業者等の方々に対し、安定的に原料調達を行う上での判断材料を提供する観点で作成しています。

## 3 重点記載事項

我が国が主に輸入している国や代替供給が可能な国、それに加えて我が国と輸入が競合する国に関し、国際相場や需給に影響を与える情報(生育状況や国内需要、貿易動向、価格、関連政策等)について重点的に記載しています。

## 4 公表頻度

月1回、月末を目処に公表します。

# 2024年7月食料安全保障月報（第37号）

## 目次

### 概要編

I	2024年7月の主な動き	1
II	2024年7月の穀物等の国際価格の動向	5
III	2024/25年度の穀物需給（予測）のポイント	5
IV	2024/25年度の油糧種子需給（予測）のポイント	5
V	今月の注目情報「米国の生育状況と貿易動向」	6

### （資料）

1	穀物等の国際価格の動向	1 1
2	穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移	1 2
3	穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、品目別）	1 3
4	加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の状況	1 5
5	食品小売価格の動向	1 9
6	海外の畜産物の需給動向（ALIC 提供）	2 0
7	FAO 食料価格指数	2 2

### 今月のコラム

	「米国太平洋岸北西部（PNW）のビール事情」	2 3
--	------------------------	-----

### 品目別需給編

I	穀物	
1	小麦	1
	＜米国＞	2024/25年度の生産量は上方修正され54.7百万トンの見込み
	＜カナダ＞	2024/25年度の生産量は上方修正され35.4百万トンの見込み (AAFC)
	＜豪州＞	7月前半の降雨が主要生産地の小麦の生長を促進
	＜EU27＞	2024/25年度の生産量は上方修正され128.4百万トンの見込み (欧州委員会)
	＜ロシア＞	2024/25年度の収穫は前年度より早いペースで進展も品質低下 の懸念
	＜ウクライナ＞	2024/25年度の収穫は前年度より早いペースで進展
	＜中国＞	2024/25年度の小麦の生産量は138.2百万トン（中国国家統計局）
2	とうもろこし	9
	＜米国＞	作付面積の増加により、生産量は6.1百万トン上方修正
	＜ブラジル＞	2024/25年度の見込みは増加の見込み
	＜アルゼンチン＞	2024/25年度の見込みは、前年度から減少する見込み
	＜ウクライナ＞	2024/25年度の見込みは、前年度より10.6%減の見込み
	＜中国＞	2024/25年度の見込みは、前年度から増加する見込み

3 コメ	15
＜タイ＞	2024/25年度の生産量は、前年度に比べ0.5%増加見込み
＜米国＞	2024/25年度の生産量は、前年度に比べ増加
＜中国＞	2024/25年度の生産量は、前年度に比べ増加
＜インド＞	2024/25年度の生産量は、前年度比で0.7%増加
＜ベトナム＞	2024/25年度の生産量は、前年度並みの27.0百万トンの見込み

## II 油糧種子

大豆	21
＜米国＞	作付面積の減少により、生産量は0.4百万トン下方修正
＜ブラジル＞	2024/25年度の前年度より増加する見込み
＜カナダ＞	作付面積の増加により、生産量は0.2百万トン上方修正
＜中国＞	2024/25年度の前年度より減少する見込み
＜アルゼンチン＞	2024/25年度の前年度より増加する見込み

(参考1) 本レポートに使用されている各国の穀物年度について(2024/25年度)	27
(参考2) 単位換算表	27
(参考3) 各国のクロップカレンダー一覧(主要品目毎)	28

### 【利用上の注意】

表紙写真: カナダのサスカチュワン州カイル市の圃場。4月8日に播種した春撒き小麦の大部分は出穂し、一部は開花している。(サスカチュワン州カイル市2024年7月3日)。

(概要編)

## I 2024年7月の主な動き

### 主要穀物等の需給・相場等について

主要穀物等の2024/25年度の作況について、北半球では冬小麦が収穫期を迎えており、とうもろこし等の作物は生育期を迎えている。なお、南半球では2023/24年度の作物が収穫期を迎えている。

2024/25年度の状況について、品目別にみると、7月の米国農務省（USDA）の需給報告によれば、小麦については、ロシア及びウクライナで単収・収穫面積ともに前年度より減少するものの、米国で単収・収穫面積ともに増加、インドで単収が増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高となる見通し。ロシアのウクライナ侵攻に関連し、2022年3月に過去最高を更新した小麦の国際相場は侵攻時の水準を下回ったものの、ウクライナ産穀物の輸出再開に関する4者合意（黒海穀物イニシアティブ）については2023年7月にロシアが離脱し停止。現在、黒海の臨時回廊からの輸出が順調に機能しているものの、EUの東欧経由での輸出の進捗も含め注視が必要。

とうもろこしについては、ブラジル及びEUで単収・収穫面積ともに前年度より増加、中国で収穫面積が増加するものの、米国で収穫面積の減少、ウクライナで単収・収穫面積ともに減少すること等から、世界全体の生産量は前年度を下回る見通し。

大豆については、ブラジルや米国で単収・収穫面積ともに増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高となる見通し。

いずれの品目も、旺盛な消費需要により期末在庫は依然としてタイトな状況であり、引き続き注視が必要。

FAO（国連食糧農業機関）が公表している食料価格指数については、主に植物油と砂糖、乳製品の価格上昇と穀物の価格低下が同程度となったことにより、5月の120.6から、6月（最新値）は120.6と横ばい（参考：2023年6月123.1、2022年6月154.7、2021年6月125.3、2020年6月93.3）。海上運賃については、バルチック海運指数（穀物輸送等に使用される外航ばら積み船の運賃指数）が、直近5カ年の平均値と同程度の水準で推移。

### 早期注意段階の継続について

緊急事態食料安全保障指針に基づく「早期注意段階」については、2021年7月に、主要輸入農産物の国際価格や海上運賃の上昇、国際的な物流の遅れ等の当時の状況を踏まえて適用。2024年7月も引き続き適用した一方で、主要穀物等の国際相場や海上運賃についてはここ最近下落傾向で推移しており、引き続きその動向に留意。

【参考】早期注意段階について（農林水産省HP）

<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/soukichuui.html>



## ウクライナの生産・輸出動向

USDA の 7 月需給報告によれば、2024/25 年度の小麦の生産量は、収穫面積・単収ともに減少することから、前年度より 15%減少し 1,950 万トンとなる見込み。また、とうもろこしの生産量も、収穫面積・単収ともに減少することから、前年度より 11%減少し 2,770 万トンとなる見込み。2024/25 年度の小麦の輸出量は、生産量及び期首在庫の減少を受け、前年度より 28%減少し 1,300 万トンとなる見込み。とうもろこしの輸出量も前年度より 13%減少し 2,450 万トンとなる見込み。

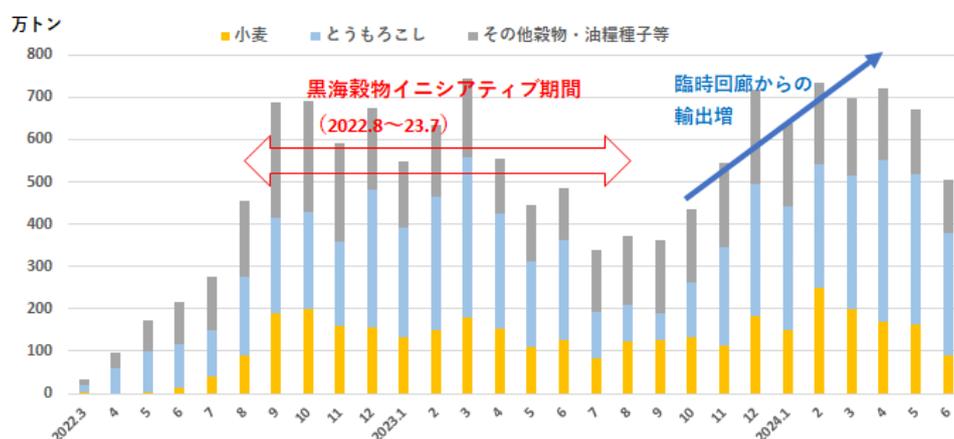
ウクライナ気象センターによれば、6 月末現在、2024 年度の冬小麦は黄熟期若しくは完熟期を迎えており収穫が始まっている。作柄は概ね良好若しくは平年並み。春小麦は乳熟期から黄熟期を迎えており、西部及び東部の一部で水分不足の影響による葉の黄変が発生している。とうもろこしは子葉形成期から開花期を迎えており、作柄は概ね良好であるものの、西部及び南部の一部で水分不足の影響による葉の黄変が発生している。

## 臨時回廊からの輸出状況

2022年7月22日の国連、ウクライナ、ロシア及びトルコの4者によるウクライナ産穀物の黒海経由での輸出再開に関する合意（黒海穀物イニシアティブ）により、同年8月以降、オデーサ港等3港（オデーサ港、チョルノモルシク港、ピブジェヌイ港）からの輸出が再開したが、2023年7月17日にロシアが同イニシアティブからの離脱を表明し、輸出が停止した。ウクライナ農業政策食料省によれば、同イニシアティブ履行期間中の輸出実績（2022年8月～23年7月）は、穀物・油糧種子等6,846万トン（うち、小麦1,728万トン、とうもろこし2,949万トン）。

ウクライナは、ルーマニア・ブルガリアの黒海沿岸を通過する新ルート「臨時回廊」を国際海事機関（IMO）に通報し、2023年8月以降、運用が開始された。現在、臨時回廊や、運河等を利用し、ルーマニアのコンスタンツァ港などを経由した輸出が行われている。輸出ルートのうち、EU域内を経由した輸出（鉄道又はトラック）は減少傾向にある一方、臨時回廊からの輸出量が増加している。ウクライナ農業政策食料省によれば、2023年8月～24年6月までの穀物・油糧種子等の輸出量は6,397万トン（うち小麦1,706万トン、とうもろこし2,747万トン）（参考）。

### （参考）ウクライナの輸出量の推移（月毎）（2022年3月～2024年6月）



出典：農業政策食料省のデータをもとに農林水産省で作成

注：データは港湾、鉄道、陸路などすべての輸出の計。

## 1 EU・ロシア：高温乾燥によりとうもろこしの作柄が悪化

USDA の 7 月需給報告によれば、2024/25 年度の EU のとうもろこしの生産量は、6,400 万トンと、前月から 80 万トン下方修正されたものの、前年度より 5%増加し、平年並みの見込み。収穫面積は 865 万ヘクタールと、前年度より 4%増加するものの、平年を 3%下回る見込み。単収は 7.40 トン/ヘクタールと、前月予測から 1%下方修正されるものの、前年度より 1%増加し、平年を 3%上回る見込み。

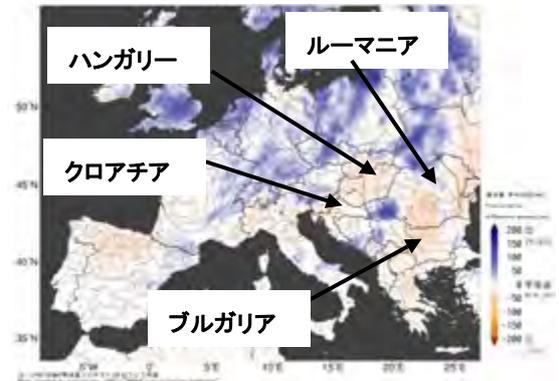
EU のとうもろこしの生産量の下方修正（80 万トン減）は、南東ヨーロッパのルーマニア（40 万トン）、ハンガリー（25 万トン）、クロアチア（10 万トン）、ブルガリア（5 万トン）の下方修正によるもの。灌漑施設に限りがあるバルカン半島の夏作物は高温乾燥の影響を受けやすく、近年、高温乾燥が頻発し、とうもろこしの単収が悪化したことから、農家はとうもろこしの作付けに消極的になっている。7 月上旬、とうもろこしは登熟期を迎えており、高温乾燥の影響を受けたとうもろこしの被害が確認されている。

2024/25 年度のロシアのとうもろこしの生産量は、1,500 万トンと、前月から 40 万トン下方修正され、前年度より 10%減少する見込み。単収は 6.00 トン/ヘクタールと、前月から 3%下方修正され、前年度より 13%減少する見込み。収穫面積は 250 万ヘクタールと、前年度より 4%増加する見込み。

ロシア農務省によれば、春先からロシア南西部で高温乾燥が続いたことから、作付期の土壌水分が不十分となった。6 月上旬の高温の影響により作柄の更なる悪化が懸念されている。

図 1：欧州南東部の降雨量平年対差（2024. 7. 1～7. 15）

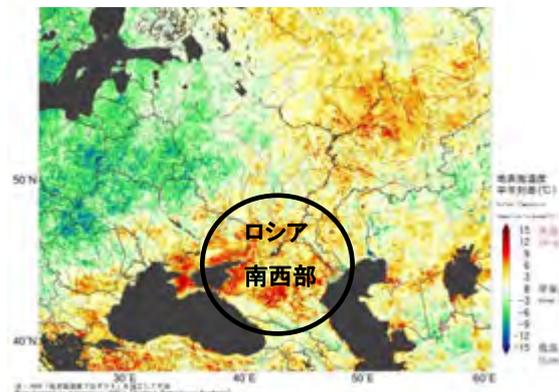
7 月上旬の欧州南東部は高温乾燥



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMAI）

図 2：ロシア南西部の地表面温度平年対差（2024. 6. 1～6. 15）

6 月上旬のロシア南西部は高温乾燥



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMAI）

## 2 パキスタン：コメの生産量が過去最高に

USDA によれば、2024/25 年度のパキスタンのコメ生産量は、良好な作付条件と十分な水供給に恵まれ、前月から 50 万トン上方修正され、前年度より 1%増加し、過去最高の 1,000 万トンを記録する見込み。収穫面積は過去最高の 380 万ヘクタールと前年度より 4%増加する見込み。単収は 3.95 トン/ヘクタールと前月から 5%上方修正されたものの、過去最高を記録した前年度からは 3%下回った。近年の単収の向上は、高単収ハイブリッド米品種の導入によるもの。他の作物と比較してコメの収益性が高いことから、2022/23 年度以降、急速に作付けが増加した。

パキスタンでは、コメは灌漑用水により栽培され、灌漑用水の大部分はタルベラ貯水池より供給されている。パキスタンはバスマティ米及び IRRI 米（白長粒種）の主産国であり、輸出国でもある。2024/25 年度は 590 万トンを輸出する見込みであり、コメの輸出は同国の主要な外貨獲得源となっている。

### 3 中東：紅海における船舶航行の安全確保が困難なため回避

イスラエルとハマスの戦闘が継続する中、報道等によれば、2023年12月以降、イエメンの親イラン武装組織フーシ派が、地中海とインド洋をスエズ運河経由で結ぶ紅海を航行する商船を攻撃しており、海運各社は貨物輸送をアフリカ喜望峰経由等に迂回させている。

また、パナマ運河については、2023年7月以降、降雨不足による水位低下に伴う通航制限が継続している。2024年6月11日、雨季の到来により、パナマ運河庁は7月11日より1日当たりの通航船舶を32隻から33隻に、同22日より34隻に増加すると発表した。

我が国の穀物輸入に関しては、小麦は主に米国・カナダ西海岸及び豪州から輸入しており、上記2つのルートを通過しない。また、ブラジル産穀物等の多くは喜望峰経由で輸入している。

一方、米国産のとうもろこし及び大豆は、メキシコ湾（ガルフ）からパナマ運河経由で輸入している場合が多いが、パナマ運河の通行料の高止まり等の影響により、米国西海岸（PNW）や喜望峰経由に切り替えている例もみられる。喜望峰経由の場合、ガルフからパナマ運河経由で輸入する場合と比較して2週間から3週間程度日数が嵩む。引き続き、今後の動向について注視が必要である。



## II 2024年7月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、6月末、200ドル/トン台前半で推移。7月に入り、輸出成約高が市場予想を上回ったこと等を受けて、210ドル/トン台前半まで上昇。その後、米国の順調な収穫進展や期末在庫の増加等を受けて、190ドル/トン台半ばまで下落したものの、EU等の生産懸念から値を上げ、7月中旬現在、190ドル/トン台後半で推移。

とうもろこしは、6月末、150ドル/トン台後半で推移。7月に入り、米国中西部での高温予報を受けた作柄懸念等を受けて、160ドル/トン台前半まで上昇したものの、米国中西部におけるハリケーンに伴う降雨予報等を受けて下落し、7月中旬現在、150ドル/トン台前半で推移。

コメは、6月末、640ドル/トン台半ばで推移。7月に入り、インドの輸出規制に下支えされながらも、新穀の出回りによるタイ国内価格の低下等から値を下げ、7月中旬現在、600ドル/トン台前後で推移。

大豆は、6月末、420ドル/トン台前半で推移。7月に入り、米国中西部での高温予報を受けた作柄懸念等を受けて、430ドル/トン台後半まで上昇したものの、米国中西部における降雨予報及び米国産の作柄改善等を受けて下落し、7月中旬現在、400ドル/トン台前半で推移。

(注) 小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場（期近物）、コメはタイ国家貿易委員会価格

## III 2024/25年度の穀物需給（予測）のポイント

世界の穀物全体の生産量は、前年度より1.0%増の28.37億トン。消費量は、前年度より0.8%増の28.39億トンとなり、5年連続で生産量が消費量を下回る見込み。

期末在庫量は前年度より減少し、期末在庫率も前年度を下回り27.3%となる見込み（資料2参照）。

生産量は、前年度より、とうもろこしで減少も、小麦、コメで増加し、穀物全体で増加となり、28.37億トンの見込み。

消費量は、前年度より、小麦、とうもろこし、コメで増加し、穀物全体で増加となり、28.39億トンの見込み。

貿易量は、前年度より、コメで増加も、小麦、とうもろこしで減少し、穀物全体で減少し、4.99億トンの見込み。

期末在庫量は、7.74億トンと前年度より減少、期末在庫率も、前年度より減少する見込み。

(注：数値は7月のUSDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」による)

## IV 2024/25年度の油糧種子需給（予測）のポイント

油糧種子全体の生産量は前年度を上回り6.86億トン。消費量は前年度を上回り6.65億トンとなり、前年度に引き続き、生産量が消費量を上回る見込み。

期末在庫量は、前年度より増加し、期末在庫率は前年度を上回る21.7%となる見込み。

(注：数値は7月のUSDA「Oilseeds: World Markets and Trade」等による)

## V 今月の注目情報: 米国の生育状況と貿易動向

USDAは、6月28日、作付面積調査結果を公表した。小麦、とうもろこしの作付面積は前年度から減少し、大豆の作付面積は増加した。現在の生育状況は、小麦、とうもろこし、大豆ともに生育に適した天候に恵まれ順調に生長しており、いずれも作柄は良好で豊作が期待される。輸出については、豊作に伴う価格競争力の高まりから、小麦はロシアをはじめとする主要輸出国、とうもろこし、大豆は主にブラジルとの輸出競争が加熱するとみられる。米国の生産動向とそれを取り巻く貿易動向についてまとめた。

注：文中の「2024/25 年度」等は市場年度で、米国の小麦は 2024 年 6 月から 2025 年 5 月、とうもろこし及び大豆は 2024 年 9 月から 2025 年 8 月。国や作物によって異なる(品目別需給編 P.27 参照)。

### 1 作付面積調査結果

USDA が 6 月 28 日付けで公表した 2024/25 年度の作付面積調査によれば、小麦の作付面積は前年度に比べ 4.7%減少した。このうち生産量の 7 割を占める冬小麦が 8%減少も、デュラムを除く春小麦が 1%増加、デュラム小麦が 29%増加となった。

とうもろこしの作付面積は前年度に比べ 3.3%減少した一方、大豆の作付面積は 3.0%増加した。これは、作付期の価格が、とうもろこしより大豆の作付けに有利であったことから、とうもろこしから大豆に作付けがシフトしたことが要因とみられる。

6 月 28 日のシカゴ相場のとうもろこし価格は、とうもろこしの作付面積及び四半期在庫が市場予想を上回ったことから大きく下落した。小麦価格も、四半期在庫が市場予想を上回ったことや、とうもろこしの下落に連れて下落。大豆価格は、作付面積は市場予想をわずかに下回ったものの、四半期在庫が市場予想を上回ったことから下落した。

### 2 米国の品目ごとの生育状況

#### (1) 小麦

USDA 「Crop Progress」(2024.7.15)によれば、冬小麦は収穫期終盤を迎えており、7 月 14 日現在の収穫進捗率は 71%。前年同期(53%)及び過去 5 年平均(62%)をいずれも上回っている。作柄評価については、シーズンを通して生育に適した天候に恵まれ、6 月 30 日時点で「やや良～良」の割合が 51%となっており、乾燥の影響を受けた前年同期の 40%を上回った。他方、春小麦は出穂期を迎えており、7 月 14 日現在の出穂進捗率は

表1 米国の小麦、とうもろこし、大豆の作付面積、収穫面積

	小麦	とうもろこし	大豆
作付面積 対前年度比	4,724 ▲4.7%	9,148 ▲3.3%	8,610 +3.0%
収穫面積予測 対前年度比	3,879 +4.1%	8,344 ▲3.6%	8,526 +3.5%

資料：米国農務省「Acreage」(2024.6.28)  
注：1エーカーは約0.4ha

表2 米国の小麦、とうもろこし、大豆の四半期在庫

	小麦	とうもろこし	大豆
2023年6月	15,501	104,229	21,674
2024年6月	19,107	126,832	26,399
対前年度比	+3.3%	+21.7%	+21.8%

資料：米国農務省「Grain Stocks」(2024.6.28)

表3 米国作付面積報告を受けた価格動向(シカゴ穀物取引所の期近価格)

	6月27日	6月28日	対前日比
小麦	5.60 ⇨	5.54	▲1.1%
とうもろこし	4.14 ⇨	3.97	▲4.0%
大豆	11.52 ⇨	11.51	▲0.2%

写真1 イリノイ州の冬小麦

収穫作業の様子(2024.7.3)



撮影者：ブライアン・スコット氏

76%。前年同期（82%）を下回るものの、過去5年平均（78%）とほぼ同水準となっている。作柄評価については、適時適切な降雨と気温に恵まれ「やや良～良」の割合が77%と、前年同期の51%を上回っている。

USDA 7月需給報告によれば、2024/25年度の米国の小麦生産量は5,466万トンと、前月予測から364万トン上方修正され、前年度から535万トン増加する見込み。

### （2）とうもろこし

USDA「Crop Progress」によれば、7月14日現在、とうもろこしはシルキング期を迎えており、シルキング進捗率は41%。前年同期（40%）、過去5年平均（32%）をいずれも上回っている。主産地の中西部で、4月から5月にかけての頻繁な降雨（図1）により作付作業に遅れが生じたが、5月中旬以降、急ピッチで進展した。その後、概ね生育に適した天候に恵まれ作物は順調に生長し、作柄評価は「やや良～良」の割合が68%と、前年同期（57%）を上回っている。

USDA「Feed Outlook」（2024.7.16）によれば、受粉期を迎える今後数週間の気温と降雨が作柄の決定に大きな影響を与えるといわれており、7月終盤から8月にかけての天候に注視が必要となる。

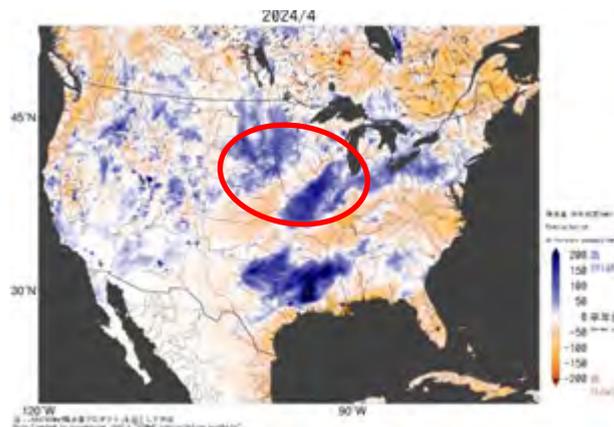
USDA 7月需給報告によれば、2024/25年度の米国のとうもろこし生産量は3億8,356万トンと、前月予測から610万トン上方修正されたものの、前年度からは613万トン減少する見込み。

### （3）大豆

USDA「Crop Progress」によれば、7月14日現在、大豆は開花期を迎えており、開花進捗率は51%。前年同期並みであり、過去5年平均（44%）を上回っている。概ね生育に適した天候に恵まれ、作柄評価は「やや良～良」の割合が68%と前年同期（55%）を上回っている。大豆については、開花期を迎える7月から8月までの気温と降雨が作柄の決定に大きな影響を与えるといわれており、今後の天候に注視が必要となる。

図1：北米の降水量の年対差（2024.4）

4月の中西部の降水量は平年を超過



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMAI）

写真2 イリノイ州のとうもろこし  
殺菌剤散布の様子（2024.7.2）



撮影者：キップ・トムス氏

写真3 アーカンソー州の大豆  
防カビ剤噴霧の様子（2024.5.30）



撮影者：マット・マイルズ氏

USDA 7月需給報告によれば、2024/25年度の米国の大豆生産量は1億2,070万トンと、前月予測から41万トン下方修正されるものの、前年度からは736万トン増加する見込み。

### 3 各国の生産・貿易動向

#### (1) 小麦

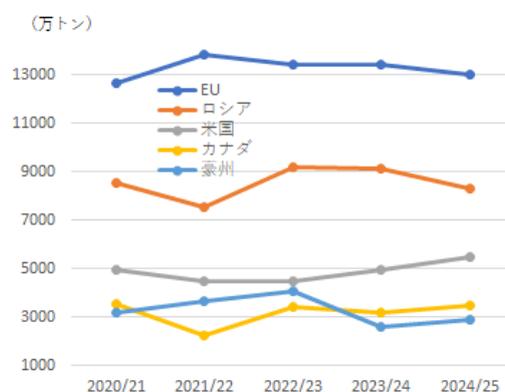
USDA 7月需給報告によれば、2024/25年度の米国産小麦の輸出量は2,245万トンと、前月予測から68万トン上方修正され、前年度から321万トン増加する見込み。これは、生産量の増加に伴い、世界市場で価格競争力が高まると見込まれるため。主要輸出先はメキシコを筆頭にアジア諸国となっている。

一方、他の主要小麦輸出国について、ロシアは、季節外れの霜害と高温乾燥により、2024/25年度の実産量は8,300万トンと、前年度から850万トン減少する見込み。輸出量は4,800万トンと、過去最高を記録した前年度から750万トン減少するものの、米国の輸出量を大きく上回り、5年連続で世界第1位の輸出国を維持する見込み。ロシア政府は、7月より穀物の輸出関税率の実質的な引き下げを行っており、引き続き価格競争力を維持するとみられる。今後も対ロシア制裁を実施していない中東諸国及び北アフリカを中心に輸出を継続しつつ、低価格を強みとしてアジア等へ販路の拡大を図るとみられる。

EUについては、2024/25年度の実産量は1億3,000万トンと、降雨過多により前年度から415万トン減少し、2020/21年度以来の低水準となる見込み。輸出量についても3,450万トンと、生産減に伴い前年度より250万トン減少する見込み。主要輸出先はアフリカ諸国である。

豪州については、2024/25年度の実産量は2,900万トンと、エルニーニョ現象による高温乾燥により大幅に減産した前年度に比べ300万トン増加する見込み。輸出量についても2,200万トンと、前年度から200万トン増加する見込み。主要輸出先は中国を始めとするアジア諸国である。同じく、アジア諸国を主要輸出先とするカナダについても、2024/25年度の実産量は3,500万トンと、高温乾燥で減産した前年度から305万トン増加する見込み。輸出量については2,500万トンと、前年度と同水準の見込み。

図2 主要小麦輸出国の生産量推移  
(2020/21～2024/25年度)

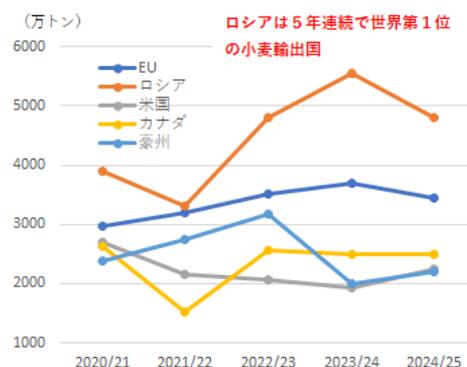


出典：USDA「PS&D」をもとに農林水産省にて作成

写真4 フランス ヴェル・ドワーズ県  
降雨過多が畑作業に悪影響を及ぼし、  
雑草が繁茂する圃場 (2024. 7. 3)



図3 主要小麦輸出国の輸出量推移  
(2020/21～2024/25年度)



出典：USDA「PS&D」をもとに農林水産省にて作成

## (2) とうもろこし

USDA によれば、2024/25 年度の米国産とうもろこしの輸出量は 5,652 万トンと、前月予測から 64 万トン上方修正され、2 年連続で世界第 1 位の輸出国の座を維持する見込み。米国産とうもろこしは価格競争力があり、今後も輸出市場を獲得し続けることが期待される。主要輸出先はメキシコ、中国及びアジア諸国となっている。

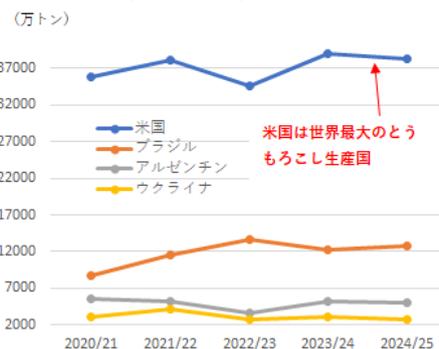
一方、主要なとうもろこし輸出国であるブラジルの 2023/24 年度の生産量は 1 億 2,200 万トンと、主力の冬とうもろこしがエルニーニョ現象による高温乾燥により減産したこと等から、前年度より 1,500 万トン減少し、輸出量も 5,000 万トンと、生産量の減少に伴い前年度より 426 万トン減少する見込み。2024/25 年度の見込みについては、とうもろこしの作付作業が 9 月以降に開始されるため予想の域を出ないが、エルニーニョ現象の収束に伴う好天への期待から、1 億 2,700 万トンと前年度より 500 万トン増加すると見込まれている。輸出量については 4,900 万トンと、期首在庫の減少と国内需要の増加により 100 万トン減少すると見込まれている。

アルゼンチンについては、2023/24 年度の見込み生産量は 5,200 万トンと、一部で病害虫のヨコバイによる被害を受けたものの、全体としてはエルニーニョ現象により生長に適した降雨に恵まれ、前年度より 1,600 万トン増加する見込み。輸出量も 3,700 万トンと、前年度より 1,176 万トン増加する見込み。2024/25 年度の見込みについては、ブラジル同様 9 月以降に作付作業が開始されるため、現時点では予想の域を出ないが、5,100 万トンと前年度より 100 万トン減少すると見込まれている。これは、ヨコバイによる被害が生産農家の作付意欲に負の影響を及ぼしているほか、とうもろこし価格の下落により収益が見込める大豆に作付けがシフトすることが見込まれるためとみられる。輸出量については 3,600 万トンと、生産減に伴い 100 万トン減少すると見込まれている。

ウクライナについては、2024/25 年度の見込み生産量は 2,770 万トンと、ロシアの侵攻による収穫面積の減少や高温乾燥により前年度より 330 万トン減少する見込み。輸出量も 2,450 万トンと、前年度より 350 万トン減少する見込み。

世界最大のとうもろこし輸入国である中国は、従来は主に米国産及びウクライナ産とうもろこしを輸入してきたが、2022 年 2 月のロシアによるウクライナ侵攻を受け、同年 11 月から

図 4 主要とうもろこし輸出国の生産量推移 (2020/21~2024/25 年度)



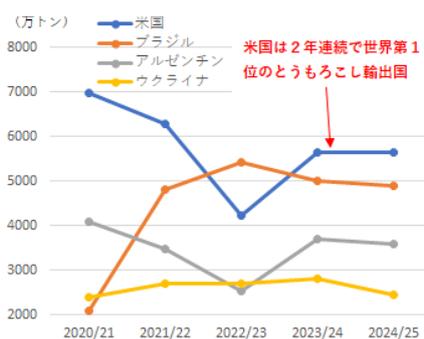
出典：USDA「PS&D」をもとに農林水産省にて作成

写真 5 アルゼンチン サンタフェ州  
とうもろこしの作柄は良好 (2024. 6. 26)



撮影者：José Daniel Peloni

図 5 主要とうもろこし輸出国の輸出量推移 (2020/21~2024/25 年度)



出典：USDA「PS&D」をもとに農林水産省にて作成

ブラジル産とうもろこしの輸入を開始した。その後ブラジルからの輸入が急激に増加し、中国税関によれば、2024年1～5月のブラジルからのとうもろこし輸入量は576万トン、ウクライナからは296万トン、米国からは116万トンと、ブラジルからの輸入量が米国からの輸入量を大きく上回る状況となっている。中国は、食料安全保障の観点から、穀物の国内生産を拡大し、食料の輸入依存の増加に歯止めをかけ、輸入先国を多角化する政策を推し進めており、本年7月からアルゼンチン産とうもろこし輸入が15年ぶりに再開する見通し。アルゼンチンは、米国、ブラジルに次ぐ世界第3位のとうもろこし輸出国であり、今後、中国市場において、従来からの米国、ブラジル、ウクライナにアルゼンチンを加えた4か国の輸出競争が繰り広げられるとみられる。

### (3) 大豆

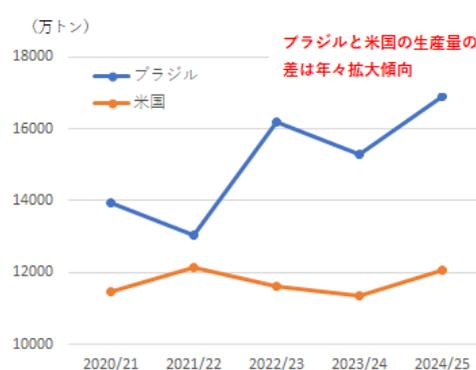
USDAによれば、2024/25年度の米国産大豆の輸出量は、4,967万トンと、生産量の増加を受け、前年度より340万トン増加する見込み。主要輸出先は中国である。

また、ブラジルの2023/24年度の大豆生産量は1億5,300万トンと、エルニーニョ現象による高温乾燥により減産し、前年度より900万トン減少するものの、2年連続で生産量が高水準となったことによる価格競争力と中国向け輸出が堅調なことから、輸出量は1億300万トンと、前年度から750万トン増加し、世界第1位の輸出国を維持する見込み。

2024/25年度の実績については1億6,900万トンと、大豆の作付作業が9月以降に開始されるため予想の域を出ないが、エルニーニョ現象の収束に伴う好天への期待から前年度より大幅に増加し、史上最高を記録すると見込まれている。輸出量についても1億500万トンと、前年度に引き続き史上最高を更新すると見込まれている。

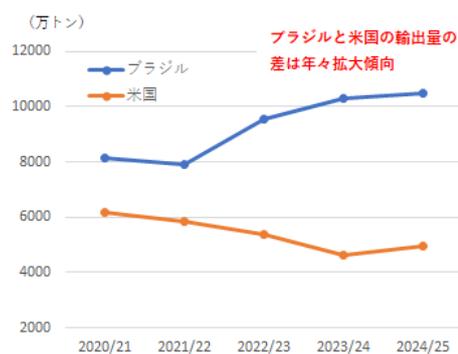
米国及びブラジルの主要輸出先である中国は、世界全体の大豆輸入量の6割を占める世界最大の大豆輸入国である。また、中国は、大豆輸入の9割以上を米国とブラジルから輸入しており、今後も中国市場において、米国とブラジルによる輸出競争が繰り広げられるとみられる。

図6 主要大豆輸出国の生産量推移  
(2020/21～2024/25年度)



出典：USDA「PS&D」をもとに農林水産省にて作成

図7 主要大豆輸出国の輸出量推移  
(2020/21～2024/25年度)

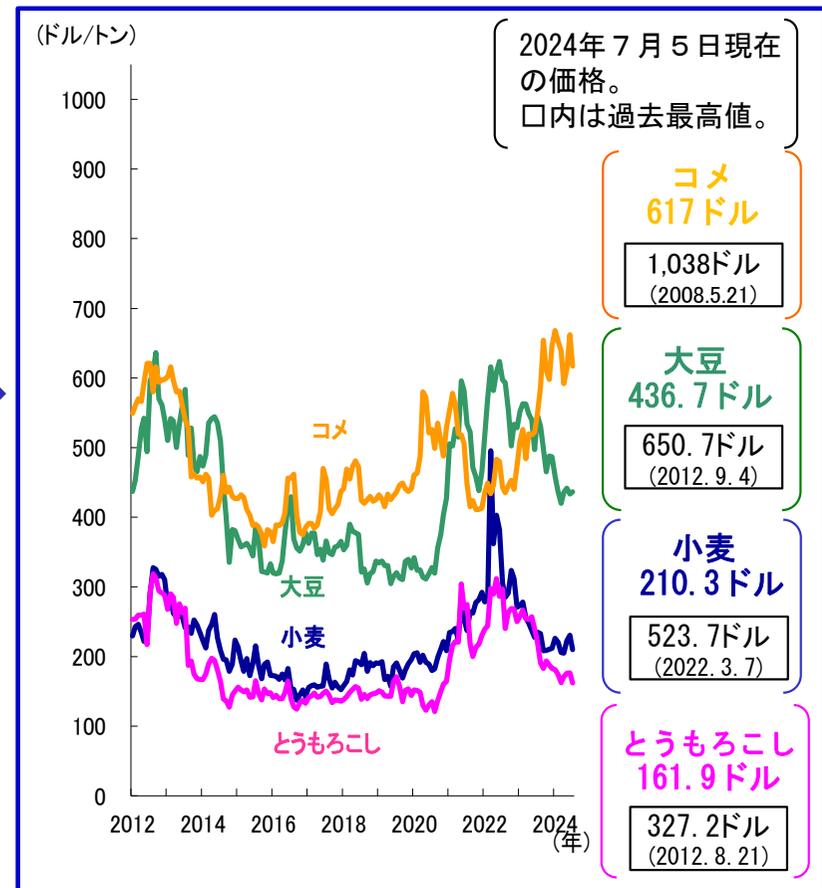
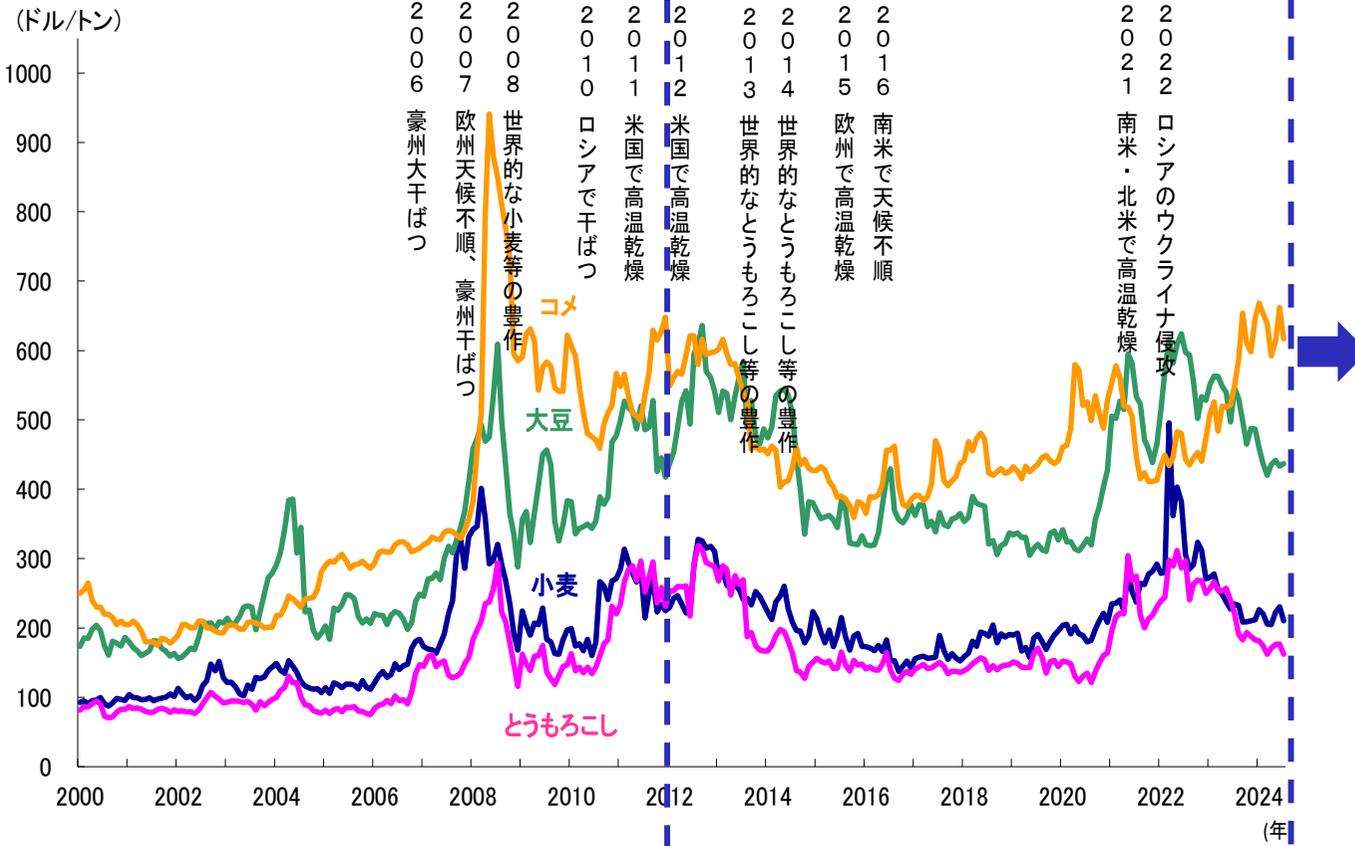


出典：USDA「PS&D」をもとに農林水産省にて作成

# 資料 1 穀物等の国際価格の動向 (ドル/トン)

- とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な豊作等から穀物等価格は低下。2020年後半から南米の乾燥、中国の輸入需要の増加、2021年の北米の北部の高温乾燥等により上昇。2022年、ロシアのウクライナ侵攻により、小麦は史上最高値を更新も、ウクライナからの臨時回廊等による輸出再開などもあり侵攻前の水準まで低下。一方で、とうもろこし、大豆はウクライナ侵攻時に高騰も、ブラジル等の豊作から侵攻前の水準まで低下。コメは、2013年以降低下で推移も、2022年9月以降、インドの輸出規制導入と強化、インドネシアのエルニーニョによる減産を受けた需要増等から上昇。
- 穀物等価格は、新興国の畜産物消費の増加を背景とした堅調な需要やエネルギー向け需要に加え、ウクライナ情勢により、2008年以前を上回る水準で推移。

## □ 穀物等の国際価格の動向

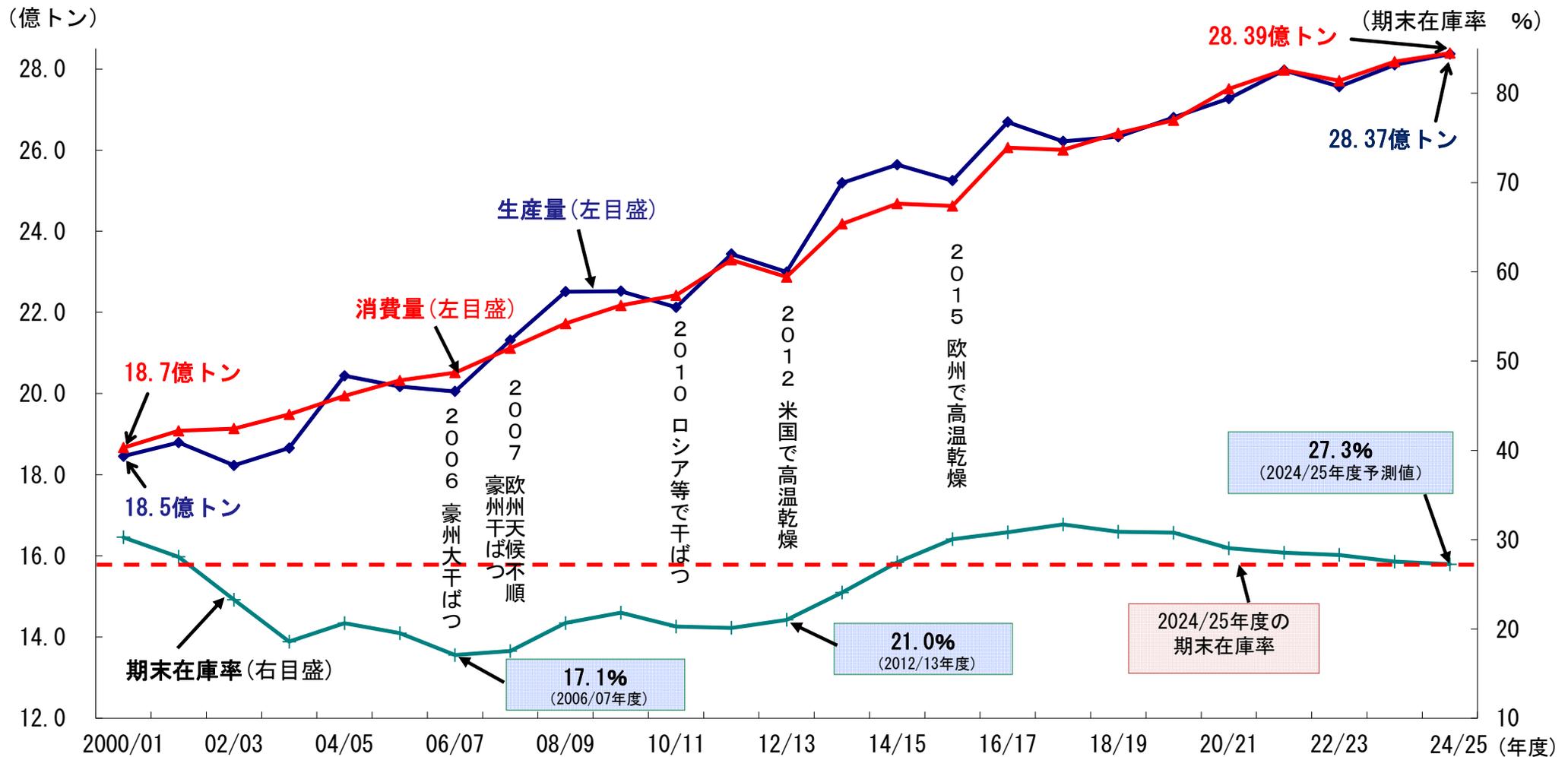


注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格(セトルメント)である。コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。  
 注2：過去最高価格については、コメはタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、コメ以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

## 資料2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2024/25年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2024/25年度の期末在庫率は、消費量が生産量を上回り、前年度より減少し、27.3%。過去の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

### □ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移

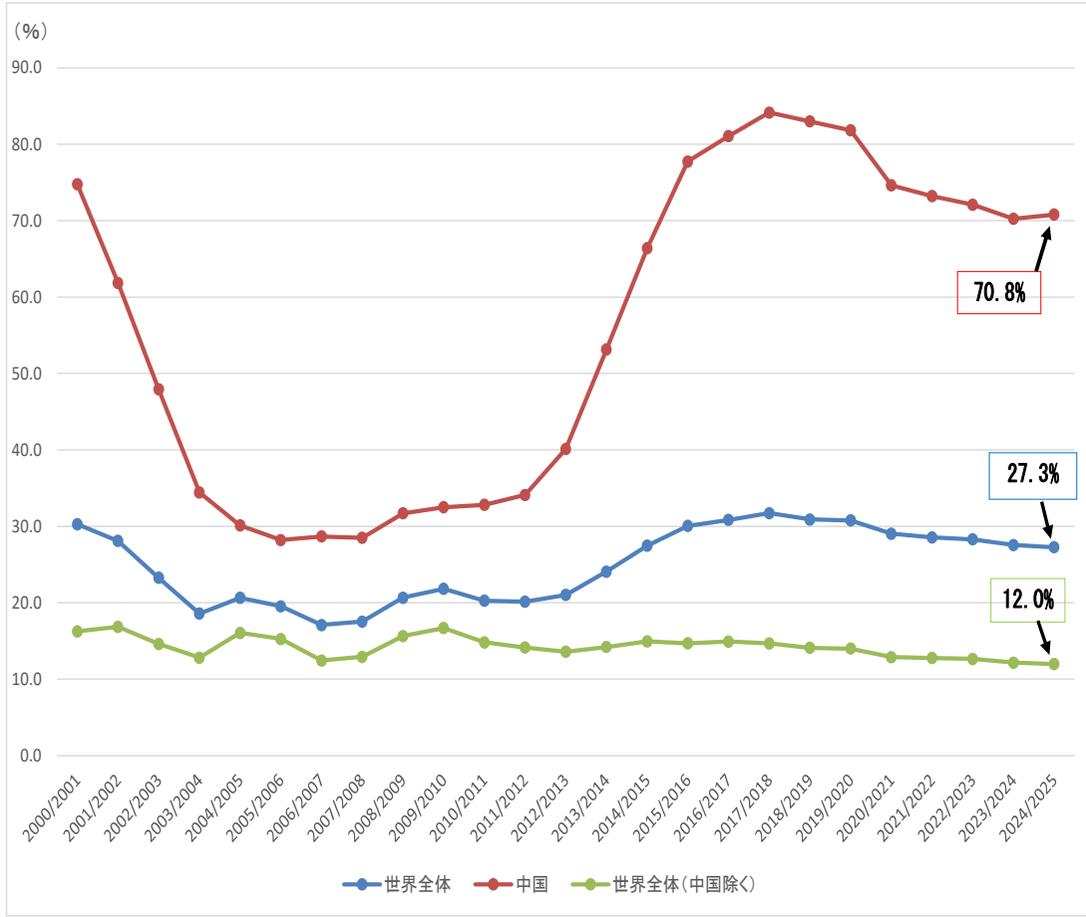


資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(July 2024)、「PS&D」

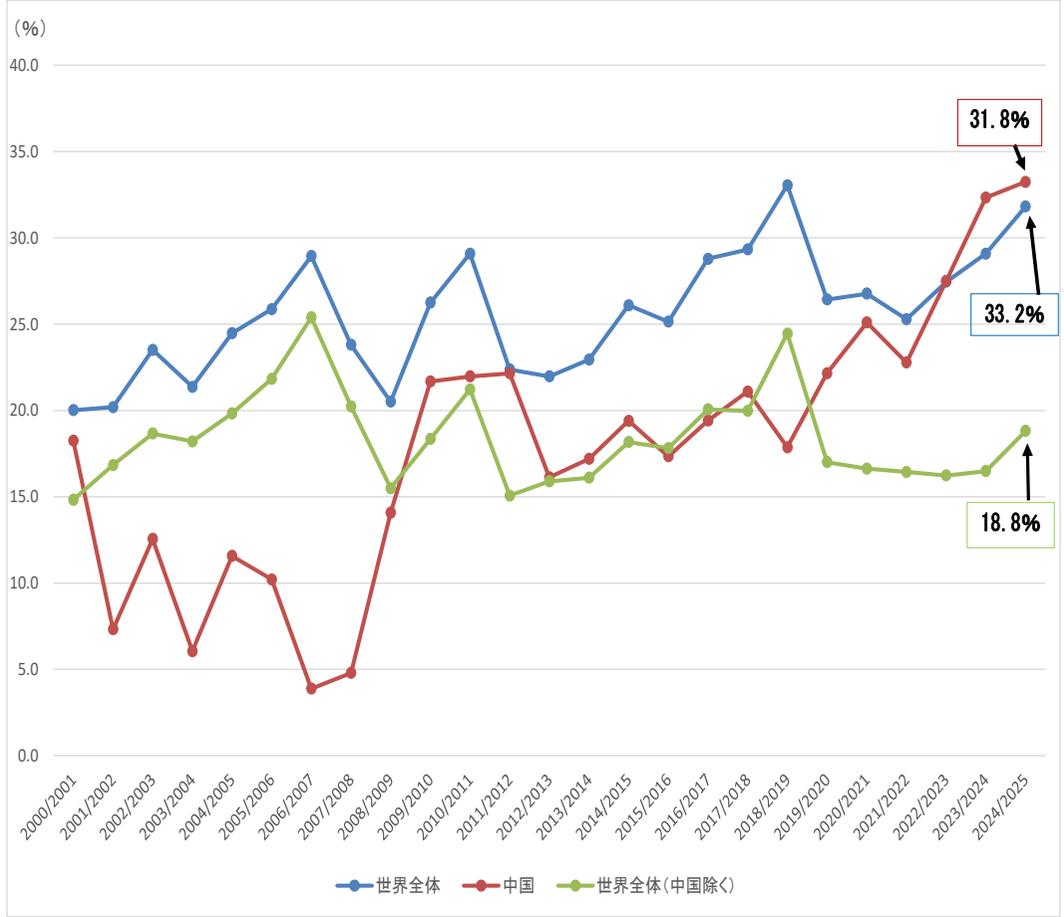
(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。

# 資料 3-1 穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、大豆）

○ 穀物全体の期末在庫率の推移



○ 大豆の期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(July 12, 2024)

注: 1) 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等(大豆除く)。

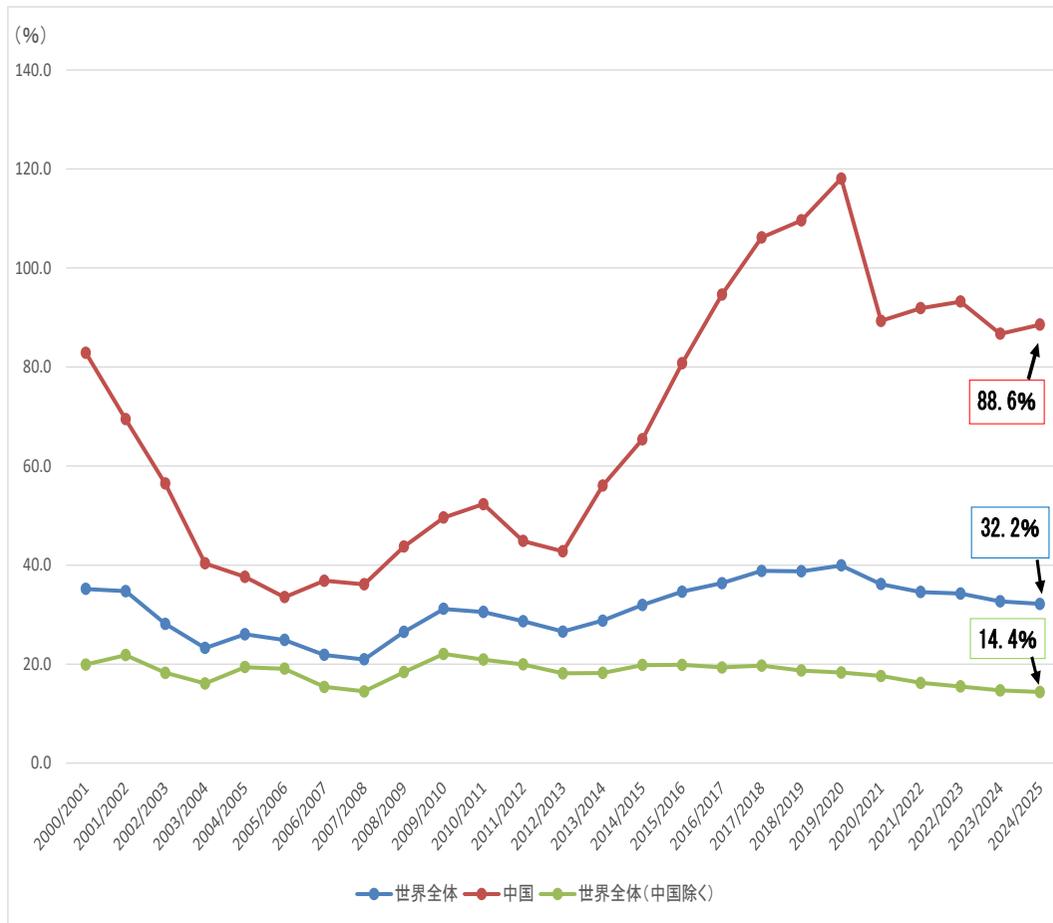
2) 世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / (消費量 + 輸出量 - 輸入量) × 100 ※ただし大豆については、世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / 消費量 × 100

3) 中国の期末在庫率(%) = 中国の期末在庫量 / (中国の消費量 + 中国の輸出量) × 100

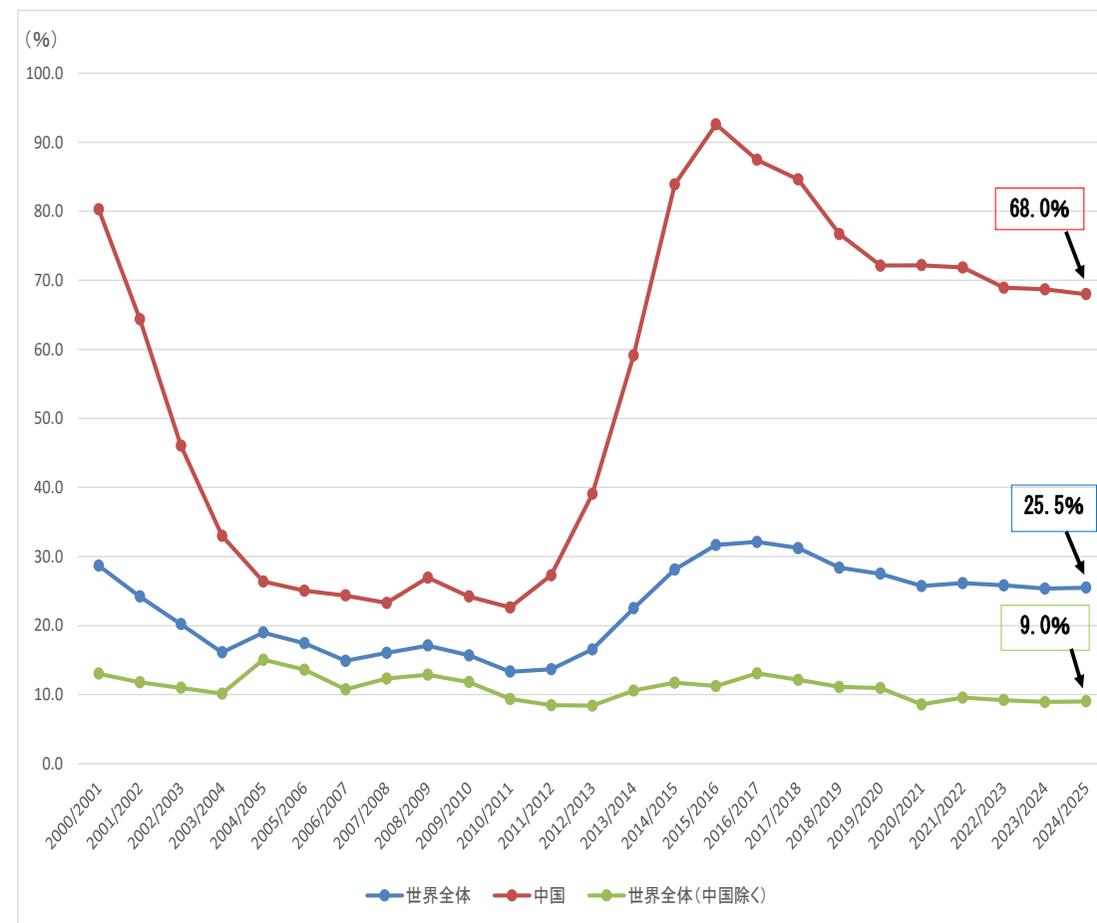
4) 中国除く期末在庫率(%) = 中国除く期末在庫量 / (中国除く消費量 + 中国除く輸出量) × 100

# 資料 3-2 穀物等の期末在庫率の推移（小麦、とうもろこし）

○ 小麦の期末在庫率の推移



○ とうもろこしの期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(July 12, 2024)

注: 1)小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

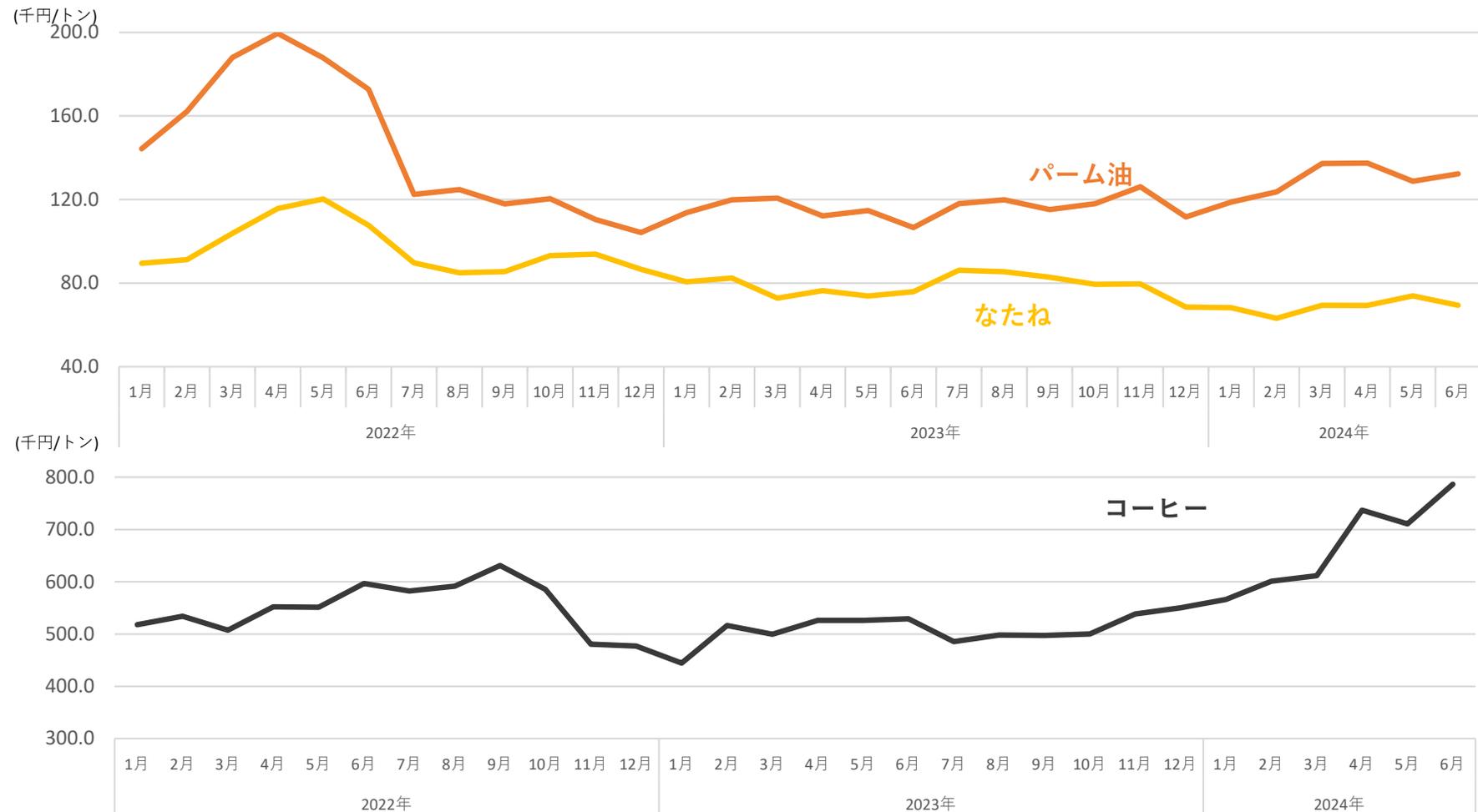
2)世界の期末在庫率(%)=期末在庫量/(消費量+輸出量-輸入量)×100

3)中国の期末在庫率(%)=中国の期末在庫量/(中国の消費量+中国の輸出量)×100

4)中国除く期末在庫率(%)=中国除く期末在庫量/(中国除く消費量+中国除く輸出量)×100

# 資料4-1 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の動向

- なたね、パーム油の需要の面では、世界的な人口増加や中国等における所得水準の向上による食用油需要の拡大、エネルギー向け需要の増加などにより市場価格上昇の要因となっている。
- なたね、パーム油の供給の面では、なたねについては、2021年に主産地であるカナダで減産があったが、2022年以降は回復基調から平年並みの収量に近づいた。パーム油については、インドネシアの輸出禁止措置（2022年5月23日解除）があったが、マレーシアの生産量の増加によって供給不足の懸念が払拭された。いずれも2022年の高値からは落ち着きが見られるものの、依然高止まりしている。
- コーヒーについて、2021年以降、世界最大の生産国であるブラジルにおける天候不順による収穫量減少や世界的な物流の混乱等により、市場価格が上昇した。その後、消費地のインフレによる景況感の悪化やブラジルにおける収穫量の回復等により、市場価格は一時下降したが、ブラジルにおける天候不順やベトナムにおける干ばつによる収穫量減少等により、2024年以降は再び市場価格が高騰している。



2024年7月19日現在  
□内は2022年1月以降の最高値。

パーム油  
132.2 千円/トン  
199.5 千円/トン (2022.4)

なたね  
69.4 千円/トン  
120.3 千円/トン (2022.5)

コーヒー  
786.3 千円/トン  
786.3 千円/トン (2024.6)

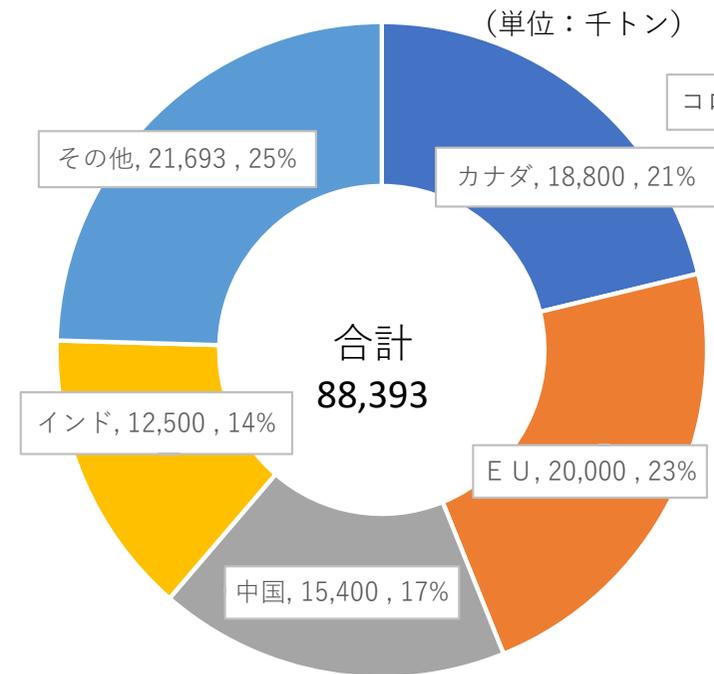
※ なたねの国際価格についてはカナダウィニペグ菜種市場の先物価格（期近物）を、パーム油の国際価格についてはマレーシアパーム油市場の先物価格（期近物）を、コーヒーの国際価格については国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均を用い、為替レートから円に換算して算出。

# 資料4-2 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の生産量及び輸入先

## ○主要生産国の生産状況

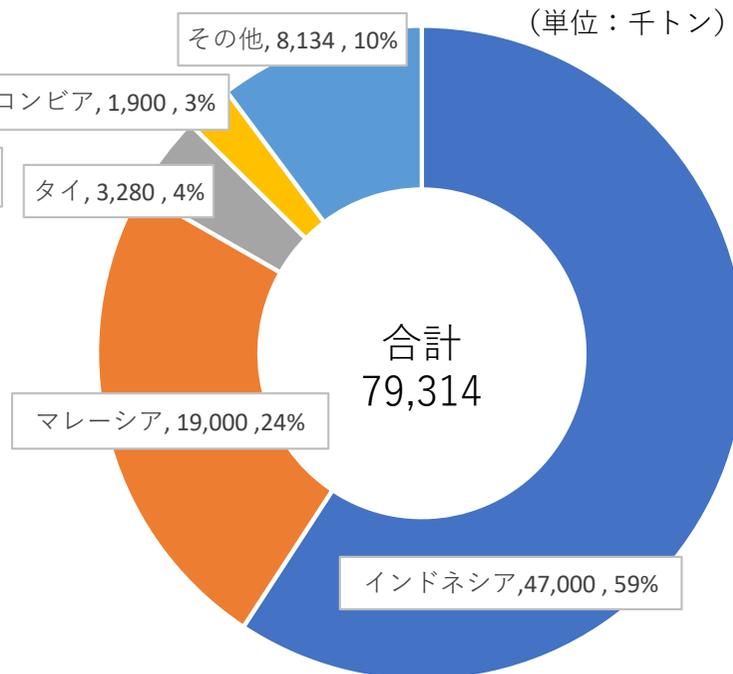
なたね生産量（2023/24）

（単位：千トン）



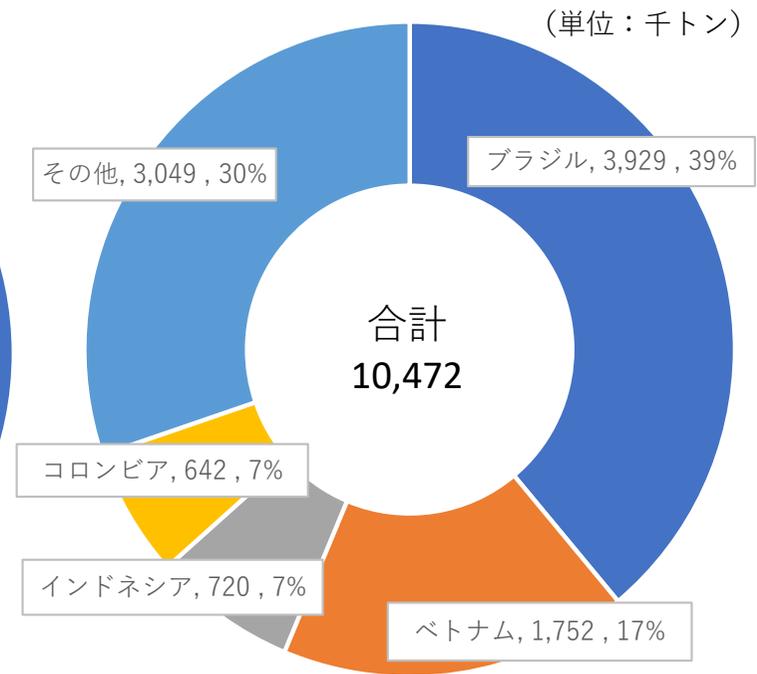
パーム油生産量（2023/24）

（単位：千トン）



コーヒー生産量（2022/23）

（単位：千トン）



※米国農務省（Oilseeds: World Markets and Trade）  
2024年6月時点

※米国農務省（Oilseeds: World Markets and Trade）  
2024年6月時点

※国際コーヒー機関（ICO）統計資料  
2024年6月時点

## ○我が国の主な輸入先の状況（単位：千トン（2023年））

なたね	輸入量	割合
カナダ	1,039	51.4%
オーストラリア	983	48.6%
その他	0	0.0%
<b>合計</b>	<b>2,022</b>	<b>100.0%</b>

※財務省「貿易統計」（HSコード：1205）

パーム油	輸入量	割合
マレーシア	574	85.6%
インドネシア	96	14.4%
その他	0	0.1%
<b>合計</b>	<b>671</b>	<b>100.0%</b>

※財務省「貿易統計」（HSコード：1511）

コーヒー	輸入量	割合
ブラジル	124	35.0%
ベトナム	99	27.9%
コロンビア	34	9.6%
その他	98	27.6%
<b>合計</b>	<b>356</b>	<b>100.0%</b>

※財務省「貿易統計」（HSコード：0901.11～0901.12）



# 資料4-4 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移②

## ③ コーヒー

単位（千円/トン）

	2022年												2023年												2024年												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
コーヒー	517.9	534.1	507.5	552.1	551.2	596.8	582.3	591.6	631.1	585.4	480.6	477.0	444.4	516.3	499.6	526.2	526.1	529.1	485.5	498.1	497.4	500.3	538.5	550.2	566.3	601.1	611.7	737.0	710.8	786.3							
前月比	100.6	103.1	95.0	108.8	99.8	108.3	97.6	101.6	106.7	92.8	82.1	99.2	93.2	116.2	96.8	105.3	100.0	100.6	91.8	102.6	99.9	100.6	107.6	102.2	102.9	106.2	101.8	120.5	96.5	110.6							
前年同月比	194.1	190.6	172.9	188.0	169.5	172.9	158.3	152.4	151.4	128.4	98.8	92.7	85.8	96.7	98.5	95.3	95.4	88.7	83.4	84.2	78.8	85.5	112.0	115.4	127.4	116.4	122.4	140.1	135.1	148.6							

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ

注1 国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均から算出

注2 ICO複合指標価格は、米国、ドイツ、フランスの3大市場の現物の成約価格を収集しICOの定める方法で4品種ごとの加重平均値を算出したもの。

# 資料5 食品小売価格の動向

○ 令和6年6月の国内の加工食品の消費者物価指数は113.8～152.3(前年同月比で-8.1%～7.7%)の範囲内。

**消費者物価指数(総務省)**  
(令和6年1月～令和6年6月)

品目	H30	H31 (R元)	R2	R3	R4	R5	R6						上昇率 (前年 同月比)
	平均	平均	平均	平均	平均	平均	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
食パン	100.2	101.1	100.0	99.2	110.3	118.7	122.1	121.8	122.1	121.9	121.7	122.0	6.1%
即席めん	95.3	98.5	100.0	100.1	107.6	119.7	122.2	125.2	123.9	123.5	124.6	121.4	-2.3%
豆腐	98.8	99.1	100.0	101.3	105.3	114.6	116.9	117.5	117.6	118.0	117.9	117.9	2.4%
食用油 (キャノーラ油)	101.5	100.9	100.0	106.9	144.4	160.2	152.8	151.3	148.3	148.0	147.8	149.0	-8.1%
みそ	97.4	99.1	100.0	99.3	101.3	108.1	111.5	112.6	112.9	113.3	113.2	113.8	5.7%
マヨネーズ	100.8	100.7	100.0	105.6	125.6	149.5	153.5	154.2	153.4	153.7	153.4	152.3	-0.4%
チーズ	100.9	101.3	100.0	98.7	107.5	131.1	133.0	132.7	134.5	135.3	130.5	132.6	-1.6%
バター	99.5	99.9	100.0	99.9	99.2	108.6	119.0	119.1	118.8	120.2	120.5	120.0	7.7%
生鮮食品を 除く食料	97.9	99.0	100.0	100.2	104.1	112.6	115.0	115.1	115.3	115.5	115.7	115.9	2.8%

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。

資料: 総務省消費者物価指数

**【参考】**  
**食品価格動向調査(農林水産省)**  
(令和6年1月～令和6年7月)

品目	H30	H31 (R元)	R2	R3	R4	R5	R6							上昇率 (前年 同月比)	上昇率 (前年 同月比)
	平均	平均	平均	平均	平均	平均	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月		
食パン	97.9	101.3	100.0	98.6	107.8	114.5	117.6	117.4	118.6	115.0	117.8	118.9	118.2	-0.6%	1.5%
即席めん	92.4	97.9	100.0	99.2	105.6	117.5	119.8	121.0	121.0	117.3	119.8	114.9	121.0	5.3%	-1.5%
豆腐	100.1	100.9	100.0	100.6	103.7	113.0	114.6	114.6	115.0	118.9	116.7	115.0	115.9	0.8%	1.1%
食用油 (キャノーラ油)	97.9	103.5	100.0	104.1	140.7	159.4	153.3	151.4	150.5	145.1	145.1	144.1	142.9	-0.8%	-10.7%
みそ	96.6	100.4	100.0	99.2	100.1	105.9	110.2	110.4	110.2	106.7	108.1	109.2	110.0	0.7%	4.8%
マヨネーズ	97.9	103.1	100.0	102.2	117.7	139.8	144.1	144.4	143.4	140.3	138.6	141.3	140.3	-0.7%	-2.6%
チーズ	98.6	100.9	100.0	98.1	105.7	126.5	125.8	128.8	129.8	123.8	121.3	127.8	129.3	1.2%	-0.8%
バター	99.0	99.5	100.0	99.8	99.1	108.0	118.3	118.5	118.5	119.7	119.4	119.7	119.7	0.0%	7.5%

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。

注2: 調査は原則、各都道府県10店舗で実施。平成30年9月までは週1回、同年10月以降は月1回実施。

注3: 調査結果は調査期間中の平均値で算出。

注4: 令和2年4～5月、令和3年1～3月、同5～9月については、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の対象都道府県においては調査を中止。そのためそれぞれ前月の値とは接続しない。

## 資料 6-1 海外の畜産物の需給動向（ALIC提供）

○独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は毎月25日頃に海外の畜産物の需給動向を公表（月報 畜産の情報）

○2024年8月号（7月25日に公表）の各品目の主な動きは以下の通り

『月報 畜産の情報』

### ◆牛肉

（米国）平均枝肉重量の増加により牛肉生産量はわずかに増加

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003325.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003325.html)

（豪州）24年6月の肉牛価格、一部の乾燥気候を背景に下落傾向で推移

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003326.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003326.html)

（アルゼンチン）24年1～5月の牛肉生産量は前年同期比で減少、一方、輸出量は増加

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003327.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003327.html)

### ◆豚肉

（米国）豚肉卸売価格は高値で推移、1～4月の輸出量はかなりの程度増加

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003328.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003328.html)

（カナダ）1～4月の豚肉輸出量は中国、米国向けを除き大幅増

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003329.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003329.html)

（EU）豚肉生産量、3カ月ぶりに前年同月を下回る

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003330.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003330.html)

（中国）24年4月末の繁殖雌豚頭数は前年同月比7.0%減

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003331.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003331.html)

## 資料 6-2 海外の畜産物の需給動向（ALIC提供）

### ◆牛乳・乳製品

(EU) 24年6月のバター価格、22年後半以来の1トン当たり6000ユーロ超に

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003333.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003333.html)

(豪州) 生乳生産量は好調も、生乳需要の低迷を受け次年度乳価は引き下げ

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003334.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003334.html)

(NZ) 生乳生産は回復の兆し、GDT平均取引価格は乳脂肪と乳タンパク質で明暗

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003335.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003335.html)

※GDT価格…グローバルデイレートレード価格

### ◆飼料穀物

(世界：トウモロコシ) 生産量、期末在庫は引き続き微減も高水準の見通し

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003336.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003336.html)

(世界：大豆) 主要国での生産増などから、大豆期末在庫は大幅増の見込み

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003337.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003337.html)

(米国) 米国の生産量はやや減少、生産者価格は前年度に続き下落

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003338.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003338.html)

(ブラジル) 23/24年度トウモロコシおよび大豆の生産量予測、いずれも前年度を下回る

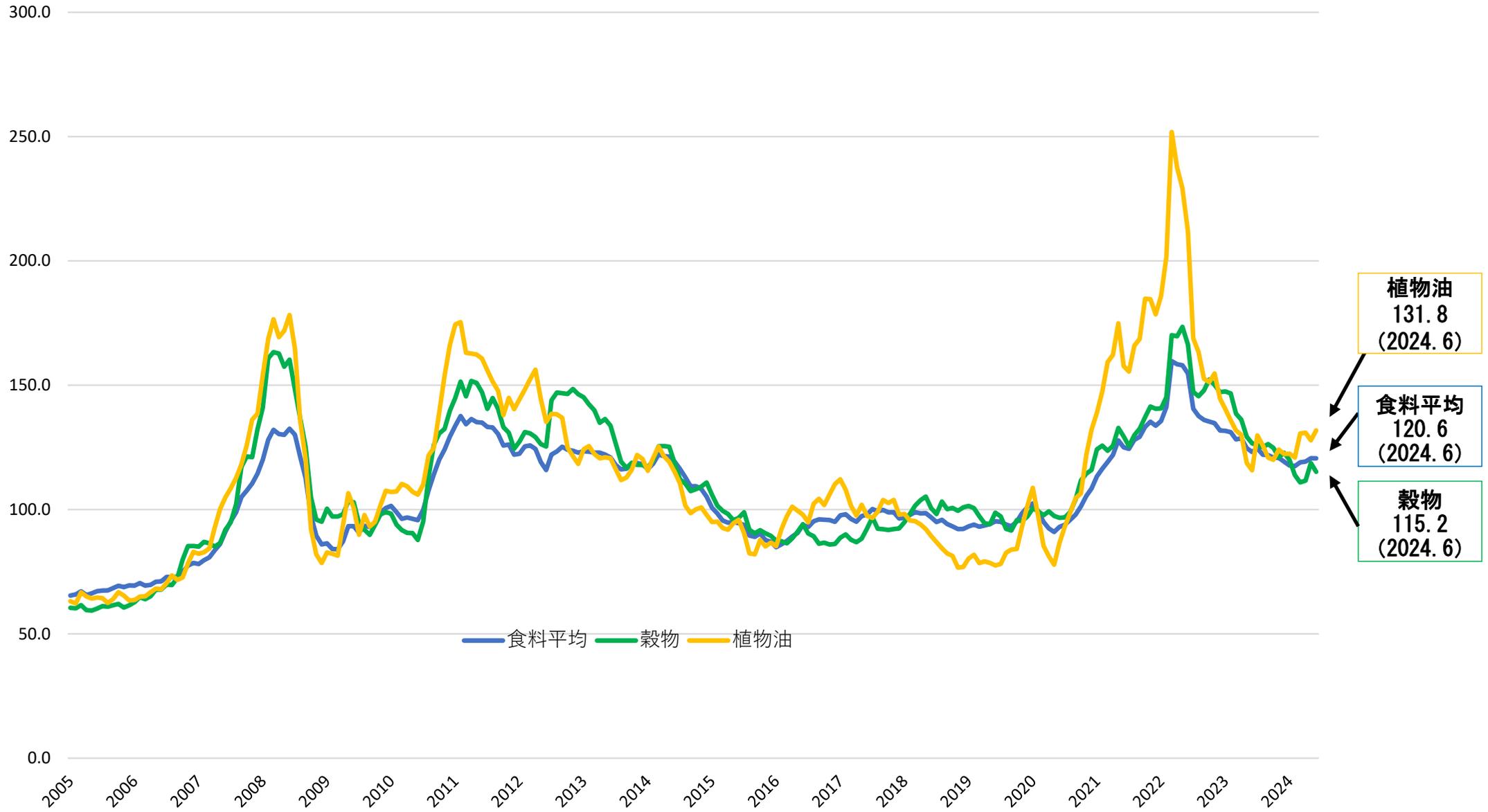
[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003339.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003339.html)

(中国) トウモロコシおよび大豆の価格動向

[https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05\\_003340.html](https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003340.html)

# 資料 7 FAO食料価格指数

(2014-16平均=100)



資料: FAO「Food Price Index」(2024.6)より作成

注: 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等、植物油は大豆油、菜種油、ひまわり油、パーム油等

## 【今月のコラム】

### 米国太平洋岸北西部（PNW）のビール事情

日本でもそろそろ梅雨が終わり、冷たいビールがおいしい季節になってきたところでしょうか。今回は、米国太平洋岸北西部（パシフィック・ノース・ウェスト、PNW）地域、特に私が住むオレゴン州ポートランドのビール事情についてご紹介します。

まず、穀物関係者しか知らないであろうPNWという表現ですが、大まかに言えば米国ワシントン州、オレゴン州、アイダホ州及びカナダのブリティッシュ・コロンビア州がある太平洋岸の北西部エリアとなります。ちなみに日本向けの米国産小麦は、ほぼ全量がこの地域から輸出されています。

PNWは春から夏の日照時間が長く、また気候も比較的冷涼なことから、ビールの苦みを作るホップの栽培が盛んです（図1）。また、PNWはビール作りに欠かせない原料の大麦（麦芽）の生産地が近いのも重要なポイントです。

そんな背景から、PNWではクラフトビール作りが盛んで、その醸造所や種類もたくさんあります。PNWの中でもオレゴン州はクラフトビールの人気が高く、人口当たりの消費量やクラフトビール醸造所数（ブルワリー）は最も多くなっています（表1）。オレゴンのブルワリーには小規模な経営も多く、それぞれがエッジの効いた（時には効き過ぎた）ビールを製造・提供しているのですが、この背景には、地元企業を大事にする州民気質や、「Keep Portland Weird」（ポートランドよ、変わり者であれ）というスローガンに代表されるリベラルな風土が大きく影響していると思います。このため、日本のクラフトビール事業者からは、「クラフトビールの聖地」とも称されており、クラフトビールの日・オレゴン交流イベント「Fuji to Hood」も隔年で盛大に開催されています。

前置きがすっかり長くなりました。では、当地でどのようなクラフトビールが人気かをご紹介します。クラフトビールにはエール系ビール※が多いですが、その中でも少しアルコール度数が高い「インディアン・ペールエール（IPA）」、さらにホップの苦みやフルーティな香りを効かせた「ウェスト・コーストIPA」、フレッシュホップのミルクィな香りと濁りが特徴の「ヘイジーIPA」などが有名かつ人気です。各ブルワリーでは、6～10種類程度の様々なスタイルのビール（IPA、ピルスナー、スタウトやフルーツ原料系等）を提供していることも多く、注文カウンターでどれを注文していいか困ってしまうこともしばしばあります。私もオーダーで迷った時には、「フライト」と呼ばれる飲み比べセット（写真1）を注文してみることにしています。

※簡単に言えば、クラフトビール屋さん等で提供される、フルーティでホップが効いたビール。大手ビールメーカーのドライ系ピルスナー（辛口、後味すっきり）とは真逆のタイプ。

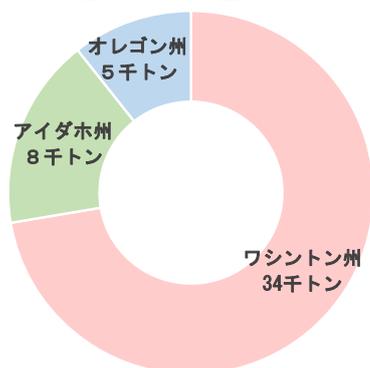
また、ビールのお供のおつまみ類ですが、一般的なトッツ（丸く固めたポテトフライ、写真2）やバーガー、チキンウイングはもちろん、枝豆（エダマミ）やゆず味噌ソース、豆腐サラダ、などの和風なメニューも人気です。この辺が親日的な方が多いオレゴン州あるあるですね。時には学生時代に日本語クラスを取っていた方が、うれしそうに日本語で話しかけてくる場面もあります。

オレゴン州（特にポートランド地域）は、コロナ禍等による中心市街地の空洞化と治安の悪化が懸念され、ホームレス問題が大きな政治課題となっていますが、最近の週末（金曜午後です）の各ブルワリーの盛り上がりを見ると、往事の賑わいを取り戻す日も遠くないなと感じています。

(表1：PNW（米国）におけるクラフトビール事情（2023）)

州名	10万人当たりのブルワリー軒数	年間1人当たりのビール消費量(L)
オレゴン州	9.8	32.2
ワシントン州	7.8	11.4
アイダホ州	6.6	7.9

図1 米国のホップ生産状況（2023）



(写真1) ビール注文に困ったときは? 「フライト」



(写真2) おつまみの代表「トッツ」にもネギが飾られる。



(写真3) 大手スーパーのクラフトビール売場。地ビールを中心に多くの銘柄が並ぶ。

文責：重久直人（在ポートランド領事事務所 領事（経済・広報文化班担当））

【データ・出典】

Brewers Association : <https://www.brewersassociation.org/statistics-and-data/state-craft-beer-stats/>

Oregon Brewers Guild : <https://www.oregongcraftbeer.org/>

USDA National Hop Report : <https://usda.library.cornell.edu/concern/publications/s7526c41m>

本稿は、世界各国・地域の駐在員の方々にご協力をいただき、最新の現地情報をご紹介しますものです。日本とは異なる文化や経済、国土条件等を背景として、それぞれの国や地域における食料の生産、流通、消費の特徴や考え方、また、日本の食料品や文化等に対するイメージなどについてもご紹介したいと思います。

(品目別需給編)

# 1 小麦

## (1) 国際的な小麦需給の概要 (詳細は右表を参照)

<USDA の見通し> 2024/25 年度

**生産量** 前年度比 前月比

- メキシコ、EUで下方修正されたものの、米国、パキスタン、カナダ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

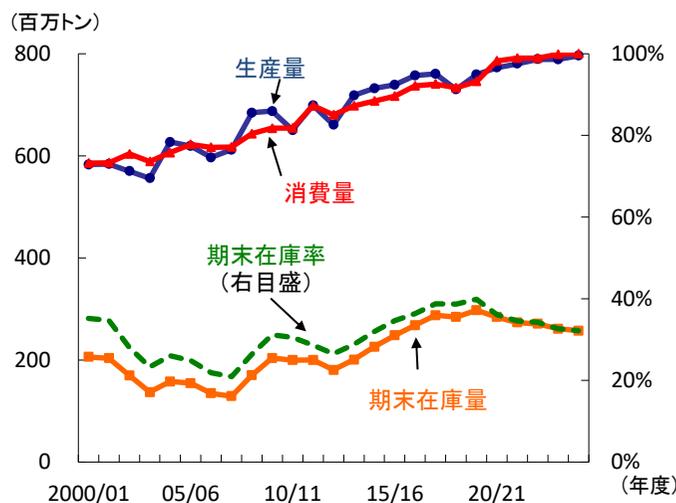
**消費量** 前年度比 前月比

- モロッコ等で下方修正されたものの、イラク、米国等で上方修正され、前月から上方修正された。

**輸出量** 前年度比 前月比

- EU、トルコ等で下方修正されたものの、米国、カナダ等で上方修正され、前月から上方修正された。

**期末在庫量** 前年度比 前月比



## ◎世界の小麦需給

(単位: 百万トン)

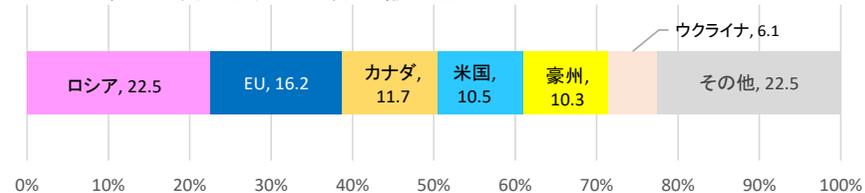
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	789.0	789.0	796.2	5.4	0.9
消費量	791.3	799.0	799.9	1.9	0.1
うち飼料用	154.9	157.6	148.4	0.7	▲ 5.9
輸出量	220.7	220.6	212.9	0.1	▲ 3.5
輸入量	212.1	218.8	206.7	▲ 0.4	▲ 5.5
期末在庫量	271.0	261.0	257.2	5.0	▲ 1.4
期末在庫率	34.3%	32.7%	32.2%	0.5	▲ 0.5

資料:USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (12 July 2024)

### ○ 2024/25年度の世界の小麦の生産量(796.2百万トン) (単位: %)



### ○ 2024/25年度の世界の小麦の輸出量(212.9百万トン) (単位: %)



### ○ 2024/25年度の世界の小麦の輸入量(206.7百万トン) (単位: %)



## (2) 国別の小麦の需給動向

### ＜ 米国 ＞ 2024/25 年度の生産量は上方修正され 54.7 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測から 3.6 百万トン上方修正され 54.7 百万トンと、収穫面積及び単収が増加することから前年度と比べ 10.8%増、過去 5 年平均（48.2 百万トン）と比べても 13.3%増となる見込み。

品種別には、ソフト・レッド・ウインター（SRW）が前年度の豊作から減少し 9.4 百万トン（前年度比 23.5%減）となる一方、ハード・レッド・ウインター（HRW）が 20.8 百万トン（同 27.0%増）、ハード・レッド・スプリング(HRS)が 14.5 百万トン（同 13.7%増）、ホワイト小麦 (WW) が 7.6 百万トン（同 19.3%増）、デュラム小麦が 2.4 百万トン（同 50.6%増）となる見込み。

同「Acreage」（2024.6.28）によれば、2024/25 年度の実作付面積は 19.12 百万ヘクタールと、前年度に比べ 4.7%減少するものの、過去 5 年平均比では 1.8%増加する見込み。種類別には、冬小麦は 13.68 百万ヘクタールと前年度に比べ 7.9%減少。春小麦は 4.56 百万ヘクタールと前年度に比べ 0.6%増加。デュラム小麦は 0.88 百万ヘクタールと同 29.2%増加し 2017/18 年度以降では最高の作付面積となる見込み。

同「Crop Progress」（2024.7.15）によれば、7 月 14 日現在、冬小麦の収穫進捗率は 71%と前年同期の 53%、過去 5 年平均の 62%をいずれも上回っている。また、春小麦の出穂進捗率は 76%と前年同期の 82%、過去 5 年平均の 78%をいずれも下回っているものの、作柄は「やや良～良」の割合が 77%と、適時適切な降雨と気温に恵まれ前年同期の 51%を 26 ポイント上回っている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、増産による輸出余力の増加に加え、ロシア及びウクライナの減産による輸出量の下方修正に伴う米国産の相対的な価格競争力の高まり等を受けて前月予測から 0.7 百万トン上方修正され 22.5 百万トンと、前年度と比べ 16.7%増となり 4 年ぶりの高水準となるものの、過去 5 年平均（23.0 百万トン）比では 2.4%減となる見込み。

7 月 10 日時点の FOB 価格は、米国産は冬小麦の収穫進捗と豊作への期待から前月に比べ 1 トン当たり 16 ドル下落し 264 ドルとなる一方、カナダ産は 273 ドル、アルゼンチン産 273 ドル、豪州産 298 ドルとなっており、米国産に価格優位性がある状況。

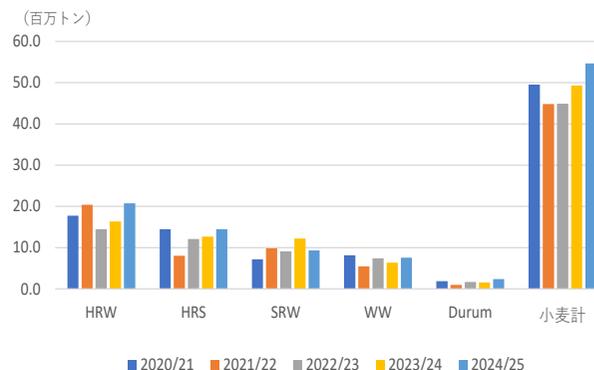
2024/25 年度の期末在庫量は、生産量等の上方修正等を受け前月予測から 2.7 百万トン上方修正され 23.3 百万トンと、前年度に比べ 22.0%増加し 4 年ぶりの高水準となる見込み。

## 小麦—米国（冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割）

(単位:百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年6月～25年5月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	44.9	49.3	54.7	3.6	10.8
消費量	30.3	30.2	30.9	0.3	2.1
うち飼料用	2.0	2.4	3.0	0.3	26.2
輸 出 量	20.7	19.2	22.5	0.7	16.7
輸 入 量	3.3	3.8	2.9	▲ 0.4	▲ 23.9
期末在庫量	15.5	19.1	23.3	2.7	22.0
期末在庫率	30.4%	38.6%	43.7%	4.3	5.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	14.36	15.08	15.70	0.33	4.1
単収(t/ha)	3.13	3.27	3.48	0.16	6.4
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 「World Agricultural Production」(12 July 2024)					

### 図 品種別生産量の推移



資料: USDA 「Wheat Outlook」(2024.7.16)をもとに農林水産省で作成

### 表 米国産小麦の作付面積

	2024/25 (百万ha)	2023/24 (百万ha)	過去5年平均 (百万ha)	対前年度 増減率(%)	対5年平均 増減率(%)
冬小麦	13.68	14.85	13.40	-7.9	2.1
春小麦	4.56	4.53	4.73	0.6	-3.6
デュラム小麦	0.88	0.68	0.65	29.2	35.6
小麦計	19.12	20.06	18.78	-4.7	1.8

資料: USDA 「Acreage」(2024.6.28)をもとに農林水産省で作成

## < カナダ > 2024/25 年度の生産量は上方修正され 35.4 百万トンの見込み (AAFC)

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省 (AAFC) 「Outlook for Principal Field Crops」 (2024.7.22) によれば、2024/25 年度の小麦の生産量は、前月予測から 0.8 百万トン上方修正され 35.4 百万トンと、干ばつの影響を受け減産となった前年度に比べ 10.9%増加、過去 5 年平均と比べても 13.0%増加する見込み。

種類別の生産量は、普通小麦は、前月予測から収穫面積が減少したものの、単収が増加したことから 0.2 百万トン上方修正され 29.1 百万トン (前年度比 4.4%増、過去 5 年平均比 10.0%増)、デュラム小麦は、前月予測から単収が増加したことから 6.3 百万トン (同 55.7%増、28.8%増) の見込み。

カナダ統計局「Principal field crop areas, June 2024」(2024.6.27) によれば、2024/25 年度の小麦の作付面積は 10.78 百万ヘクタールと、前年度に比べ 1.1%減少するものの、過去 5 年平均比では 6.6%増加する見込み。種類別には、春小麦は 7.66 百万ヘクタールと前年度に比べ 2.8%減少、デュラム小麦は 2.58 百万ヘクタールと同 5.5%の増加、冬小麦は 0.54 百万ヘクタールと同 5.8%減少する見込み。作付面積は前年度から減少したものの、過去 5 年平均と比べれば増加しており、これは、小麦の価格が他の作物より高く収益性が高かったことが要因。主要生産州の各州政府によれば、サスカチュワン州では、7月15日現在、気温の上昇により作物の生長は加速したが、気温が低く湿潤な状況が続いていたため、春穀物の 27%は生育が平年より遅れている。アルバータ州では、7月16日現在、高温と降水量不足により作物に影響が生じている。春小麦の作柄は「やや良～良」の割合が 72.8%と前年同期の 46.4%を 26.4 ポイント上回っているものの、前週 78.4%からは 5.6 ポイント下回っている。マニトバ州では、7月14日現在、春小麦は止葉期から登熟期を迎えており、作柄はほとんどが平年並みから良好である。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測から 0.4 百万トン上方修正され 25.4 百万トンと、前年度と比べ 7.0%増加する見込み。種類別には、普通小麦は高たんぱく質小麦の堅調な世界需要を受け前年度に比べ 0.7%増加し 20.6 百万トン。デュラム小麦も生産量の回復による輸出余力の増加を受け、前年度に比べ 45.5%増加し 4.8 百万トンとなる見込み。カナダ穀物委員会 (CGC) によれば、2023/24 年度のうち 2023 年 8 月～2024 年 5 月の輸出量は、普通小麦が 1,828.1 万トンと、前年同期(1,656.5 万トン) に比べ 10.4%増加しており、輸出先国は中国 (15.3%)、インドネシア (11.5%)、バングラディッシュ (9.0%) の順。また、デュラム小麦は 304.3 万トンと、前年同期 (448.0 万トン) に比べ 32.1%減少しており、輸出先国はアルジェリア (28.4%)、モロッコ (23.1%)、イタリア (12.8%) の順。AAFC によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され 3.3 百万トンと、前年度に比べ 20.4%増の見込み。

## 小麦—カナダ (春小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年8月～25年7月)		
			予測値、( ) はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	34.3	32.0	35.0 (35.4)	1.0	9.5
消費量	9.5	9.2	9.3 (9.7)	-	1.1
うち飼料用	4.3	4.0	4.0 (5.3)	-	-
輸 出 量	25.6	25.0	25.0 (25.4)	0.5	-
輸 入 量	0.6	0.6	0.6 (0.2)	-	▲ 5.2
期末在庫量	3.5	1.9	3.1 (3.3)	0.5	67.6
期末在庫率	10.0%	5.4%	9.0% (9.3%)	1.3	3.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	10.08	10.68	10.60 (10.61)	▲ 0.10	▲ 0.7
単収(t/ha)	3.41	2.99	3.30 (3.34)	0.12	10.4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2024)  
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(22 July 2024)

### 表 カナダ産小麦の作付面積

	2024/25 (百万ha)	2023/24 (百万ha)	過去5年平均 (百万ha)	対前年度 増減率(%)	対5年平均 増減率(%)
春小麦	7.66	7.88	7.30	-2.8	4.9
デュラム小麦	2.58	2.44	2.30	5.5	12.2
冬小麦	0.54	0.58	0.52	-5.8	4.7
小麦計	10.78	10.90	10.12	-1.1	6.6

資料: カナダ統計局「Principal field crop areas, June 2024」をもと  
に農林水産省で作成

### 表 カナダ産小麦の輸出量と輸出先国

○普通小麦 (輸出量:万トン)					
2024年5月		2023年8月～2024年5月		2022年8月～2023年5月	
国名	輸出量 シェア	国名	輸出量 シェア	国名	輸出量 シェア
インドネシア	26.0 13.7%	中国	279.8 15.3%	中国	264.8 16.0%
ペルー	22.7 12.0%	インドネシア	210.9 11.5%	インドネシア	173.1 10.4%
バングラディッシュ	18.8 9.9%	バングラディッシュ	164.2 9.0%	日本	137.2 8.3%
コロンビア	13.5 7.1%	日本	148.6 8.1%	バングラディッシュ	132.9 8.0%
日本	12.8 6.8%	ペルー	110.7 6.1%	ペルー	125.3 7.6%
その他	95.4 50.4%	その他	914.0 50.0%	その他	823.3 49.7%
計	189.2 100.0%	計	1,828.1 100.0%	計	1,656.5 100.0%

○デュラム小麦 (輸出量:万トン)					
2024年5月		2023年8月～2024年5月		2022年8月～2023年5月	
国名	輸出量 シェア	国名	輸出量 シェア	国名	輸出量 シェア
アルジェリア	11.1 37.3%	アルジェリア	86.3 28.4%	イタリア	115.1 25.7%
米国	3.6 12.0%	モロッコ	70.3 23.1%	アルジェリア	99.2 22.2%
日本	2.4 8.0%	イタリア	39.1 12.8%	モロッコ	78.5 17.5%
ペネズエラ	2.0 6.6%	米国	36.4 12.0%	米国	45.0 10.1%
モントセラト	1.9 6.5%	日本	18.6 6.1%	チュニジア	29.8 6.6%
その他	8.8 29.7%	その他	53.6 17.6%	その他	80.4 17.9%
計	29.8 100.0%	計	304.3 100.0%	計	448.0 100.0%

資料: カナダ穀物委員会のデータをもとに農林水産省で作成

## < 豪州 > 7月前半の降雨が主要生産地の小麦の生長を促進

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25年度の生産量は、前月予測からの変更はなく29.0百万トンと、前年度と比べ11.5%増、過去10年平均(26.6百万トン)と比べても9.2%増となる見込み。

豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Australian Crop Report」(2024.6.4)によれば、2024/25年度の生産量は、エルニーニョ現象の影響による降雨不足のために土壌水分不足だった前年度から収穫面積及び単収が増加(収穫面積は前年度比2.6%増、単収は同9.2%増)することを受け29.1百万トンと、前年度と比べ12.1%増、過去10年平均(26.6百万トン)と比べても9.6%増となる見込み。主要生産州では、ウェスタンオーストラリア州(WA州)の生産量は8.5百万トンと、収穫面積が前年度から1.1%増加し4.7百万ヘクタールとなることや、単収も降雨不足であった前年度から増加することを受け、前年度に比べ10.4%増加する見込み。ニューサウスウェールズ州(NSW州)の生産量は9.8百万トンと、作付け時の土壌水分が平年以上であったこと等により収穫面積が前年度から9.1%増加し3.6百万ヘクタールとなることや、単収も降雨不足であった前年度から増加することを受け前年度に比べ38.1%増加する見込み。

西豪州穀物産業協会(GIWA)(2024.7.12)によれば、2024/25年度のWA州の小麦作付面積は、前月予測からの変更はなく5.0百万ヘクタールで収穫量は9.2百万トンとなる見込み。

USDA「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2024.7.16)によれば、6月末時点では小麦主要生産地は乾燥傾向であったが、7月7日～13日の週に小麦主要生産地の大部分で降雨があり小麦の生長を促進させた。なお、引き続き土壌水分が低い生産地については更なる降雨が必要となっている。

【貿易情報・その他】ABARESによれば、2024/25年度の輸出量は、2023/24年度の前年度が生産量が減少し、輸出余力が減少したことを受け19.9百万トンと、前年度に比べ13.1%減となるものの、中国と東南アジアの旺盛な需要に支えられ、過去10年平均(19.0百万トン)と比べれば4.5%増となる見込み。

2023/24年度のうち2023年10月から2024年5月までの輸出量は1,485.5万トンと、前年同期(2,288.1万トン)に比べ35.1%減少しており、乾燥により生産量が減少したことが輸出量減少の主因。同期間の輸出先国は、中国(24.2%)、インドネシア(16.6%)、フィリピン(9.9%)の順。

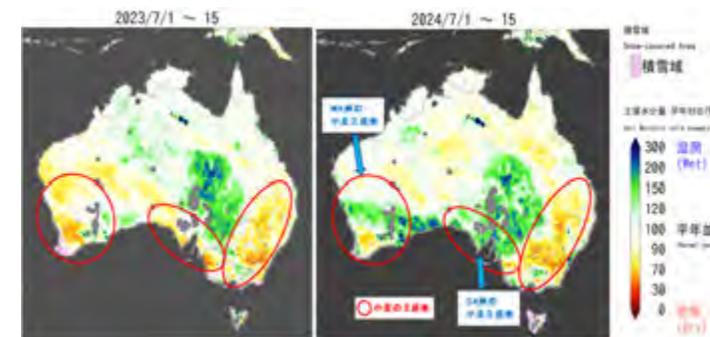
USDAによれば、2024/25年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく3.8百万トンと、前年度に比べ5.6%増となる見込み。

## 小麦—豪州(冬小麦を主に栽培)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25(24年10月～25年9月)		
			予測値、( )はABARES	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	40.6	26.0	29.0 (29.1)	-	11.5
消費量	8.0	7.0	7.0	-	-
うち飼料用	4.5	3.5	3.5	-	-
輸出量	31.8	20.0	22.0 (19.9)	-	10.0
輸入量	0.2	0.2	0.2	-	-
期末在庫量	4.4	3.6	3.8	-	5.6
期末在庫率	11.0%	13.2%	13.0%	-	▲0.2

(参考)  
 収穫面積(百万ha) 13.05 12.50 12.50 (12.75)  
 単収(t/ha) 3.11 2.08 2.32 (2.28)  
 資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
 「World Agricultural Production」(12 July 2024)  
 ABARES 「Australian Crop Report」(4 June 2024)

図 豪州の土壌水分量 「前年に比べWA州、SA州で土壌水分が改善」



資料: 農業気象情報衛星モニタリングシステム(JASMAI)

表 豪州産小麦の輸出量と輸出先国

2024年5月		2023年10月～2024年5月		2022年10月～2023年5月	
国名	輸出量 シェア	国名	輸出量 シェア	国名	輸出量 シェア
フィリピン	33.4 20.9%	中国	360.1 24.2%	中国	626.1 27.4%
インドネシア	25.9 16.2%	インドネシア	246.9 16.6%	インドネシア	297.6 13.0%
韓国	17.0 10.6%	フィリピン	146.5 9.9%	韓国	213.0 9.3%
イエメン	15.6 9.7%	イエメン	114.5 7.7%	ベトナム	206.6 9.0%
中国	13.6 8.5%	日本	87.6 5.9%	フィリピン	201.1 8.8%
ニュージーランド	11.7 7.3%	ベトナム	85.8 5.8%	タイ	143.4 6.3%
その他	43.0 26.8%	その他	444.1 29.9%	その他	600.2 26.2%
計	160.1 100.0%	計	1,485.5 100.0%	計	2,288.1 100.0%

資料: ABARES 「Trade dashboard」をもとに農林水産省で作成

## < EU27 > 2024/25年度の生産量は上方修正され128.4百万トンの見込み（欧州委員会）

【生育・生産状況】欧州委員会（EC）「EU Cereals Balance Sheets」（2024.6.27）によれば、2024/25年度の生産量は、ドイツ等で生産量が上方修正されたことにより前月予測から1.3百万トン上方修正され128.4百万トンとなるものの、2023年秋の多雨で冬小麦の作付けが困難となったほか、降雨過多等により収穫面積が減少することを受け、前年度と比べ3.1%減少、過去5年平均と比べても3.7%減少の見込み。

このうち、普通小麦は前月予測から1.6百万トン上方修正され121.9百万トンとなるものの、前年度比2.9%減、5年平均比でも3.2%減となる見込み。国別にはスペインが干ばつからの回復により前年度比79.7%増の6.3百万トンとなった一方、フランスが降雨過多等を受け同13.6%減の30.0百万トン、ドイツも同4.6%減の20.2百万トンの見込み。

デュラム小麦は前月予測から0.3百万トン下方修正され6.5百万トンと、前年度比で7.2%減、5年平均比でも13.0%減となる見込み。国別にはスペインが干ばつからの回復により前年度比99.9%増の0.9百万トンとなった一方、イタリアが同16.9%減の3.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】ECによれば、2024/25年度の輸出量は、黒海産小麦の輸出量の減少に伴うEU産の相対的な価格競争力の高まり等を受け前月予測から53.3万トン上方修正されるものの、主要輸出国であるフランス等での降雨過多による減産等により前年度比4.8%減の32.4百万トンの見込み。2023/24年度のうち2023年7月から2024年4月までの輸出量は、普通小麦が3,026.2万トンで、前年同期に比べ9.8%増。同期間の輸出先国は、モロッコ（13.7%）、アルジェリア（11.1%）、ナイジェリア（9.4%）、中国（7.8%）の順。また、デュラム小麦は74.8万トンで、前年同期に比べ1.5%減。同期間の輸出先国は、チュニジア（28.2%）、アルジェリア（11.9%）、スリランカ（8.1%）、英国（8.0%）の順。

2024/25年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく8.1百万トンと、ウクライナの減産に伴い同国からの輸入量が減少すること等から、前年度比33.6%減となる見込み。

2023/24年度のうち2023年7月から2024年4月までの輸入量は、普通小麦が816.4万トンで、前年同期と同水準。また、デュラム小麦は218.6万トンで、前年同期に比べ29.2%増。

2024/25年度の期末在庫量は、前月予測から83.8万トン下方修正され13.6百万トンと、生産量及び輸入量が減少すること等から前年度と比べ33.5%減となる見込み。

## 小麦－EU27（冬小麦を主に栽培）

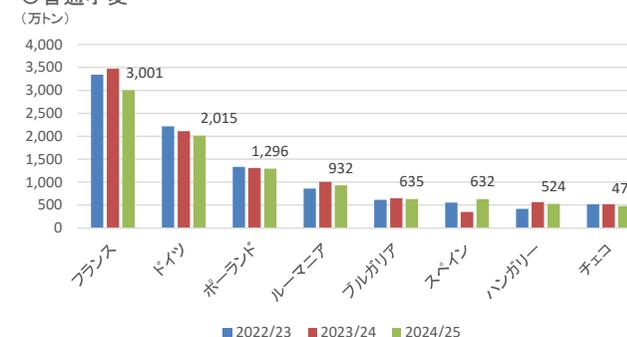
（単位：百万トン）

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予測値、( )はEC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	134.3	134.2	130.0 (128.4)	▲ 0.5	▲ 3.1
消費量	109.0	111.0	109.3 (111.0)	-	▲ 1.6
うち飼料用	45.0	46.5	44.5 (46.1)	-	▲ 4.3
輸出量	35.1	37.0	34.5 (32.4)	▲ 0.5	▲ 6.8
輸入量	12.2	12.5	10.0 (8.1)	-	▲ 20.0
期末在庫量	16.0	14.7	10.9 (13.6)	▲ 0.5	▲ 25.5
期末在庫率	11.1%	9.9%	7.6% (9.5%)	▲ 0.3	▲ 2.3

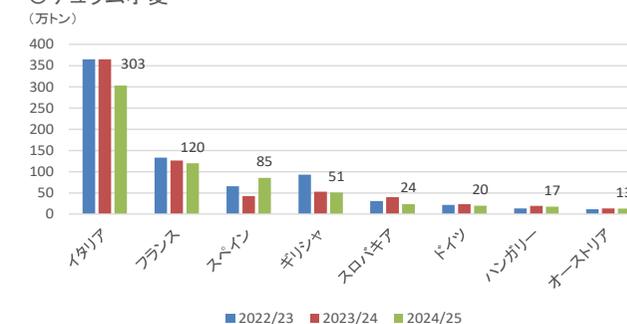
（参考）  
 収穫面積(百万ha) 24.40 24.20 23.35 (22.98) ▲ 0.05 ▲ 3.5  
 単収(t/ha) 5.50 5.54 5.57 (5.59) ▲ 0.01 0.5  
 資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
 「World Agricultural Production」(12 July 2024)  
 EC 「EU Cereals Balance Sheets」(27 June 2024)

### 図 EU27の普通小麦及びデュラム小麦生産量の推移

○普通小麦



○デュラム小麦



資料：EC「EU cereals production, area and yield」(2024.6.27)  
 をもとに農林水産省で作成

## < ロシア > 2024/25 年度の収穫は前年度より早いペースで進展も品質低下の懸念

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量（クリミア地域分を含まず）は、前月予測からの変更はなく 83.0 百万トンと、前年度と比べ 9.3%減となるものの、過去 5 年平均（83.5 百万トン）と比べれば 0.6%減に留まる見込み。種類別には、冬小麦は霜害と高温乾燥により前年度から 7.8%減少の 59.0 百万トン、春小麦は同 12.7%減少の 24.0 百万トンの見込み。

現地情報会社によれば、7 月 12 日現在、759.0 万ヘクタールの収穫（前年同期 190.1 万ヘクタール）が行われ、収穫量は 2,902.5 万トン（前年同期 728.9 万トン）となっている。冬小麦の生育は乾燥の影響により平年よりも早く収穫は進展しているものの、高温乾燥による品質の低下が懸念される。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 48.0 百万トンと、史上最高となった前年度に比べ 13.5%減となる見込み。他方で、競合する EU 及びウクライナの小麦生産量も減少することもあり、両国に比べ引き続き価格競争力を維持する可能性が高いと予想されており、過去 5 年平均（42.0 百万トン）に比べ 14.2%増と史上 2 番目の輸出量となる見込み。

7 月 10 日時点の FOB 価格は、ロシア産はトルコの小麦の輸入禁止発表とロシアにおける前年を上回る収穫進捗から前月に比べ 1 トン当たり 31 ドル下落し 219 ドルとなる一方、EU 産は 235 ドルと、引き続きロシア産の価格競争力がある状況となっている。なお、6 月 29 日、ロシア政府は輸出関税が発生する条件となる基準価格について 1 万 7,000 ㌦から 1 万 8,000 ㌦に引き上げることを発表した。これにより実質的に輸出価格は下落し、ロシア産の価格競争力が更に増す可能性がある（7 月 3 日から適用）。

また、デュラム小麦は、欧州への輸出量増加で国内価格が上昇したため、2023 年 12 月～本年 5 月まで輸出禁止措置を導入していたものの、デュラム小麦の作付面積が前年度に比べ 30%増の 1.5 百万ヘクタールとなったことも受け、当該輸出禁止措置の延長は行われていない。

現地情報会社によれば、2023/24 年度（2023 年 7 月～2024 年 6 月）の輸出量は、5,409.3 万トンと、2 年連続の豊作による輸出余力の増加等を受け前年度（4,852.9 万トン）を 11.5%上回った。輸出先国別には、エジプト 868.3 万トン（16.1%）、トルコ 691.9 万トン（12.8%）、バングラディッシュ 350.2 万トン（6.5%）アルジェリア 236.8 万トン（4.4%）、サウジアラビア 224.8 万トン（4.2%）の順。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、期首在庫量が下方修正されたことにより前月予測から 1.0 百万トン下方修正され 6.7 百万トンと、前年度に比べ 33.9%減となる見込み。

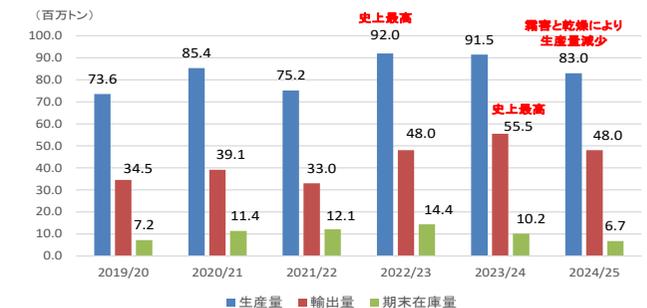
## 小麦—ロシア（主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培）

（単位：百万トン）

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		対前年度 増減率(%)
			予測値、( ) はIGC	前月予測 からの変更	
生産量	92.0	91.5	83.0 (81.8)	-	▲ 9.3
消費量	42.0	40.5	38.8 (39.1)	-	▲ 4.3
うち飼料用	19.0	17.5	16.0 (16.0)	-	▲ 8.6
輸出量	48.0	55.5	48.0 (43.3)	-	▲ 13.5
輸入量	0.3	0.3	0.3 (0.1)	-	-
期末在庫量	14.4	10.2	6.7 (9.9)	▲ 1.0	▲ 33.9
期末在庫率	16.0%	10.6%	7.8% (12.1%)	▲ 1.2	▲ 2.8
（参考）					
収穫面積(百万ha)	29.00	28.83	28.10 (28.00)	-	▲ 2.5
単収(t/ha)	3.17	3.17	2.95 (2.92)	-	▲ 6.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2024)  
IGC 「Grain Market Report」(27 June 2024)

### 図 ロシアの小麦の生産量・輸出量等の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024.7.12)をもとに農林水産省で作成

### 表 ロシア産小麦の輸出量と輸出先国

（輸出量：万トン、シェア：%）

国名	2023/24年度 (2024年6月)		2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)	
	輸出量	シェア	輸出量	シェア
エジプト	108.0	24.0	868.3	16.1
サウジアラビア	42.1	9.4	691.9	12.8
トルコ	36.7	8.2	350.2	6.5
アルジェリア	34.5	7.7	236.8	4.4
ブラジル	21.0	4.7	224.8	4.2
カザフスタン	20.6	4.6	222.2	4.1
イエメン	13.7	3.0	213.0	3.9
その他	172.8	38.5	2,602.1	48.1
計	449.4	100.0	5,409.3	100.0

資料：現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

## <ウクライナ> 2024/25年度の収穫は前年度より早いペースで進展

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25年度の生産量（クリミア地域分を含む）は、前月予測からの変更はなく19.5百万トンと、乾燥の影響により前年度に比べ15.2%減、ロシアのウクライナ侵攻前の過去5年平均（2017/18～2021/22年度、27.9百万トン）と比べても30.2%減と、2012/13年度に15.8百万トンとなった以降で最低の水準となる見込み。

ウクライナ国家統計庁によれば、2024/25年度の作付面積は4.62百万ヘクタール（春小麦は6月14日時点の速報値）と、前年度と比べ1.1%減となる見込み。

現地情報会社の情報によれば、6月末時点の生育状況は、冬小麦は大部分の圃場で黄熟期若しくは完熟期（登熟期後半）を迎えており、南部、中央部を中心に収穫が始まっている。なお、作柄は概ね良好及び平年並みとなっている。また、春小麦は乳熟期から黄熟期を迎えており、西部、東部の一部で乾燥の影響により葉の黄変が発生している。

ウクライナ農業政策食料省によれば、7月5日時点で48.2万ヘクタールの収穫（前年同期5.1万ヘクタール）が行われ、収穫量は162.9万トンとなっている。冬小麦の生育が平年よりも2週間程度早いことが収穫の進捗に影響している。

【貿易状況・その他】USDAによれば、2024/25年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく13.0百万トンと、生産量の減少等により前年度と比べ28.2%減、ロシアのウクライナ侵攻前の過去5年平均（18.1百万トン）と比べても28.2%減となる見込み。

現地情報会社によれば、2023/24年度（2023年7月～2024年6月）の輸出量は1,840.6万トンと、前年度1,693.8万トンに比べ8.7%増、ロシアのウクライナ侵攻前の2020/21年度1,664.1万トンと比べても10.6%増となっている。輸出先国別には、スペイン589.9万トン（32.0%）、エジプト172.1万トン（9.4%）、インドネシア151.5万トン（8.2%）、トルコ107.8万トン（5.9%）、ルーマニア100.1万トン（5.4%）の順で、スペイン向けシェアが高くなっている。これは、スペインにおいて乾燥天候による生産量の減少や飼料用小麦需要の増加等の影響が出ていることによる。

USDAによれば、2024/25年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく1.0百万トンと、前年度に比べ11.1%減となり、史上2番目に低い水準となる見込み。

## 小麦－ウクライナ（主に冬小麦を栽培）

（単位：百万トン）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	21.5	23.0	19.5 (23.4)	-	▲ 15.2
消費量	7.8	6.8	6.7 (10.4)	-	▲ 1.5
うち飼料用	3.0	2.0	2.0 (1.9)	-	-
輸 出 量	17.1	18.1	13.0 (13.0)	-	▲ 28.2
輸 入 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	-
期末在庫量	2.9	1.1	1.0 (0.9)	-	▲ 11.1
期末在庫率	11.6%	4.3%	4.9% (4.0%)	-	0.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.60	5.01	4.70 (5.80)	-	▲ 6.2
単収(t/ha)	3.84	4.59	4.15 (4.04)	-	▲ 9.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2024)  
IGC 「Grain Market Report」(27 June 2024)

## 図 ウクライナの小麦の生産量・単収の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024.7.12)をもとに農林水産省で作成

## 表 ウクライナ産小麦の輸出量と輸出先国

(輸出量：万トン、シェア：%)

2024年6月			2023年7月～2024年6月		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
スペイン	23.9	24.5	スペイン	589.9	32.0
エジプト	14.7	15.0	エジプト	172.1	9.4
インドネシア	13.5	13.8	インドネシア	151.5	8.2
ベトナム	12.4	12.7	トルコ	107.8	5.9
アルジェリア	8.2	8.4	ルーマニア	100.1	5.4
チュニジア	4.8	4.9	パキスタン	81.4	4.4
モロッコ	4.7	4.8	ベトナム	75.1	4.1
タイ	2.7	2.8	バングラデシュ	73.7	4.0
イスラエル	2.5	2.6	イタリア	67.7	3.7
レバノン	2.4	2.5	アルジェリア	63.3	3.4
その他	8	8.2	その他	358.0	19.5
合計	97.7	100.0	合計	1,840.6	100.0

資料：APK-Inform Agencyのデータをもとに農林水産省で作成

## < 中国 > 2024/25 年度の小麦の生産量は 138.2 百万トン（中国国家统计局）

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 140.0 百万トンと、前年度と比べ 2.5%増、過去 5 年平均（135.8 百万トン）と比べても 3.1%増となり史上最高となる見込み。

中央气象台「全国農業気象月報」（2024.7.5）によれば、6 月は晴天が続いたことから、冬小麦の収穫が順調に進んだ。

中国気象センター「中国気象農業頻道」（2024.7.15）によれば、2024/25 年度の春小麦の 7 月上旬現在の生育状況は、大部分の産地で開花期及び登熟期を迎えている。

中国国家统计局によれば、2024/25 年度の小麦の作付面積は 23.09 百万ヘクタールと、前年度に比べ 0.1%増（3.2 万ヘクタール増）となる見込み。このうち、春小麦については西部の一部地域において作付面積が減少している。単収は 5.99 トン/ha と、前年度と比べ 2.6%増。生産量は 138.2 百万トンと、前年度と比べ 2.7%増となる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく 151.0 百万トンと、前年度と比べ 1.9%減となるものの、過去 5 年平均（146.2 百万トン）と比べると 3.3%増となる見込み。

2024/25 年度の輸入量は、EU 及びカナダからの輸入が増加すると見込まれることから前月予測から 1.0 百万トン上方修正され 12.0 百万トンとなるものの、史上最高の生産量となり国内需給が緩和することから、前年度に比べ 14.3%減少する見込み。

中国海関統計によれば、2024 年 1 月から 5 月までの輸入量は 809.4 万トンと、前年同期に比べ 12.6%増加している。輸入先別には、豪州 289.7 万トン（35.8%）、フランス 192.5 万トン（23.8%）、カナダ 178.3 万トン（22.0%）、米国 105.9 万トン（13.1%）で、フランス、カナダ及び米国の輸入シェアが前年同期から増加した一方、豪州の輸入シェアは、2023/24 年度の減産に伴う豪州産の相対的な価格競争力の低下等を受け前年同期の 62.7%から 35.8%に減少している。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、期首在庫量及び輸入量の上方修正を受け前月予測から 2.0 百万トン上方修正され 134.5 百万トンと、前年度に比べ 0.1%増となる見込み。

## 小麦－中国（冬小麦を主に栽培）

（単位：百万トン）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
			予測値、( )	はIGC		
生産量	137.7	136.6	140.0	(140.0)	-	2.5
消費量	148.0	154.0	151.0	(146.8)	-	▲ 1.9
うち飼料用	33.0	37.0	33.0	(28.0)	-	▲ 10.8
輸 出 量	1.0	1.0	0.9	(1.2)	-	▲ 10.0
輸 入 量	13.3	14.0	12.0	(10.7)	1.0	▲ 14.3
期末在庫量	138.8	134.4	134.5	(143.0)	2.0	0.1
期末在庫率	93.2%	86.7%	88.6%	(96.7%)	1.3	1.8

(参考)

収穫面積(百万ha)	23.52	23.63	23.70	(23.65)	-	0.3
単収(t/ha)	5.86	5.78	5.91	(5.92)	-	2.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2024)  
IGC 「Grain Market Report」(27 June 2024)

## 図 中国の小麦の生産量・単収の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024.7.12)をもとに農林水産省で作成

## 表 中国の小麦輸入量と輸入先国

(輸入量：万トン、シェア：%)

国 名	2024年1月～5月		2023年1月～5月		2023年1月～2023年12月	
	輸入量	シェア	輸入量	シェア	輸入量	シェア
豪州	289.7	35.8	450.5	62.7	693.9	57.4
フランス	192.5	23.8	77.6	10.8	82.5	6.8
カナダ	178.3	22.0	125.3	17.4	254.8	21.1
米国	105.9	13.1	47.5	6.6	92.6	7.7
カザフスタン	24.4	3.0	10.4	1.4	51.9	4.3
ロシア	17.4	2.1	4.5	0.6	28.5	2.4
その他	1.3	0.2	2.8	0.4	5.7	0.5
計	809.4	100.0	718.7	100.0	1,209.9	100.0

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

## 2 とうもろこし

### (1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDAの見通し> 2024/25年度

**生産量** 前年度比  前月比 

・EU、カナダ、ロシア等で下方修正されたものの、米国等で上方修正され、前月から上方修正された。

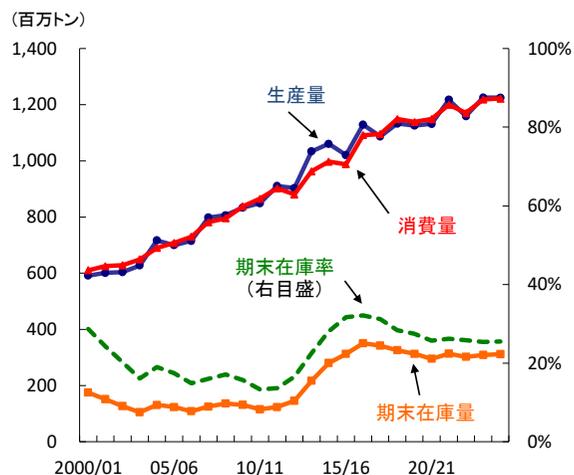
**消費量** 前年度比  前月比 

・ウクライナ、EU、イラン等で下方修正されたものの、カナダ、メキシコ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

**輸出量** 前年度比  前月比 

・EU、ロシア等で下方修正されたものの、米国等で上方修正され、前月から上方修正された。

**期末在庫量** 前年度比  前月比 



資料：USDA「PS&D」(2024.7.12)をもとに農林水産省にて作成

## ◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

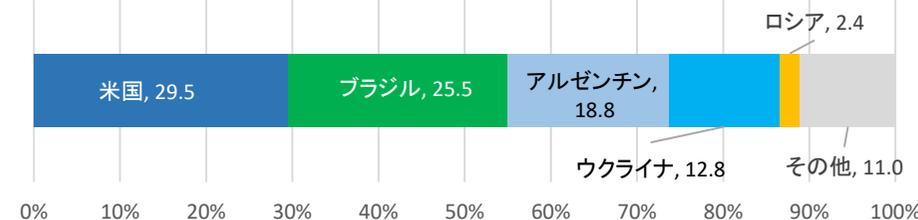
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	1,159.6	1,225.5	1,224.8	4.3	▲ 0.1
消費量	1,171.0	1,218.7	1,222.3	0.1	0.3
うち飼料用	732.4	762.2	774.8	0.3	1.6
輸出量	180.3	201.0	191.8	0.1	▲ 4.5
輸入量	173.4	188.4	186.5	0.3	▲ 1.0
期末在庫量	302.3	309.1	311.6	0.9	0.8
期末在庫率	25.8%	25.4%	25.5%	0.1	0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 July 2024)

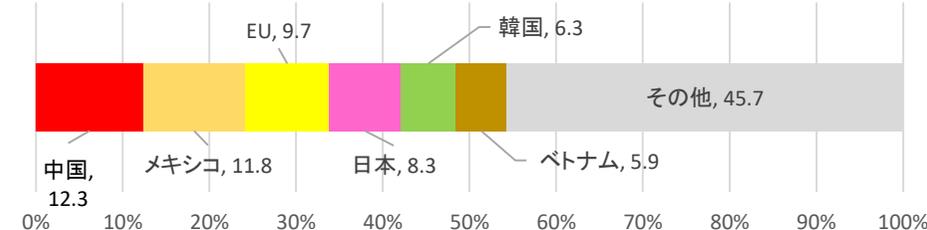
### ○ 2024/25年度 世界のとうもろこしの生産量(1,224.8百万トン) (単位：%)



### ○ 2024/25年度 世界のとうもろこしの輸出量(191.8百万トン) (単位：%)



### ○ 2024/25年度 世界のとうもろこしの輸入量(186.5百万トン) (単位：%)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 > 作付面積の増加により、生産量は6.1百万トン上方修正

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25年度の実産量は、「Acreage」(2024.6.28)において作付面積が増加したことを受け、前月予測から6.1百万トン上方修正されたものの、収穫面積の減少(対前年度比3.5%減)を受け、史上最高の前年度より1.6%減の383.6百万トンの見通し。作付け時の価格は前年度に史上最高の豊作となったとうもろこしに比べ大豆の作付けに有利であったため、多くの農家が大豆の作付けに切り替えたとみられる。

USDA「Crop Progress」(2024.7.15)によれば、シルキング進捗率は41%と、前年同期(40%)、過去5年平均(32%)を上回っている。作柄評価が「良～やや良」の比率は68%であり、乾燥の影響を受けた前年同期(57%)を上回っている。

USDA「Feed Outlook」(2024.7.16)によれば、作柄の決定に大きな影響を与える受粉期にあたる7月終盤から8月にかけての天候に注視が必要となる。

【需要状況】USDAによれば、2024/25年度の消費量は、飼料用需要の増加を受けて前月予測から1.9百万トン上方修正され、安価なとうもろこし価格から飼料需要が増加したことを受けて、前年度に比べ0.4%増の322.1百万トンの見通し。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の輸出量は、安価な米国産が価格競争力を有する見通しを受けて前月予測から0.6百万トン上方修正され、前年度並みの56.5百万トンの見込み。

USDA「Grain: World Markets and Trade」(2024.7.12)によれば、本年7月の米国産の輸出価格は、7月9日現在、良好な作柄を受けて前月から19ドル/トン下落し、181ドル/トン。なお、2023年9月～2024年6月の輸出量は4,043万トンと、前年同期の2,729万トンより48%増。主な輸出先は、メキシコ(1,265万トン)、中国(977万トン)、日本(549万トン)の順。

USDAによれば、2024/25年度の期末在庫量は、2023/24年度の消費量及び輸出量の引上げを受けて前月予測から0.1百万トン下方修正されたものの、昨年の史上最高に次ぐ高水準の生産量となる見通しを受けて、前年度より11.7%増の53.3百万トンの見込み。期末在庫率は前年度より1.4ポイント上昇し14.1%と、過去5年平均(10.9%)を上回っている。

とうもろこし—米国

(単位:百万トン)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年9月～25年8月)		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	346.7	389.7	383.6	6.1	▲ 1.6
消費量	305.9	320.8	322.1	1.9	0.4
うち飼料用	139.3	146.7	148.0	1.9	0.9
エタノール用等	131.5	138.4	138.4	-	-
輸出量	42.2	56.5	56.5	0.6	-
輸入量	1.0	0.8	0.6	-	▲ 15.8
期末在庫量	34.6	47.7	53.3	▲ 0.1	11.7
期末在庫率	9.9%	12.6%	14.1%	▲ 0.1	1.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	31.85	35.01	33.77	0.54	▲ 3.5
単収(t/ha)	10.89	11.13	11.36	-	2.1

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2024)

図 米国産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移



資料:USDA「PS&D」(2024.7.12)をもとに農林水産省にて作成。

図: 米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格(FOB)の推移



資料:IGCのデータをもとに農林水産省にて作成。

## ＜ ブラジル ＞ 2024/25 年度の生産量は増加の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、本年9月以降作付けが開始される 2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の増加を受けて前年度より 4.1%増の 127.0 百万トンと、史上第2位の生産量となる見込み。エルニーニョ現象が収束し、ラニーニャ現象に移行する見込みもあり、収穫面積は増加する可能性がある。

ブラジル食料供給公社 (CONAB) の月例報告 (2024.7.11) によれば、2023/24 年度のとうもろこしの生産量は、大豆への作付けシフトによる作付面積の減少や生育初期の高温乾燥等による単収の低下から前年度比 12.2%減の 115.9 百万トンの見込み (P.23 大豆-ブラジルのクロープカレンダー参照)。夏とうもろこしは、エルニーニョ現象による南部での降雨過多の影響等により、前年度比 14.4%減の 23.4 百万トンの見込み。夏とうもろこしの収穫進捗率は 94%と、前年同期 (95%) よりわずかに遅れているものの、収穫作業は終盤を迎えている。冬とうもろこしは、中西部の高温乾燥の影響を受け、前年度比 11.6%減の 92.4 百万トンの見込み。

USDA によれば、7月12日現在、中西部マット・グロッソ州における冬とうもろこしの収穫進捗率は 90%と、前年同期 (68%) を上回っている。なお、降雨があった場合、粒が完全に乾燥するまで収穫を待つ必要があり、本年は7月上旬に高温乾燥が広がったため、収穫が進展したとみられる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、国内の畜産物消費の増加を背景とした飼料用需要の増加から、前年度より 1.3%増の 80.5 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出力は、前月予測からの変更はなく、供給量 (前年度の期末在庫量と本年度の実産量の合計) の減少を受けて前年度より 2.0%減の 49.0 百万トンとなり、前年に引き続き米国に次ぐ世界第2位の輸出国となる見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024年1～6月の輸出力は 8.3 百万トンで、史上最高の増産となった前年度より減産したことから前年同期比 28%減。内訳は、中国 (1.4 百万トン)、エジプト (1.0 百万トン)、イラン (0.9 百万トン) の順。なお、とうもろこし輸出力は、大豆の輸出力が一巡し、冬とうもろこしの収穫を受け本格化しているとみられる。

## とうもろこし-ブラジル

(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが約8割、夏とうもろこしは約2割)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年3月～26年2月)		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	137.0	122.0	127.0 (124.6)	-	4.1
消費量	78.0	79.5	80.5 (82.8)	-	1.3
うち飼料用	61.5	63.0	64.0 (57.0)	-	1.6
輸 出 量	54.3	50.0	49.0 (43.0)	-	▲ 2.0
輸 入 量	1.3	1.3	1.5 (2.0)	-	15.4
期末在庫率	10.0	3.8	2.8 (5.0)	-	▲ 26.0
期末在庫率	7.6%	3.0%	2.2% (4.0%)	-	▲ 0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	22.40	21.50	22.30 (20.84)	-	3.7
単収(t/ha)	6.12	5.67	5.70 (5.98)	-	0.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2024)  
IGC「Grain Market Report」(27 June 2024)

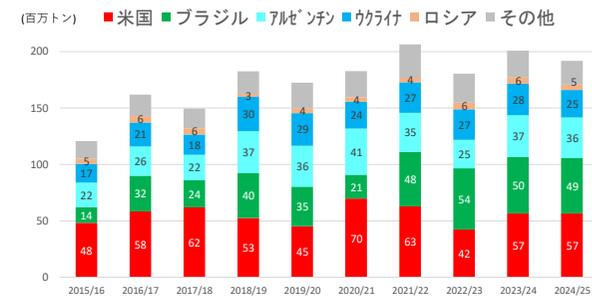
図 ブラジル産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移



資料：USDA「PS&D」(2024.7.12)をもとに農林水産省にて作成。

## 図 世界のとうもろこし輸出国の輸出力の推移

(ブラジルは米国に次ぐ世界第2位の輸出国)



資料：USDA「PS&D」(2024.7.12)をもとに農林水産省にて作成。

## < アルゼンチン > 2024/25 年度の生産量は、前年度から減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、前月予測からの変更はなく、本年9月以降作付けが開始される2024/25年度の実産量は、大豆の収益性が高まることで農家がとうもろこしの作付面積を減少させる見込みから、史上最高の前年度より1.9%減となるものの、過去5年平均より2.2%増の51.0百万トンとなる見込み。

USDA によれば、2023/24年度の実産量は、アルゼンチン農牧漁業省のデータに基づき前月予測から1.0百万トン下方修正されたものの、干ばつにより減産した2022/23年度より44%増の52.0百万トンの見込み。

アルゼンチン政府によれば、7月11日時点でとうもろこしの収穫進捗率は83%と、前年同期(71%)を上回っている。USDA によれば、7月上旬、乾燥した天候が広がり、収穫が進展した。

【需要状況】USDA によれば、2024/25年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度並みの14.8百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25年度の輸出货量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の生産量となった前年度からの減産を受けて、前年度より2.7%減の36.0百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2024年1～5月の輸出货量は15.1百万トンで、2022/23年度の減産から回復したことを受け、前年同期(8.3百万トン)比で82%増となった。内訳は、ベトナム(2.9百万トン)、アルジェリア(1.6百万トン)、ペルー(1.6百万トン)の順。

現地情報によれば、7月に、中国の国有企業のCOFCO(中糧集団)が、アルゼンチン産とうもろこしの中国向けの出荷を準備しており、輸出されれば15年ぶりの中国向け輸出再開となる。

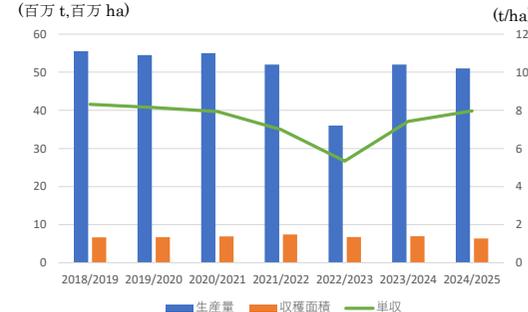
前年12月10日に右派のミレイ政権が誕生し、同12日に経済相は通貨ペソの公式レートを、現行の1ドル=350ペソから1ドル=800ペソに引き下げた。また、2021年12月以降、国内向け穀物供給不足の回避と食料品価格の上昇を抑制するため、小麦及びとうもろこしに輸出上限数量を設定していたものの、2024年5月に、市場に対する規制改革の一環として、小麦及びとうもろこしの輸出上限数量の撤廃を決定した。なお、アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019年12月14日、輸出税を約7%から12%へ引き上げ、これを継続している。

## とうもろこし—アルゼンチン

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年3月～26年2月)			
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	36.0	52.0	51.0 (54.0)	-	▲ 1.9	
消費量	14.2	14.8	14.8 (20.2)	-	-	
うち飼料用	10.0	10.4	10.3 (15.0)	-	▲ 1.0	
輸 出 量	25.2	37.0	36.0 (34.0)	-	▲ 2.7	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	▲ 50.0	
期末在庫量	1.3	1.5	1.7 (1.6)	-	13.0	
期末在庫率	3.3%	3.0%	3.4% (3.0%)	-	0.5	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	6.75	7.00	6.40 (8.10)	-	▲ 8.6	
単収(t/ha)	5.33	7.43	7.97 (6.79)	-	7.3	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2024)  
IGC「Grain Market Report」(27 June 2024)

図 アルゼンチン産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移  
(百万 t, 百万 ha) (t/ha)



資料：USDA「PS&D」(2024.7.12)をもとに農林水産省にて作成。

表 アルゼンチンのとうもろこし輸出货量と輸出国

(単位：万 t)			
2024年5月		2024年1月～5月	
国名	輸出货量	国名	輸出货量
ベトナム	71.7	ベトナム	287.9
韓国	49.6	アルジェリア	161.1
アルジェリア	39.6	ペルー	159.3
計	330.3	計	1,513.8

資料：アルゼンチン国家統計局(INDEC)をもとに農林水産省にて作成。

## < ウクライナ > 2024/25 年度の生産量は、前年度より 10.6%減の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、収益性の高い油糧種子への作付けシフトを受けて収穫面積が減少（対前年度比 2.5%減）するとともに、天候に恵まれ史上第 2 位となった前年度から単収も減少（対前年度比 8.4%減）する見込みを受け、前年度より 10.6%減、侵攻前の史上最高の豊作となった 2021/22 年度から 34.2%減の 27.7 百万トンとなる見通し。

ウクライナ農業政策食料省によれば、6 月 6 日時点で作付けは完了。生育ステージは七葉期から開花期を迎えている。7 月 9 日現在、東部の一部地域では記録的な干ばつとなっており、高温が生育に悪影響を及ぼすことが懸念されているものの、西部や中部では降雨があり、高温の影響は限定的な範囲に留まるとみられる。

一方で、USDA によれば、7 月上旬、ウクライナ全域で高温乾燥が広がり、土壌水分量が低下したとみられており、今後の天候や作柄への影響を注視する必要がある。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、飼料用需要の引下げを受けて前月予測から 0.6 百万トン下方修正され、減産による供給減を受けて前年度より 5.8%減の 4.1 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、供給減や EU での増産による輸入需要の減少を受け、前年度より 12.5%減の 24.5 百万トンの見込み。

なお、2023/24 年度の実績は、現在の輸出ペースを受けて前月予測から 2.0 百万トン上方修正され、前年度より 3.3%増の 28.0 百万トンの見込み。

ウクライナ政府等によれば、臨時回廊による輸出が本格化した 2023 年 10 月～2024 年 6 月の輸出量は 2,597 万トン（海上輸送、陸路等による全ての輸出が含まれる）と、黒海穀物イニシアティブ履行時の前年同期比で 7.0%増。輸出先国は、スペイン（584.3 万トン）、中国（461.6 万トン）、エジプト（348.5 万トン）、オランダ（211.6 万トン）の順。2023/24 年度に干ばつとなったスペイン向けが最大となっている。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、2023/24 年度の実績の引上げ等を受けて前月予測から 0.8 百万トン下方修正され、減産による供給減から前年度より 55.0%減、侵攻前の 5 か年平均より 72%減の 0.7 百万トンの見込み。2024/25 年度の実績率は、前年度から 2.7 ポイント減の 2.4%と、2018/19 年度以来の低水準となる見込み。

## とうもろこし-ウクライナ

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、( ) は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.0	31.0	27.7 (27.7)	-	▲ 10.6
消費量	4.9	4.3	4.1 (5.8)	▲ 0.6	▲ 5.8
うち飼料用	4.0	3.3	3.1 (4.0)	▲ 0.6	▲ 6.1
輸出量	27.1	28.0	24.5 (23.0)	-	▲ 12.5
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	2.8	1.5	0.7 (1.4)	▲ 0.8	▲ 55.0
期末在庫率	8.7%	4.7%	2.4% (4.8%)	▲ 2.7	▲ 2.3

(参考)

取獲面積(百万ha)	4.05	4.00	3.90 (4.06)	-	▲ 2.5
単収(t/ha)	6.67	7.75	7.10 (6.83)	-	▲ 8.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2024)  
IGC 「Grain Market Report」(27 June 2024)

図 とうもろこしの生産量、輸出量、期末在庫量の推移  
(2024/25 年度の実績は、2017/18 年度以来の低水準の見通し)

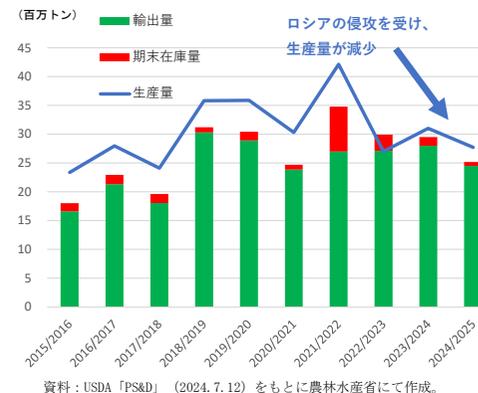


表 ウクライナ産とうもろこしの主な輸出先国

	2024年6月		2023年10月～2024年6月	
	国名	輸出量	国名	輸出量
1	スペイン	67.3	スペイン	584.3
2	オランダ	36.4	中国	461.6
3	エジプト	35.8	エジプト	348.5
4	イタリア	29.0	オランダ	211.6
5	中国	21.4	イタリア	226.4
6	トルコ	12.0	トルコ	193.4

資料：ウクライナ国家統計局のデータを基に農林水産省にて作成。

## < 中国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度から増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、作付面積の増加見込みを受けて、前年度より 1.1%増の 292.0 百万トンとなり、史上最高となる見込み。

USDA によれば、7月上旬、主産地の東部の黒竜江省等では乾燥傾向になっているものの、とうもろこしの水分状況は良好のままとみられる。なお、6月中旬から高温乾燥となっていた河南省や山東省では、7月上旬に降雨があり、極度の高温乾燥は和らいだとみられる。

一方で、業界情報によれば、河南省や山東省では直近の降雨により干ばつは和らいでいるものの、一部地域では降雨過多による洪水の影響が懸念されている。

報道情報によれば、7月上旬現在、七葉期から節間伸長期を迎えている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、飼料用需要が増大し、前年度より 2.0%増の 313.0 百万トンと史上最高の見込み。背景には国内の堅調な食肉需要があり、中国国家统计局 (2024.1.17) によれば、2023 年の食肉生産量は 9,641 万トンと、前年比で 4.5%増。ただし、業界情報によれば、直近では中国の経済成長が鈍化し、豚肉の価格が低迷する中、中国政府は 3 月から国内の養豚飼育数の生産目標を減らす供給過剰対策を開始しており、飼料用需要減少につながるの見方もある。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、ブラジル産及びウクライナ産への堅調な需要が続くことから、前年度並みの 23.0 百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、2024 年 1～5 月の輸入量は、前年同期比 0.5%減の 1,013.0 万トンとほぼ横ばい。内訳は、ブラジル (576.5 万トン)、ウクライナ (295.9 万トン)、米国 (116.4 万トン) の順。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2024 年 5 月号」によると、5 月の国内価格は、飼料・畜産企業が安価なとうもろこし価格を受けて在庫を増やしたことから、2,460 元/トンと前月 (2,440 元/トン) から小幅に上昇した。

USDA によれば、2024/25 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、増産により前年度より 0.9%増の 212.8 百万トンの見込み。

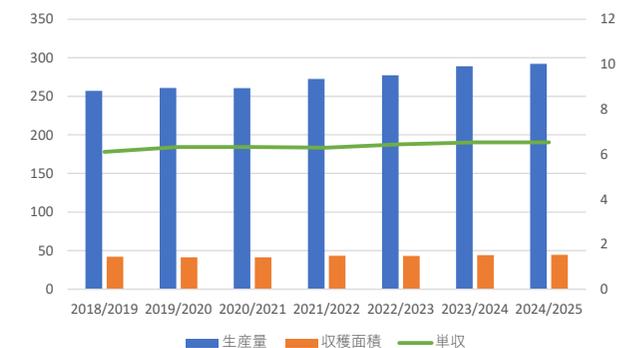
## とうもろこし—中国

(単位:百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)			
			予測値、( ) はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	277.2	288.8	292.0	(296.0)	-	1.1
消費量	299.0	307.0	313.0	(315.7)	-	2.0
うち飼料用	218.0	225.0	231.0	(213.0)	-	2.7
輸 出 量	0.0	0.0	0.0	(0.1)	-	-
輸 入 量	18.7	23.0	23.0	(19.1)	-	-
期末在庫量	206.0	210.9	212.8	(179.6)	-	0.9
期末在庫率	68.9%	68.7%	68.0%	(56.9%)	-	▲ 0.7
(参考)						
収穫面積(百万ha)	43.07	44.22	44.70	(44.20)	-	1.1
単収(t/ha)	6.44	6.53	6.53	(6.70)	-	-

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2024)  
IGC 「Grain Market Report」(27 June 2024)

図 中国産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移  
(百万 t,百万 ha) (t/ha)



資料: USDA 「PS&D」(2024.7.12) をもとに農林水産省にて作成。

表 中国のとうもろこし輸入量と輸入先国

(輸入量: 万トン、シェア: %)

2024年 1～5 月			2023年 1月～2023年12月			2022年 1月～2022年12月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	576.5	56.9	ブラジル	1,280.6	47.2	米国	1,486.5	72.1
ウクライナ	295.9	29.2	米国	714.4	26.3	ウクライナ	526.4	25.5
米国	116.4	11.5	ウクライナ	551.8	20.3	ミャンマー	19.4	0.9
ロシア	7.0	0.7	ブルガリア	73.9	2.7	ブルガリア	14.7	0.7
南アフリカ共和国	5.6	0.5	ミャンマー	38.1	1.4	ロシア	9.5	0.5
ブルガリア	4.7	0.5	ロシア	29.4	1.1	ラオス	5.1	0.2
その他	7.1	0.7	その他	24.5	0.9	その他	0.2	0.0
計	1013.0	100	計	2,712.7	100	計	2,061.8	100

資料: 中国海関統計をもとに農林水産省で作成。

### 3 コメ

#### (1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDAの見通し> 2024/25年度

**生産量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・パキスタン等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

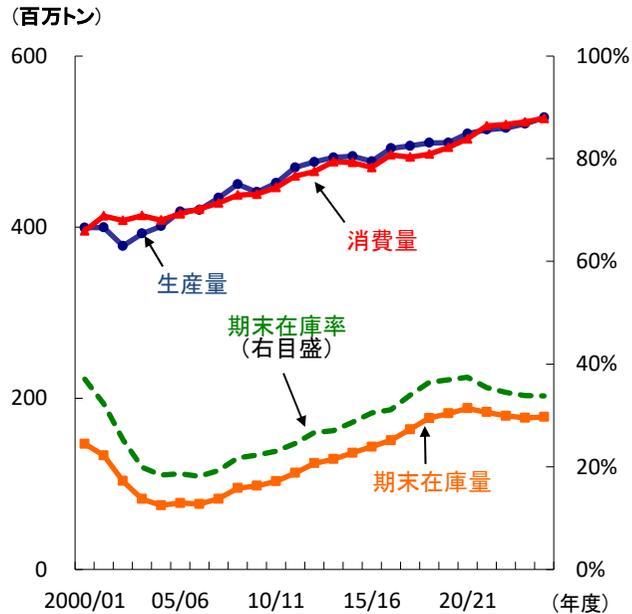
**消費量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ネパール等で下方修正されたものの、フィリピン、パキスタン等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

**輸出量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・パキスタン等で上方修正され、前月から上方修正された。

**期末在庫量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」(2024.7.12)をもとに農林水産省にて作成

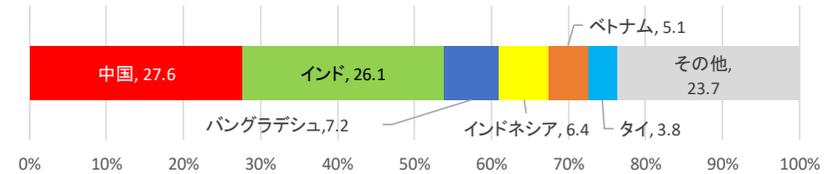
#### ◎世界のコメ需給

(単位：百万精米トン)

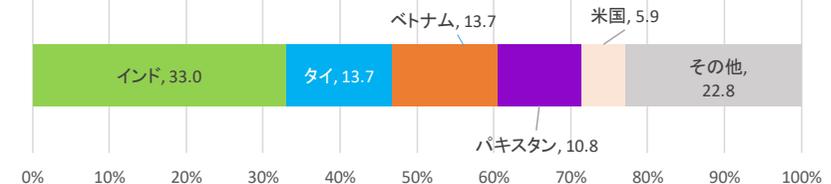
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	515.8	520.9	528.2	0.54	1.4
消費量	520.1	523.1	527.3	0.83	0.8
輸出量	54.6	54.4	54.6	0.7	0.3
輸入量	56.6	51.8	50.8	0.2	▲ 2.0
期末在庫量	179.4	177.2	178.1	0.1	0.5
期末在庫率	34.5%	33.9%	33.8%	▲ 0.0	▲ 0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 July, 2024)

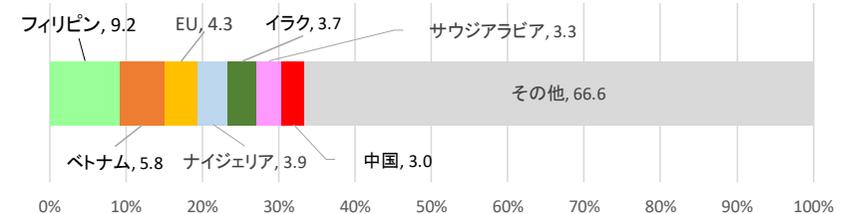
#### ○ 2024/25年度 世界のコメの生産量(528.2百万トン) (単位：%)



#### ○ 2024/25年度 世界のコメの輸出量(54.6百万トン) (単位：%)



#### ○ 2024/25年度 世界のコメの輸入量(50.8百万トン) (単位：%)



## (2) 国別のコメの需給動向

### < タイ > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.5%増加見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、20.1 百万トンの見込み。雨期の開始が遅れ降雨量が少なかった 2023 年に比べ、2024 年は平年通りの雨期（例年 5 月～10 月）となり収穫面積の回復が見込まれることから、前年度に比べ 0.5%増加する見込み。

タイ農業協同組合省農業経済局によれば、2024/25 年度の雨季米の作付面積は、前年度比 0.6%増の 10.0 百万ヘクタール、生産量は前年度比 3%増の 26.3 百万トン（もみベース）の見込み。

なお、東北部や中部では乾燥天候への懸念等から乾燥に強いキャッサバや、前年度の実生産量減少により価格が高騰しているサトウキビへの作付けのシフトがあるとみられるものの、コメの市場価格が高いことや北部での良好な天候を受けタイ全体の作付面積は増加する見込み。

USDA「Weekly Weather」(2024.6-7)によると、タイは5月中旬頃から雨期に入り、5月から6月末までの降水量は平年を上回った。7月に入り、一部地域で乾燥天候による生育への影響が懸念されていたものの、タイの大部分の地域では降雨に恵まれており土壌水分は良好である。

アセアン食料安全保障情報システム(2024.7)及び現地情報によると、コメの全体の予想作付面積の 69%で作付けが終了しており、雨季米の生育段階は分けつ期に入っている。5月から7月にかけての降雨量は十分であったため、前年度に比べ生育状況は良好である。タイ気象局によると、雨期期間中の 2024 年 7 月から 9 月の降雨量は例年並みの予想で、雨季米の生育は順調に進むとみられている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25 年度（2025 年 1 月～12 月）の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度比 11.8%減の 7.5 百万トン。政府備蓄の不足に対処するため輸入を拡大していたインドネシアからの需要が減少する見込み。また、2023/24 年度（2024 年 1 月～12 月）の輸出量は、前月予測からの変更はなく、降雨不足等による減産見込みから、前年度比 2.3%減の 8.5 百万トンの見込み。タイ関税局によれば、2024 年 1～5 月の輸出量は、前年同期比 22.4%増の 322.9 万トンとなった。このうち、政府備蓄の不足に対処するため輸入を拡大しているインドネシア向けの輸出量は、前年同期の 46.5 万トンから 44.9%増加し、91.5 万トンと最大となった。なお、2024 年後半も、インドのコメの輸出制限の継続、インドネシア向け輸出量の拡大、パーツ安による国際価格競争力の上昇により、タイ政府は当初の輸出量予測の 750 万トンを上回る 800 万トンを見込んでいる。一方タイ米輸出協会はタイ産の価格高騰による国際競争力の低下を懸念している。

## コメータイ

夏の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年1月～25年12月)			
			予測値、〇はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	20.9	20.0	20.1 (20.1)	-	0.5	
消費量	12.6	12.6	12.6 (12.7)	-	-	
輸出量	8.7	8.5	7.5 (8.0)	-	▲ 11.8	
輸入量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	-	
期末在庫量	3.8	2.8	2.9 (3.1)	-	3.6	
期末在庫率	17.6%	13.0%	14.2% (15.0%)	-	1.1	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	11.07	10.65	10.70 (10.65)	-	0.5	
単収(もみt/ha)	2.86	2.85	2.85 (1.88)	-	-	

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July, 2024)  
IGC「Grain Market Report」(27 June, 2024) (単収は精米t/ha)

表: タイの国別輸出量

(単位:万トン)

国名	2023年 1-5月	2024年 1-5月	対前年増減量
1 インドネシア	46.5	91.5	44.9
2 イラク	59.3	36.3	-22.9
3 米国	29.8	34.5	4.7
4 フィリピン	6.1	28.1	22.0
5 南アフリカ	36.4	22.9	-13.4
6 コートジボワール	2.3	15.8	13.6
7 モザンビーク	6.6	15.0	8.4
8 中国	16.0	14.4	-1.6
計	263.7	322.9	59.2 (前年比22.4%増)

## < 米国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ増加

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25 年度の実績は、単収の上昇を受け前月予測から 0.1 百万トン上方修正され 7.0 百万トンの見込み。前年度に比べ、収穫面積の増加（前年度比 0.9%増）から 1.6%増加する見込み。種類別には、前年度予測に比べ、長粒種は、アーカンソー州等の南部での収穫面積の増加から 5.3 百万トン、中・短粒種は、低調な需要から、収穫面積が減少し 1.6 百万トンの見込み。

同「Acreage」（2024.6.28）によれば、2024/25 年度のコメ全体の作付面積は前年度に比べ 2%増の 1.19 百万ヘクタール。種類別の作付面積は、長粒種は同 10%増の 0.92 百万ヘクタール、中短粒種は同 20%減の 0.27 百万ヘクタールとなる見込み。

同「Crop Progress」（2024.7.15）によれば、7 月 14 日時点の主要生産 6 州の出穂進捗率は 44%と前年同期（34%）及び過去 5 年平均（27%）を上回っている。地域別には、長粒種の主要産地である南部では作付けが早まったため、過去 5 年平均を 5%上回っている。また、中・短粒種の主要生産州のカリフォルニア州では、4 月末の作付初期における豪雨で作付けが遅れたものの、出穂進捗率は過去 5 年平均並みの 20%に改善している。作柄評価は、「やや良～良」の割合が 80%と良好な生育条件に恵まれ前年同期（73%）を 7 ポイント上回っている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、増産による供給量増加の見込みから、前年度比 1.8%増の 5.1 百万トンと史上最高の見込み。

2024/25 年度の輸入量は、タイ、インドを主に、アジア諸国からの香り米の輸入が継続する見込みを受け、前月予測から 0.04 百万トン上方修正され 1.5 百万トンと、前年度を 2.8%上回り史上最高の見込み。

2024/25 年度の実績は、前月予測から 0.03 百万トン上方修正され 3.2 百万トンと、輸出余力の増加から前年度に比べ 5.2%増加する見込み。種類別の輸出量は、前年度に比べ、長粒種は米国の豊富な輸出余力と価格競争力から中南米諸国向けが増加し、中・短粒種は米国产の価格低下から増加する見込み。中・短粒種の主要輸出先は日本、韓国、台湾。2023/24 年度（2023 年 8 月 1 日～2024 年 5 月 30 日）の輸出量は 3.5 百万トンで、主な輸出先国は、メキシコ（94.5 万トン）、ハイチ（36.8 万トン）、日本（31.3 万トン）の順。2024/25 年度の期末在庫量は、増産による供給量の増加及びアジア産長粒種の香り米の輸入量が史上最高を受け、前年度と比べ 15.0 %増の 1.5 百万トンの見込み。

## コメー米国

主に長粒種はミシシッピ川沿いで栽培、中・短粒種のシェアは 1/4 米国产米に占めるカリフォルニア産米のシェアは約 2 割

(単位：百万精米トン)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年 8 月～25年 7 月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	5.1	6.9	7.0	0.1	1.6
消費量	4.6	5.0	5.1	-	1.8
輸出量	2.1	3.1	3.2	0.03	5.2
輸入量	1.3	1.4	1.5	0.04	2.8
期末在庫量	1.0	1.3	1.5	0.1	15.0
期末在庫率	14.4%	15.8%	17.6%	0.5	1.8

(参考)

収穫面積(百万ha)	0.88	1.16	1.17	-	0.9
単収(もみt/ha)	8.28	8.57	8.57	0.01	-

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July, 2024)

図：米国の長粒種と中・短粒種の生産量・輸出価格の推移



資料：USDA「Rice Outlook」(2024. 7. 14) より。価格は年度内の平均価格。

## < 中国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ増加

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の増加（前年度比 0.2%増）及び史上最高の単収（前年度比 0.7%増）から、前年度比 1.0%増の 146.0 百万トンの見込み。小麦やとうもろこしに比べて収益性が高いことや、政府の最低支持価格の上昇、二期作の推進を受け、収穫面積は増加する見込み。

中国中央气象台（2024.7）によると、東北地域の大部分では、土壌水分が適度で生産は良好だったものの、主要産地の黒龍江省の大部分では、低温や日照不足から生育が遅れている。中国南部の産地では降水量が多く、洪水の発生により一期作の分けつ、二期作早稲の出穂、開花に影響を及ぼした。

全国農業気象月報（2024.7.5）によれば、一期作米は東北地区で大部分が分けつ期、南部の長江・中下流域では活着期から分けつ期、二期作早生は出穂期から乳熟期、二期作晩稲は発芽期から三葉期を迎えている。なお、吉林省、湖北省等の一期作米の平均単収は前年度比で 1.5%以上増加する見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく 145.0 百万トン。飼料用需要が比較的安価なとうもろこしへシフトすることや、食用需要が高齢化の進展、若年層の食生活の西洋化等に伴い減少することから、前年度比 2.2%減少する見込み。消費量は 2021/22 年度に史上最高の 156.4 百万トンに達したのち、3年連続で減少している。

2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、特に飼料用の国内消費量の減少や生産量の増加から、前年度比 9.1%減の 1.5 百万トンの見込み。

2023/24 年度の輸入量は、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され 1.7 百万となるものの、前年度に比べ 62.3%の減少。中国はこれまで、もち米や香米に加え、価格が高騰したとうもろこし等の飼料用穀物の代替としてインド等から砕米を輸入してきたが、2022 年 9 月以降のインドのコメの輸出禁止等を受け、輸入量は規制前の年度（2021/22 年度、6.0 百万トン）と比較して 73.3%減少している。

中国海関統計によれば、2024 年 1～5 月の輸入量は 64.1 万トン（前年同期比 60.8%減）で、輸入国別では、1 位ベトナム（シェア 30.7%）、2 位タイ（同 27.8%）、3 位ミャンマー（同 26.7%）の順。

2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測から変更はなく、104.0 百万トン。2021/22 年度以降減少してきたものの、2024/25 年度は前年度比 1.0%増と増加に転じた。世界の期末在庫量に占める中国の在庫量の割合は 58.4%に達している。

## コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位: 百万精米トン)

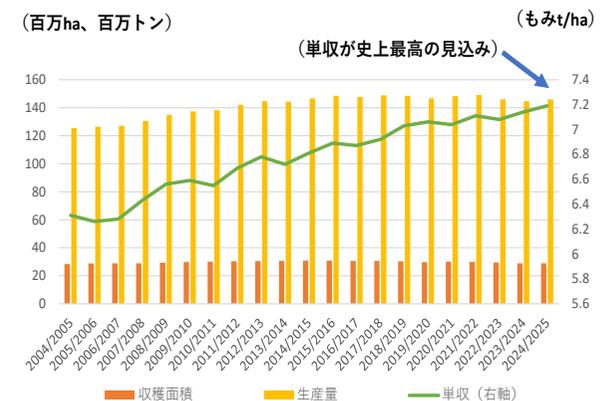
年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月~25年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	146.0	144.6	146.0 (145.0)	-	1.0
消費量	155.0	148.2	145.0 (145.4)	-	▲ 2.2
輸出量	1.7	1.7	1.5 (1.7)	-	▲ 9.1
輸入量	4.4	1.7	1.5 (2.3)	-	▲ 9.1
期末在庫量	106.6	103.0	104.0 (101.6)	-	1.0
期末在庫率	68.0%	68.7%	71.0% (69.1%)	-	2.3

(参考)

収穫面積(百万ha)	29.45	28.95	29.00 (28.95)	-	0.2
単収(もみt/ha)	7.08	7.14	7.19 (5.00)	-	0.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July, 2024)  
IGC 「Grain Market Report」(27 June, 2024) (単収は精米/ha)

図: 中国の生産量、収穫面積、単収の推移  
(2004/05~2024/25 年度)



資料: USDA 「PS&D」(2024.7.12)をもとに農林水産省にて作成

## < インド > 2024/25 年度の生産量は、前年度比で 0.7%増加

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、138.0 百万トンと、前年度比で 0.7%増加、過去 5 年平均比で 6.9%増加し、史上最高の見込み。前年度と異なり、雨季が例年通り 6 月から始まり、作付けも例年通り開始されたことで、収穫面積が前年度比で 1.9%増加 (48.50 百万ヘクタール) することが要因。

USDA「Weekly Weather」(2024.6-7)によると、例年通りの雨季の到来を受け、作付けは南部から開始、6 月初旬には北部の灌漑栽培地域でほぼ終了。6 月末にはモンスーンがインド全土を覆い、北東部は引き続き豪雨に見舞われたものの、土壌水分は良好となった。一方、例年並みの降雨となった北部では、灌漑用水が補充された。インド政府農業農民福祉省によると、2024 年 7 月時点での 2024/25 年度のカリフ米の作付面積は、前年の 958 万ヘクタールを上回り 1,150 万ヘクタールである。

【貿易情報・その他】USDA「Rice Outlook」(2024.7.16)によれば、2024/25 年度の実績は、前月予測からの変更はなく 120.0 百万トンと、前年度に比べ 2.1%の増加。国民の食料安全保障を確保するためにインド政府による公的食料配給制度が継続しており、豊作を受け、より多くのコメが供給される見込み。政府は公的食料配給制度により市場からコメ等を調達し、低所得世帯 (8.14 億人以上) に無償で配給している。2023/24 年度の実績量は 52.5 百万トンと、インド全体の消費量の概ね半分に相当する。

2024/25 年度の実績量は、前月予測からの変更はなく、供給量の増加を受け、前年度比 12.5%増の 18.0 百万トンの見込み。依然として世界第 1 位の輸出シェアを維持しており、世界全体のコメ輸出総量の約 33%を占める。

2023/24 年度の実績量は、前月予測からの変更はなく 16.0 百万トンと、前年度比 21.0%減。2023 年 10 月から 2024 年 4 月までの実績量は 8.6 百万トンで、主な輸出先国は、サウジアラビア (88.2 万トン)、イラク (57.9 万トン)、ギニア (55.3 万トン) の順。サウジアラビア等中東諸国向けはバスマティ米の輸出が主である。なお、インドは、2022 年 9 月 9 日以降、非バスマティ米を中心に、様々な輸出規制を発動・強化している。2024 年 2 月 21 日には、インド財務省は本年 3 月 31 日までの予定だったパーボイルド米の 20%の輸出関税を無期限に延長した(詳細は右表を参照)。なお、総選挙の結果、現政権が継続することとなり、インフレ抑制 (目標は 2-6%) 等のため、輸出規制等の政策は継続の見込み。インド食料公社 (Food Cooperation of India) によれば、期末在庫量は、32.5 百万トンと前年度に比べ 24.0%増の見込み。

## コメーイインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月~25年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	135.8	137.0	138.0 (137.5)	-	0.7
消費量	114.5	117.5	120.0 (118.5)	-	2.1
輸出量	20.3	16.0	18.0 (17.3)	-	12.5
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	35.0	38.5	38.5 (41.9)	-	-
期末在庫率	26.0%	28.8%	27.9% (30.9%)	-	▲ 0.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	47.83	47.60	48.50 (47.75)	-	1.9
単収(もみt/ha)	4.26	4.32	4.27 (2.71)	-	▲ 1.2

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July, 2024)  
IGC「Grain Market Report」(27 June, 2024) (単収は精米t/ha)

表:インドのコメ輸出規制(2022年9月9日~)

対象品目	措置内容	発動日
全ての種類のコメの粗 (HS 1006 10)	輸出税 (20%)	2022.9.9~
全ての種類のコメの玄米 (HS 1006 20)	輸出税 (20%)	2022.9.9~
バスマティ米・精米 (HS1006 30 20)	関税: 12,000ルピー/t (日本円で約2万円/t)	(法定税率)
	最低輸出価格導入 (1,200ドル/トン→950ド ル/トンに引き下げ (2023.10.26~))	2023.8.27~
パーボイルド米・精米 (HS1006 30 10)	輸出税 (20%)	2023.8.25~
バスマティ米・パーボ イルド米以外の精米 (HS1006 30 90)	輸出禁止	2023.7.20~ 2024.12.31
碎米 (HS1006 40 00)	輸出禁止	2022.9.9~

※食料安全保障上の理由でインド政府が認める場合は輸出を許可。  
※有機米は本措置の対象外。  
資料: インド政府の公示等をもとに農林水産省にて作成。

## < ベトナム > 2024/25 年度の生産量は、前年度並みの 27.0 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、27.0 百万トンと、収穫面積がわずかに増加するものの、単収が減少することから前年度並みの見込み。

収穫面積は 2023/24 年度からほぼ横ばいとなったものの、南部沿岸地域における海水の浸潤やメコン川の水流通減少、肥料価格の高騰や高収益作物等（果物・野菜・養殖）への転換等から、2014/15 年度に史上最高の 782.3 万ヘクタールに達した後、緩やかな低下傾向にある。

アセアン食料安全保障情報システム（2024.7）によると、①北部では、冬春作（乾季米）の収穫が終了。単収は 6.48 もみトン/ヘクタールと、十分な灌漑用水から前年度より 0.8%上昇する見込み。また、夏秋作（雨季米）は作付期から分けつ期に入っており、豊富な灌漑用水により生育状況は良好。②南部では、夏秋作（雨季米）が登熟期に入っている。生育初期段階では高温と降雨不足により生育状況が懸念されたものの、6 月後半の降雨により生育状況は改善している。また、メコンデルタ地方では、夏秋作の早期作付米の収穫が 0.2 百万ヘクタールで行われている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、7.5 百万トンと、飼料用需要等の増加により国内消費量が増加する見込みから、前年度に比べ 9.6%減の見込み。

2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 8.3 百万トンと史上最高の見込み。

現地情報によれば、インドネシアではエルニーニョ現象による降雨不足等からコメが減産となる見込みを受け、2023 年 10-12 月にかけてコメの輸入量が増加した。2023 年（1-12 月）のコメ輸入量は合計 306.3 万トンで、そのうちベトナム産は 114.8 万トン（シェア 37.5%）。なお、2024 年 1-4 月のコメの収穫量も前年同期比で減少する見込みから、インドネシア政府は合計 360 万トンの輸入枠を決定した。

ベトナム関税総局によれば、2024 年 1-6 月の輸出量は 454.8 万トンと、前年同期（423.4 万トン）に比べ 7.4%増加。主な輸出先国は、フィリピン（193.8 万トン、前年同期 14.3%増）、インドネシア（71.2 万トン、同 44.6 %増）、マレーシア（46.2 万トン、同 136.5%増）、中国（21.5 万トン、同 68.3 %減）の順。

USDA 「Grain: World Markets and Trade」（2024.7.12）及び「Rice Outlook」（2024.7.14）によれば、ベトナム産米（長粒種、5 %碎米混入）の 7 月 9 日までの週の価格は、インドネシアやフィリピンからの需要が低調であったことや、収穫が進んでいる夏秋作の市場への出回りから、前月の価格より 10 ドル/トン低下し、588 ドル/トンとなった。

## コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年 1月~25年12月)		
			予 測 値、()は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	26.9	27.0	27.0 (28.6)	-	-
消 費 量	21.9	22.0	22.1 (22.1)	-	0.5
輸 出 量	8.2	8.3	7.5 (7.8)	-	▲ 9.6
輸 入 量	2.8	2.8	3.0 (1.6)	-	7.3
期末在庫量	2.4	1.9	2.2 (3.0)	-	18.7
期末在庫率	8.0%	6.2%	7.5% (9.9%)	-	1.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.10	7.15	7.15 (7.10)	-	0.1
単収(もみt/ha)	6.07	6.05	6.04 (3.95)	-	▲ 0.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July, 2024)、  
IGC 「Grain Market Report」(27 June, 2024) (単収は精米t/ha)

図：長粒種の FOB 価格の推移



資料: USDA 「Rice Outlook」(2024.7.14)より。

## II 油糧種子 大豆

### (1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDAの見通し> 2024/25年度

**生産量** 前年度比 前月比

- ・カナダで上方修正されたものの、米国、ロシアで下方修正され、前月予測から下方修正された。史上最高の見込み。

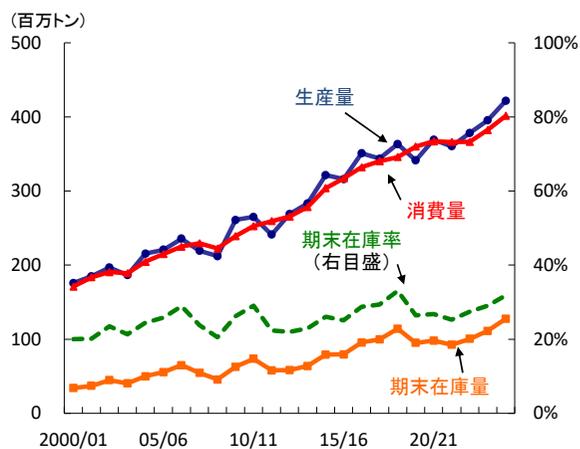
**消費量** 前年度比 前月比

- ・カナダで上方修正されたものの、ロシア等で下方修正され、前月予測から下方修正された。史上最高の見込み。

**輸出量** 前年度比 前月比

- ・米国、ブラジル、アルゼンチン等で増加し、前年度を上回り、史上最高の見込み。

**期末在庫量** 前年度比 前月比



資料：USDA「PS&D」（2024.7.12）をもとに農林水産省で作成

## ◎世界の大豆需給

(単位：百万トン)

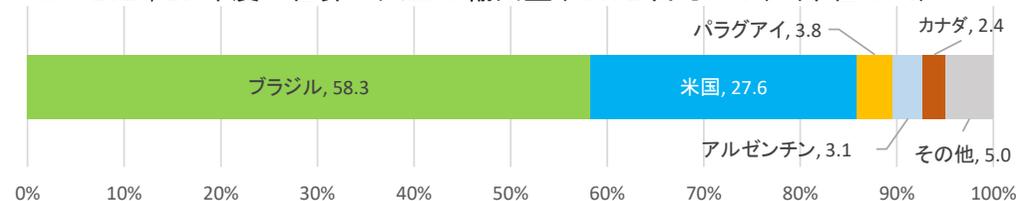
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	378.4	395.4	421.9	▲ 0.4	6.7
消費量	366.4	382.5	401.5	▲ 0.1	5.0
うち搾油用	315.4	329.2	345.7	▲ 0.1	5.0
輸出量	171.8	175.1	180.2	-	2.9
輸入量	167.9	172.9	176.4	-	2.0
期末在庫量	100.6	111.3	127.8	▲ 0.1	14.8
期末在庫率	27.5%	29.1%	31.8%	▲ 0.0	2.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 July 2024)

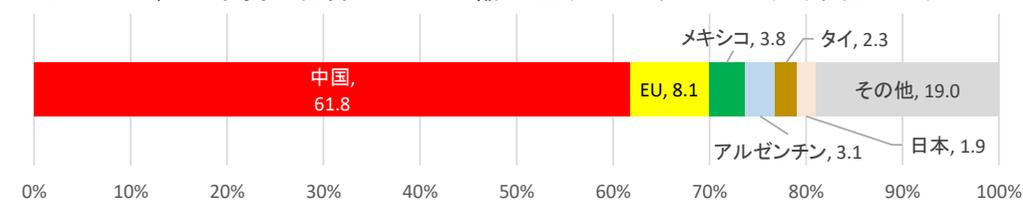
### ○ 2024/25年度の世界の大豆の生産量(421.9百万トン)(単位：%)



### ○ 2024/25年度の世界の大豆の輸出量(180.2百万トン)(単位：%)



### ○ 2024/25年度の世界の大豆の輸入量(176.4百万トン)(単位：%)



## (2) 国別の大豆の需給動向

### < 米国 > 作付面積の減少により、生産量は0.4百万トン下方修正

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25年度の実生産量は、「Acreage」(2024.6.28)において作付面積が減少したことを受け、前月予測から0.4百万トン下方修正されたものの、収穫面積及び単収の増加を受け、前年度より6.5%増の120.7百万トンの見通し。作付け時の価格が前年度に史上最高の豊作となったとうもろこしに比べ大豆の作付けに有利であったため、多くの農家が大豆の作付けに切り替えたとみられる。

USDA「Crop Progress」(2024.7.15)によれば、開花進捗率は51%と、前年同期並みであり、過去5年平均(44%)を上回っている。着莢率は18%と、前年同期(17%)、過去5年平均(12%)を上回っている。作柄評価が「良～やや良」の比率は68%と、乾燥の影響を受けた前年同期(55%)を上回っている。大豆については、開花期を迎える7月から8月までの気温と降雨が作柄の決定に大きな影響を与えるといわれており、今後の天候に注視が必要となる。

【需要状況】USDAによれば、2024/25年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、バイオ燃料等需要増による搾油の収益改善の見通しから、前年度より5.5%増の69.0百万トンで史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、世界全体の搾油用需要が増加する見通しから、前年度より7.3%増の49.7百万トンの見込み。

USDA「Oilseeds: World Markets and Trade」(2024.7.12)によれば、本年7月の米国の大豆価格は、7月9日現在、生育に適した天候から作柄が良好であることを受けて前月から11ドル/トン下落し、446ドル/トンとなったものの、ブラジル産(434ドル/トン)を上回っている。なお、USDAによれば、2023年9月～2024年6月の輸出量は4,561万トンと、世界的な大豆需要の増加を受けて前年同期の4,538万トンより0.5%増。内訳は中国(2,359万トン)、メキシコ(564万トン)、日本(312万トン)の順となっている。

USDAによれば、2024/25年度の期末在庫量は、減産を受けて前月予測から0.5百万トン下方修正され、前年度より26.1%増の11.9百万トンとなる見込み。期末在庫率は10.0%で、過去5年平均(8.0%)を上回り10%台まで回復したものの、引き続き低水準に留まる見通し。

## 大豆—米国

(単位:百万トン)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年9月～25年8月)		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	116.2	113.3	120.7	▲ 0.4	6.5
消費量	63.3	65.4	69.0	-	5.5
うち搾油用	60.2	62.3	66.0	-	5.9
輸出量	53.9	46.3	49.7	-	7.3
輸入量	0.7	0.5	0.4	-	▲ 24.1
期末在庫量	7.2	9.4	11.9	▲ 0.5	26.1
期末在庫率	6.1%	8.4%	10.0%	▲ 0.4	1.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	34.87	33.33	34.50	▲ 0.14	3.5
単収(t/ha)	3.33	3.40	3.50	-	2.9

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2024)

### 図 米国産大豆の生産量、収穫面積、単収の推移



資料: USDA「PS&D」(2024.7.12)をもとに農林水産省にて作成

### 図: 米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格 (FOB) の推移



資料: IGCのデータをもとに農林水産省にて作成。

## < ブラジル > 2024/25 年度の生産量は前年度より増加する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、本年10月以降作付けが開始される2024/25年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が史上最高となる見込みを受け、前年度より10.5%増の169.0百万トンと史上最高の見通し。エルニーニョ現象が収束し、ラニーニャ現象に移行する見込みもあり、収穫面積は増加する可能性もある。

CONABの月例報告(2024.7.11)によれば、2023/24年度の実産量は、とうもろこし等から収益性が高い大豆に作付けがシフトすることで収穫面積が増加するものの、生育初期の高温乾燥による単収減から前年度より4.7%減の147.3百万トンの見通し。6月中旬に収穫は完了。

5月上旬、南部のリオ・グランデ・ド・スール州において、多雨により洪水が発生した。リオ・グランデ・ド・スール州政府の機関EMATER/RSの報告(2024.6.4)によれば、同州での大豆の生産損失は2.7百万トンの見込み。CONABの月例報告(2024.7.11)によれば、同州の実産量は、洪水による被害状況を受けて、前月予測から0.5百万トン、洪水発生前の4月見通しから2.2百万トン下方修正されたものの、南部での干ばつの影響を受けた前年度より51.0%増の19.7百万トンの見込み。

【需要状況】USDAによれば、2024/25年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、引き続き堅調な搾油用需要から前年度より0.4%増の58.1百万トンとほぼ横ばいの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、増産による供給増を受けて価格競争力も高まる見込みから、前年度より1.9%増の105.0百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024年1～6月の輸出量は64.1百万トンで、前年同期(62.8百万トン)に比べ2.1%増となっており、中国向け輸出が昨年に引き続き堅調に推移していることが要因。輸出先は、中国(46.3百万トン)、スペイン(2.3百万トン)、トルコ(2.0百万トン)の順。大豆は輸出最盛期に入っている。

2023年6月、北部のマラニョン州イタキ港と南部のサンパウロ州サントス港を結ぶ南北鉄道が開通した。さらに、マット・グロソ州から南部サントス港まで輸送する鉄道の拡張工事も行われており、これらのアクセス改善が輸出のボトルネックを回避する一助になることが期待されている。

## 大豆—ブラジル

(単位:百万トン)

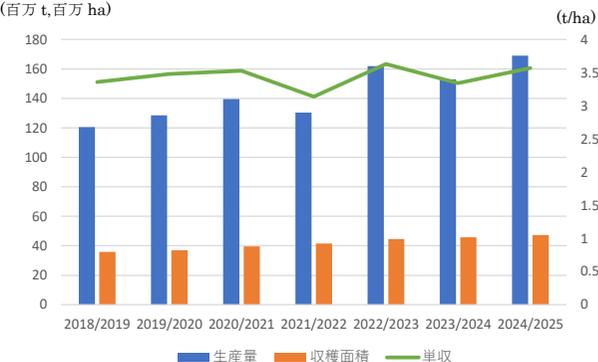
年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	162.0	153.0	169.0 (161.5)	-	10.5
消費量	57.2	57.9	58.1 (57.3)	-	0.4
うち搾油用	53.4	54.0	54.0 (54.3)	-	-
輸出量	95.5	103.0	105.0 (102.2)	-	1.9
輸入量	0.2	0.8	0.2 (0.5)	-	▲80.0
期末在庫量	36.8	29.7	35.8 (3.8)	▲0.8	20.4
期末在庫率	24.1%	18.5%	21.9% (2.4%)	▲0.5	3.5

(参考)

収穫面積(百万ha)	44.60	45.80	47.30 (41.49)	-	3.3
単収(t/ha)	3.63	3.34	3.57 (3.89)	-	6.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2024)  
IGC 「Grain Market Report」(27 June 2024)

図 ブラジル産大豆の生産量、収穫面積、単収の推移  
(百万t,百万ha)



資料: USDA 「PS&D」(2024.7.12)をもとに農林水産省にて作成。

### ブラジルのクロープカレンダー(中部から南部)

2023/24年度の実大豆の作付けは、2023年9月以降、順次開始。  
2024年2月以降、大豆の収穫が行われ、その後、一部の圃場で冬とうもろこしを栽培。

2023/24年度	2023年				2024年								
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
夏とうもろこし (リオ・グランデ・ド・スール州等)	作付 4.0(百万ha)				収穫 23.4(百万t) → 収穫夏冬作計 115.9百万t								
冬とうもろこし (マット・グロソ州、パラナ州等)	作付面積夏冬作計 20.9百万ha ←				作付 16.9(百万ha) → 収穫 92.4(百万t)								
大豆 (マット・グロソ州、パラナ州等)	作付 46.0(百万ha)				収穫 147.3(百万t)								

大豆収穫後の一部圃場で冬とうもろこし作付け

資料: CONAB穀物レポート(2024.7.11)

## < カナダ > 作付面積の増加により、生産量は0.2百万トン上方修正

【生育・生産状況】AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(2024.7.22)によれば、2024/25年度の実産量は、カナダ統計局の作付面積調査報告における作付面積の引上げを受けて前月予測から0.2百万トン上方修正され、前年度から2%増の7.1百万トンの見込み。大豆価格が低下しているものの、大豆粕需要と輸出は堅調であり、生産量は微増するとみられる。土壌水分量は現時点で十分とみられる。

カナダ統計局「Principal field crop areas, June 2024」(2024.6.27)によれば、作付面積は前年度より2.0%増の2.32百万ヘクタールと、過去5年平均を上回り、2018年以来の高水準の見通し。主要生産州において、とうもろこし等の他作物より価格が有利な大豆の作付けを増加させたとみられる。

なお、カナダの大豆生産は、小麦やなたねと異なり、東部のオンタリオ州が主産地で、生産量の半分以上のシェアがある。オンタリオ州に隣接するマニトバ州及びケベック州でも生産されている。オンタリオ州では作付期の終盤にあり、概ね出芽期から開花期を迎えている。

USDAによれば、7月上旬、温暖で降雨があり、生育に好影響を与えている。

【需要状況】AAFCによれば、2024/25年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用等の需要の減少により前年度から1.4%減の2.4百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】AAFCによれば、2024/25年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より2.0%増の5.0百万トンの見込み。主要な輸出先国である中国において、搾油用需要増に伴い、中国の輸入量が増加することが要因の一つとみられる。

カナダ穀物委員会によれば、2023/24年度(2023年8月～2024年7月)の2023年8月～2024年5月の輸出量は324.6万トンで、前年同期(310.8万トン)を上回っている。国別では、中国(143.9万トン)が40%以上のシェアを占め、次いでアルジェリア(54.9万トン)、イラン(54.6万トン)、イタリア(15.0万トン)の順となっている。

AAFCによれば、2024/25年度の期末在庫量は、生産量の上方修正を受けて前月予測から0.1百万トン上方修正され、増産により前年度から25.3%増の0.5百万トンの見込み。

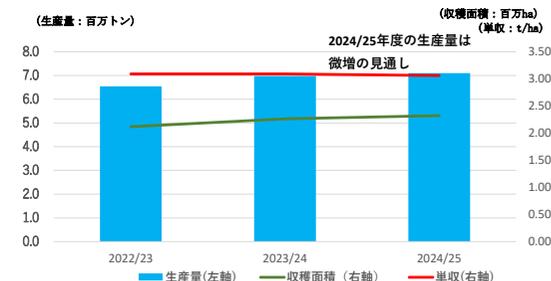
## 大豆－カナダ

(単位：百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年8月～25年7月)		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.5	7.0	6.9 (7.1)	0.2	▲1.2
消費量	2.7	2.8	2.8 (2.4)	0.1	-
うち搾油用	1.8	1.8	1.7 (1.9)	-	▲5.7
輸 出 量	4.2	4.7	4.3 (5.0)	-	▲7.5
輸 入 量	0.5	0.4	0.4 (0.5)	-	14.3
期末在庫量	0.4	0.3	0.6 (0.5)	-	83.1
期末在庫率	5.3%	4.1%	7.8% (7.0%)	▲0.1	3.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.12	2.26	2.30 (2.32)	0.10	1.8
単収(t/ha)	3.09	3.09	3.00 (3.06)	▲0.05	▲2.9

資料：USDA「PS&D」  
「World Agricultural Production」(12 July 2024)  
AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(22 July 2024)

## 図 カナダの直近3か年の生産量等の推移



資料：AAFC「Outlook for Principal Field Crops」  
(2024.7.22)をもとに農林水産省にて作成。

## 表 カナダ産大豆の輸出量と輸出先国

2023/24年度 (2023年8月～2024年5月)			2022/23年度 (2022年8月～2023年5月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
中国	143.9	44.3	中国	128.8	41.4
アルジェリア	54.9	16.9	イラン	49.0	15.8
イラン	54.6	16.8	アルジェリア	36.5	11.7
イタリア	15.0	4.6	イタリア	25.1	8.1
その他	56.2	17.3	その他	71.4	23.0
計	324.6	100.0	計	310.8	100.0

資料：カナダ穀物委員会のデータをもとに農林水産省にて作成。

## < 中国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度より減少する見込み

【生産・生育状況】USDAによれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、作付面積が増加（対前年度比 0.3%増）するものの、単収が平年並みに戻り減少（対前年度比 1.0%減）すると見込まれることから、前年度より 0.7%減の 20.7 百万トンとなるも、史上 2 番目の見込み。

なお、7 月上旬、主産地の東北部の黒竜江省等では三葉期を迎えている。USDAによれば、主産地の東北部の黒竜江省等では乾燥傾向になっているものの、大豆の水分状況は良好のままとみられる。

2 月 3 日に発表された中国共産党・國務院（内閣に相当）の中央一号文件には、引き続き大豆の作付け確保や単収の向上等の取組等について記載された。

【需要状況】USDAによれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、国内の畜産物需要増を受けて大豆粕需要が増加することから、前年度より 4.2%増の 126.8 百万トンと史上最高の見込み。ただし、業界情報によれば、直近では中国の経済成長が鈍化し、豚肉の価格が低迷する中、中国政府は 3 月から国内の養豚飼育数の生産目標を減らす供給過剰対策を開始しており、飼料用需要減少につながるとの見方もある。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、大豆粕需要増を受けて、前年度より 0.9%増の 109.0 百万トンと史上最高の見込み。

なお、USDAによれば、2023/24 年度の輸入量は、2024 年 6～9 月の輸入量が予想を上回る見込みを受けて、前月予測から 3.0 百万トン上方修正され、108.0 百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、2024 年 1～5 月の輸入量は、前年同期より 5.4%減の 3,737.0 万トン。内訳は、ブラジル（2,471.4 万トン）、米国（1,084.8 万トン）、カナダ（98.5 万トン）の順。なお、ブラジルと米国を合わせたシェアが 9 割以上を占めている。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2024 年 5 月号」によると、5 月の国内価格は、5,360 元/トンと前月並み。中国政府系企業による継続的な買付けで価格は安定している。

USDAによれば、2024/25 年度の期末在庫量は、2023/24 年度の輸入量の引上げにより前月予測から 3.0 百万トン上方修正され、輸入増を受けて、前年度より 7.1%増の 42.2 百万トンと史上最高の見込み。2024/25 年度の期末在庫率は、前年度より 2.4 ポイント増の 33.2%となる見込み。

## 大豆—中国

(単位: 百万トン)

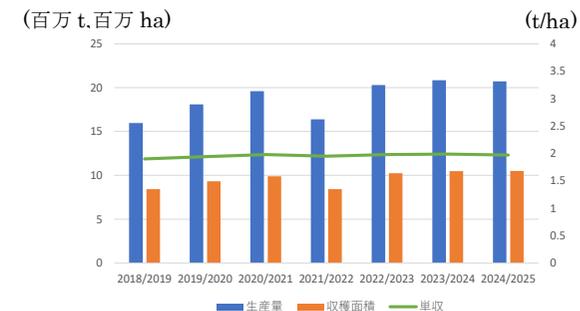
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	20.3	20.8	20.7 (20.5)	-	▲ 0.7
消費量	117.5	121.7	126.8 (126.9)	-	4.2
うち搾油用	96.0	99.0	103.0 (105.0)	-	4.0
輸出量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	-
輸入量	104.5	108.0	109.0 (105.3)	-	0.9
期末在庫量	32.3	39.4	42.2 (40.0)	3.0	7.1
期末在庫率	27.5%	32.3%	33.2% (31.5%)	2.4	0.9

(参考)

収穫面積(百万ha)	2022/23	2023/24	2024/25 (8.40)	-	0.3
単収(t/ha)	1.98	1.99	1.97 (1.95)	-	▲ 1.0

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2024)  
IGC 「Grain Market Report」(27 June 2024)

## 図 中国産大豆の生産量、収穫面積、単収の推移



## 表 中国の大豆輸入量と輸入先国

(輸入量: 万トン、シェア: %)

2024年 1～5 月			2023年 1月～2023年12月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	2471.4	66.1	ブラジル	6,993.0	70.7
米国	1084.8	29.0	米国	2,374.3	24.0
カナダ	98.5	2.6	アルゼンチン	199.2	2.0
			ロシア	146.6	1.5
			アルゼンチン	129.3	1.3
			ベナン	14.7	0.1
			南アフリカ	14.7	0.1
その他	9.8	0.3	その他	38.6	0.4
計	3,737.0	100	計	9,895.7	100

資料: 中国海関統計をもとに農林水産省で作成

## < アルゼンチン > 2024/25 年度の生産量は、前年度より増加する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、本年11月以降作付けが開始される2024/25年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、大豆の収益性が高まることで農家がとうもろこしから大豆へ作付けをシフトさせる見通しから、前年度から3.0%増の51.0百万トンの見込み。

ブエノスアイレス取引所週報（2024.7.3）によれば、7月3日現在、大豆の収穫は完了。

【需要状況】USDAによれば、2024/25年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、増産に伴い搾油量が增加することから、前年度比11.3%増の47.6百万トンの見込み。なお、アルゼンチンは、丸大豆の搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、世界有数の大豆油及び大豆粕の輸出国である。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の実輸入量は、前月予測からの変更はなく、国内生産量の増加に伴い輸入需要が減少することから、前年度より17.9%減の5.5百万トンの見込み。

2024/25年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より1.8%減の5.5百万トンとなるも、中国向け輸出が引き続き堅調に推移する見通し。

なお、2024年1～5月の輸出量は、前年度の干ばつによる減産からの回復を受けて174.5万トンで前年同期（60.2万トン）の約3倍。輸出先は、中国（155.2万トン）、チリ（2.6万トン）の順で、4月以降、中国向け輸出が急増している。

2023年12月10日に右派のミレイ政権が誕生した。同12日に経済相は通貨ペソの公式レートを現行の1ドル=350ペソから50%以上切り下げ、1ドル=800ペソにした。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、輸出税を設定している。2021年1月以降、輸出税を大豆に最大33%、大豆油及び大豆粕に31%を設定。ミレイ政権においても、輸出税は引き続き維持されている。

「OIL WORLD Weekly」（2024.6.28）によれば、アルゼンチンの農家が大豆を販売すれば政府は輸出税により外貨を獲得できるものの、輸出税の引き下げや更なる公式レートの切り下げを待ち、農家は大豆を売り惜しんでいる。報道情報によれば、ペソ安が進行する中、農家は次期作の生産資材を購入するため、ペソと異なり価値が下がらない大豆を保有しているとみられる。このような状況を背景とした農家の売り惜しみにより、丸大豆の輸出や国内の大豆粕加工会社への大豆供給が抑えられる可能性もある。

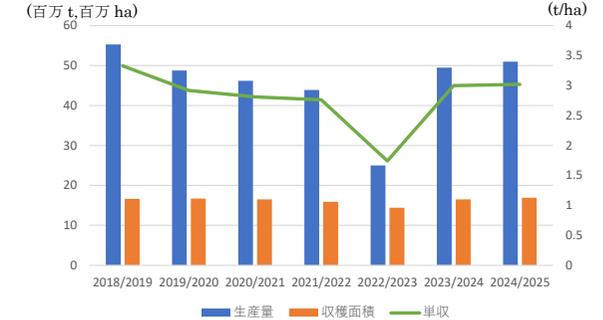
## 大豆—アルゼンチン

(単位：百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	25.0	49.5	51.0 (51.0)	-	3.0
消費量	36.6	42.8	47.6 (48.5)	-	11.3
うち搾油用	30.3	35.5	40.0 (42.0)	-	12.7
輸 出 量	4.2	5.6	5.5 (5.3)	-	▲ 1.8
輸 入 量	9.1	6.7	5.5 (5.4)	-	▲ 17.9
期末在庫量	17.0	24.9	28.3 (12.3)	▲ 1.3	13.7
期末在庫率	41.7%	51.4%	53.2% (22.8%)	▲ 2.4	1.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	14.40	16.50	16.90 (15.87)	-	2.4
単収(t/ha)	1.74	3.00	3.02 (3.21)	-	0.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2024)  
IGC「Grain Market Report」(27 June 2024)

### 図 アルゼンチン産大豆の生産量、収穫面積、単収の推移



資料：USDA「PS&D」(2024.7.12)をもとに農林水産省にて作成。

### 写真：北部サンタフェ州の大豆の貯蔵施設 (2024年6月26日撮影)



本圃場の大豆は、既に収穫が完了。当施設の貯蔵施設の容量は約5万トン。現在は大豆で容量に達しているため、入らなかった大豆の保管にはサイロバッグを利用している。

(参考1)本レポートに使用されている各国の市場年度について (2024/25年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	24年6月～25年5月	24年9月～25年8月	24年8月～25年7月	24年9月～25年8月
カナダ	24年8月～25年7月			24年8月～25年7月
豪州	24年10月～25年9月		25年3月～25年2月	
EU	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		
中国	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月
ロシア	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		24年9月～25年8月
ウクライナ	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		
ブラジル		25年3月～26年2月	25年4月～26年3月	24年10月～25年9月
アルゼンチン	24年12月～25年11月	25年3月～26年2月		24年10月～25年9月
タイ			25年1月～12月	
インド	24年4月～25年3月		24年10月～25年9月	
ベトナム			25年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。  
 例えば、2024/25年度は、米国の小麦では2024年6月～2025年5月、ブラジルのとうもろこしでは2025年3月～2026年2月です。  
 なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。  
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

(参考2)単位換算表

1 容積→重量

1 Bushel (ブッシェル) (穀物により異なる)	0.027216	メトリックトン	小麦、大豆	米国等
	0.021772	メトリックトン	大麦	
	0.025401	メトリックトン	とうもろこし	
	0.014515	メトリックトン	オーツ	
1 CWT(百ポンド)	0.045359	メトリックトン	コメ	米国等

2 面積

1Acre(エーカー)	0.40469	ヘクタール	米国等
1rai(ライ)	0.16	ヘクタール	タイ
1 亩(ムー)	0.0667	ヘクタール	中国

3 その他

1ガロン	4.536	リットル	英国
1ガロン	3.785	リットル	米国

1LAKH(ラーク)	10万	位取り	インド
------------	-----	-----	-----

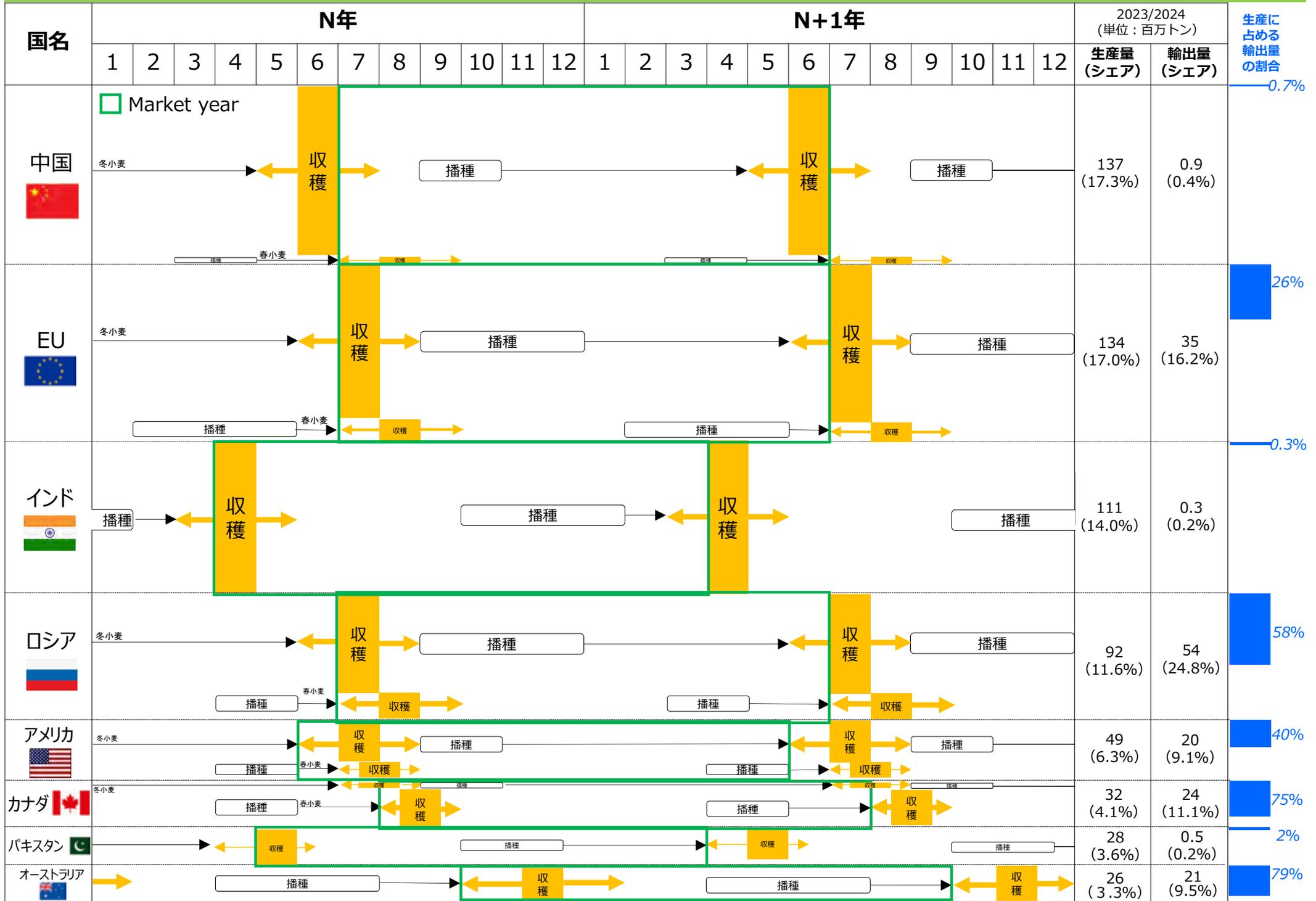
1斤	500g	重量	中国
----	------	----	----

華氏→摂氏 : °C = (° F - 32) ÷ 1.8			
-------------------------------	--	--	--

(参考3)各国のクロープカレンダー一覧(主要品目毎)

# 主要生産国のクロープカレンダー(小麦)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



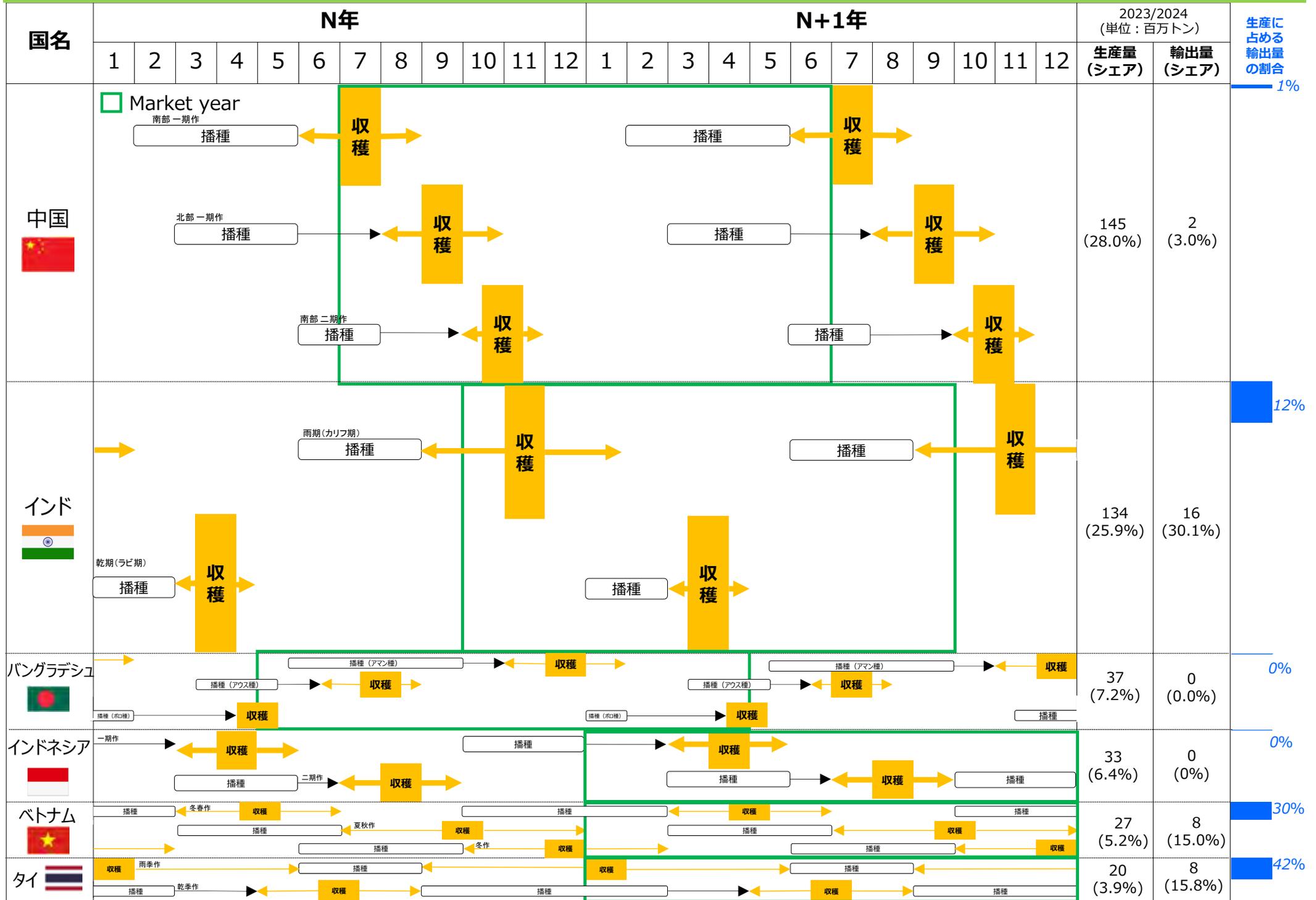
資料 : AMIS 「Supply and demand balances manual」, USDA 「PS&D」 (2024.5)

注 : シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。  
冬小麦と春小麦の収穫量の割合は便宜的にデュラム小麦は全て春小麦としている。

その他 :

# 主要生産国のクロープカレンダー(米)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料: AMIS 「Supply and demand balances manual」, USDA 「PS&D」 (2024.5) 注: シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。 その他: 122 (23.5%) 19 (36.1%)

# 主要生産国のクロープカレンダー(とうもろこし)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

国名	N年												N+1年												2023/2024 (単位:百万トン)		生産に占める 輸出量の割合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出量 (シェア)	
アメリカ 	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> <span style="border: 1px solid green; display: inline-block; width: 10px; height: 10px; margin-right: 5px;"></span> Market year                 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">                     播種 → 収穫                 </div> <div style="text-align: center;">                     播種 → 収穫                 </div> </div>												390 (31.7%)	55 (27.7%)	14%												
中国 	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">                     播種 → 春作 → 収穫                 </div> <div style="text-align: center;">                     播種 → 夏作 → 収穫                 </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">                     播種 → 収穫                 </div> <div style="text-align: center;">                     播種 → 収穫                 </div> </div>												289 (23.5%)	0 (0.0%)	0%												
ブラジル 	夏とうもろこし → 収穫 → 播種 → 収穫 → 播種 冬とうもろこし → 播種 → 収穫 → 播種 → 収穫 → 播種												122 (9.9%)	50 (25.3%)	41%												
EU 	播種 → 収穫 → 播種 → 収穫												61 (5.0%)	4 (2.1%)	7%												
アルゼンチン 	播種 → 収穫 → 播種 → 収穫 → 播種												53 (4.3%)	38 (19.3%)	72%												
インド 	乾期(ラビ期) → 播種 → 収穫 → 雨期(カリフ期) → 播種 → 収穫 → 播種 → 収穫 → 播種												38 (3.1%)	0.8 (0.4%)	2%												

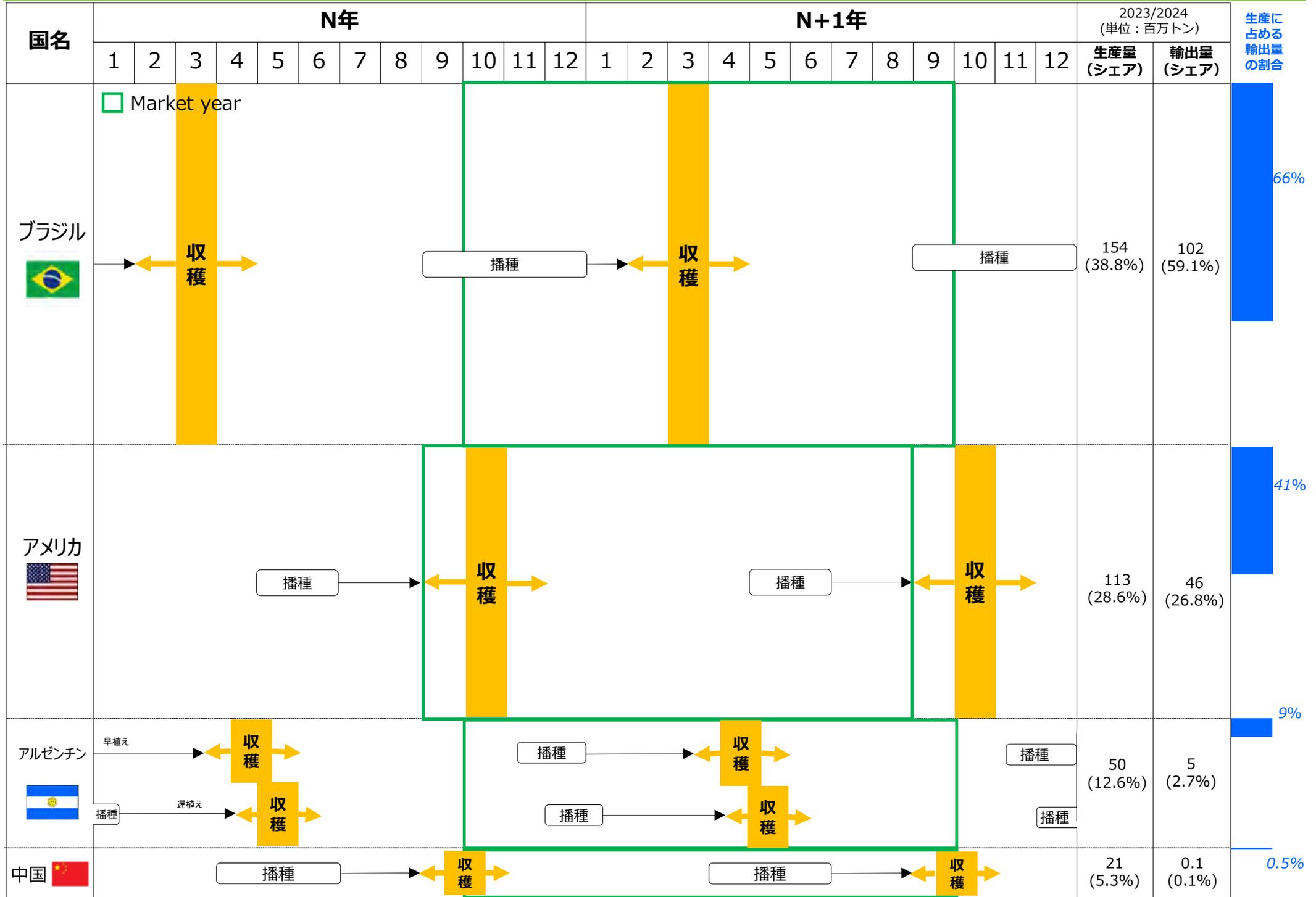
資料 : AMIS 「Supply and demand balances manual」, USDA 「PS&D」 (2024.5)

注 : シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。

その他 : 276 (22.5%) 50 (25.2%)

# 主要生産国のクロープカレンダー(大豆)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料: AMIS 「Supply and demand balances manual」, USDA 「PS&D」 (2024.5) 注: シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。 その他:

59 (14.8%)      20 (11.3%)

# 主要生産国のクロープカレンダー(菜種)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

国名	N年												N+1年												2023/2024 (単位：百万トン)		生産に占める 輸出量の割合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出量 (シェア)	
EU 	Market year						収穫	播種					収穫	播種					20 (22.6%)	0.6 (3.3%)	3%						
カナダ 						播種	収穫					播種	収穫					19 (21.3%)	7 (39.3%)	35%							
中国 	収穫						播種	収穫					播種					15 (17.4%)	0 (0%)	0%							
インド 	収穫						播種	収穫					播種					13 (14.1%)	0 (0%)	0%							
オーストラリア 						播種	収穫					播種	収穫					6 (6.4%)	5 (27.6%)	81%							
ウクライナ 	収穫		播種					播種	収穫					播種	収穫	播種					4 (5.0%)	3 (20.5%)	78%				
ロシア 						播種	収穫					播種	収穫					4 (4.8%)	0.8 (4.8%)	19%							

資料：AMIS「Supply and demand balances manual」, USDA「PS&D」(2024.5)

注：シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している

その他：7 (8.4%) 0.7 (4.5%)

## 【利用上の注意】

食料安全保障月報は、国際穀物需給に関し、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC等）の公表資料、Oil World等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

### ○ 本月報に記載のない情報は以下を参照願います。

#### (1) 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

- ・食料需給表：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
- ・食品の価格動向：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/ampo/kouri/index.html>
- ・米に関するマンスリーレポート：<http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

- ・食料需給見通し（農林水産政策研究所）：<http://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

#### (2) 農林水産関係機関の情報（ALICの情報サイト）：<https://www.alic.go.jp/>

- ・砂糖、でんぷん：<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>
- ・野菜：<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>
- ・畜産物：<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

#### (3) その他海外の機関（英語及び各国語となります）

ア 国際機関

- ・国連食糧農業機関（FAO）：<https://www.fao.org/home/en>
- ・国際穀物理事会（IGC）：<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・経済協力開発機構（OECD）（農業分野）：<https://www.oecd.org/agriculture/>
- ・農業市場情報システム（AMIS）：<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関（代表的なものです）

- ・米国農務省（USDA）：<https://www.usda.gov/>
- ・ブラジル食料供給公社（CONAB）：<https://www.conab.gov.br/>
- ・カナダ農務農産食品省（AAFC）：<https://agriculture.canada.ca/en/sector/crops/reports-statistics>
- ・豪州農業資源経済科学局（ABARES）：<http://www.agriculture.gov.au/abares>

### ○ 食料安全保障月報で使用している統計数値は、主に米国農務省が2024年7月中旬までに発表した情報を引用しています。（最新年度2024/25年度です）

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

[http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY\\_REPORTS](http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS)

## 主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されます**ので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。  
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。  
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>  
(注：同サイトの「Reference Data」を参照)
- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差になります。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「食料安全保障月報」）を併記願います。

なお、生産見通し等の予測は、各国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

ロシアが占領しているウクライナのクリミアの生産量については、米国農務省はウクライナとして集計しています。

- 本月報の電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 食料安全保障月報

[http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j\\_rep/index.html](http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html)

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

<p><b>連絡先</b>      <b>農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室</b> <b>TEL : 03-6744-2368 (直通)</b></p>
--

## 「食料安全保障月報」に関するアンケート

いつも食料安全保障月報（以下、「月報」）を御愛読いただきありがとうございます。  
今後のより良い月報の作成に生かすため、皆様の声を是非お聞かせください。

- 1 あなたの所属を教えてください。（選択式）  
商社、食品・飼料メーカー、食品卸・小売業、調査会社、自治体、大学・研究機関、大  
学生・高校生、その他
- 2 あなたの所属する会社・組織が所在する地域を教えてください。（選択式）  
北海道、東北、関東（東京以外）、東京、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄、海外  
その他
- 3 月報をどこで知りましたか。（選択式）  
口コミ、以前から（海外食料需給レポート時代から）、検索エンジン、農水省 HP、  
書籍、その他
- 4 月報を書籍で知った場合、その書名が分かれば教えてください。
- 5 月報で一番関心／参考にしている項目は何ですか。（複数選択可）  
概要編（今月の主な動き（穀物等の国際価格の動向）、今月の注目情報、今月のコラム、  
その他）  
品目別需給編（小麦、とうもろこし、コメ、油糧種子（大豆））  
特別分析トピック
- 6 今後重点的に取り上げてほしいテーマは何ですか。（自由記載）  
テーマ例：世界的な異常気象（干ばつ、洪水など）の穀物生産への影響  
地域別の穀物需給動向（米国、南米、豪州、東南アジア等）  
ウクライナ情勢の生産・貿易への影響  
中国の需要・輸入動向  
世界的な人口増加による食料需要・貿易への影響  
中長期（10年先）、超長期（30年先）的な食料需給見通し
- 7 今後月報に期待することはありますか。（自由記載）

ご回答は以下 URL または右の QR コードよりアクセス願います。

[https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/anpo/anpo\\_geppou\\_ankeeto.html](https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/anpo/anpo_geppou_ankeeto.html)

